DiMAGE Z2

J 使用説明書

目次

応用撮影編/動画撮影編（続き）

再生編

静止画や動画の再生（撮った画像/動画を画面で見る）について説明しています。またメニュー設定で、画像をまとめて消去したり、一定間隔で自動再生させたり、画像のコピーやEメール添付用画像の作成も行なえます。

プリンタで印刷編・その他......... 188

カメラを付属のUSBケーブルでプリンタに接続し、カメラ内の画像を印刷する方法について説明しています。また、取り扱い上の注意や、手入れと保管のしかたなどについても説明しています。

(右上に続く)

プリンタで印刷編・その他(続き)

(左下からの続き)

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

⚠警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。**
- **表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。**
- **電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。**
- **新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。**
- **アルカリ電池は充電しないでください。**
- **充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。**
- **万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。**

⚠警告

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。

表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。

内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。

フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。

幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。

目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

⚠警告

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

ACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、アダプタ本体を持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

⚠警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
カメラの電源を切ると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

⚠注意

ACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。

電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。

熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプタが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

火災や感電の原因となります。

ACアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。

故障や火災の原因となります。

このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーの使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障の補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。

ディマージュ Z2は、軽量・コンパクトなボディに光学10倍ズームレンズを搭載した、有効画素数約400万画素のデジタルカメラです。ユニークなスイッチファインダーを採用。快適レスポンスの高速ジェットAFに加えて、動く被写体にもしっかりピントを合わせる動体予測フォーカス制御機能を搭載、決定的瞬間を逃しません。3cmまで近付いて撮れるスーパーマクロ、過去にさかのぼって画像を記録するシャッターチャンス連続撮影、テレビやムービー並の高画質な動画撮影が可能なハイグレードムービー、撮影した動画から不要部分をカットする動画編集機能など豊富な機能をもちながら、大きく操作しやすいボタンや大きい文字で見やすいボディ表記、ホールディング感のよいグリップで、操作も簡単です。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- カメラ本体（DiMAGE Z2）
- 単3形アルカリ乾電池 4本
- ネックストラップ　NS-DG6000
- USBケーブル　USB-500
- AVケーブル　AVC-400
- DiMAGE Viewer CD-ROM
- 16MB SDメモリーカード
- レンズキャップ　LF-242A
- シューキャップ　SC-1000
- 本体使用説明書
- DiMAGE Viewer 使用説明書（ソフトウェア DiMAGE Viewer 用）
- VideoImpression 2 CD-ROM（Windows®版のみ）
- アフターサービスのご案内
- コニカミノルタからのお知らせ
- 保証書

ユーザー登録について

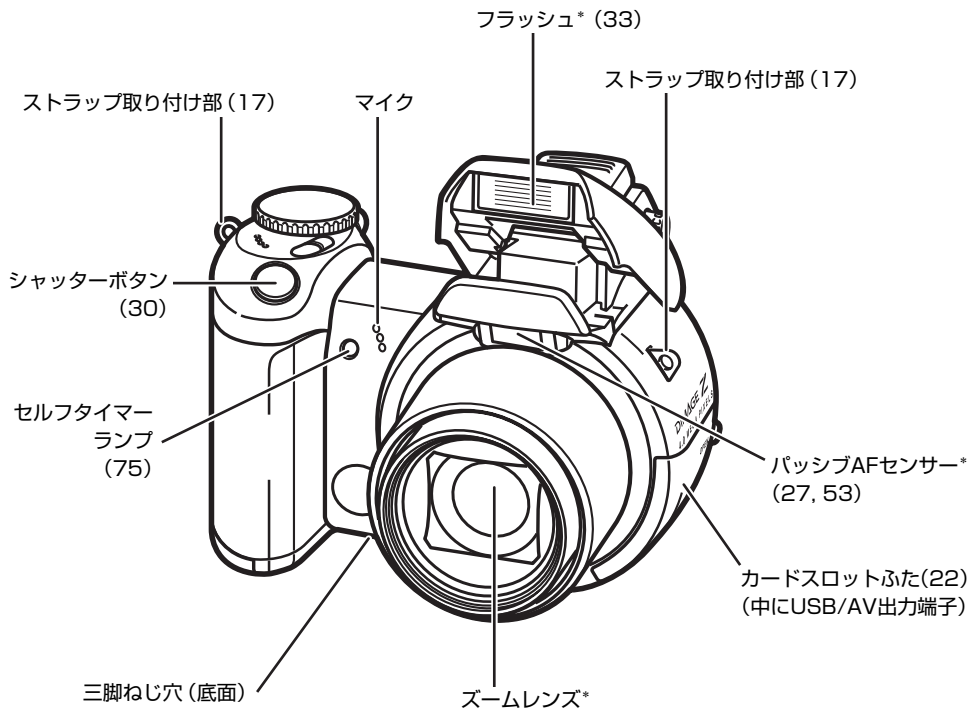
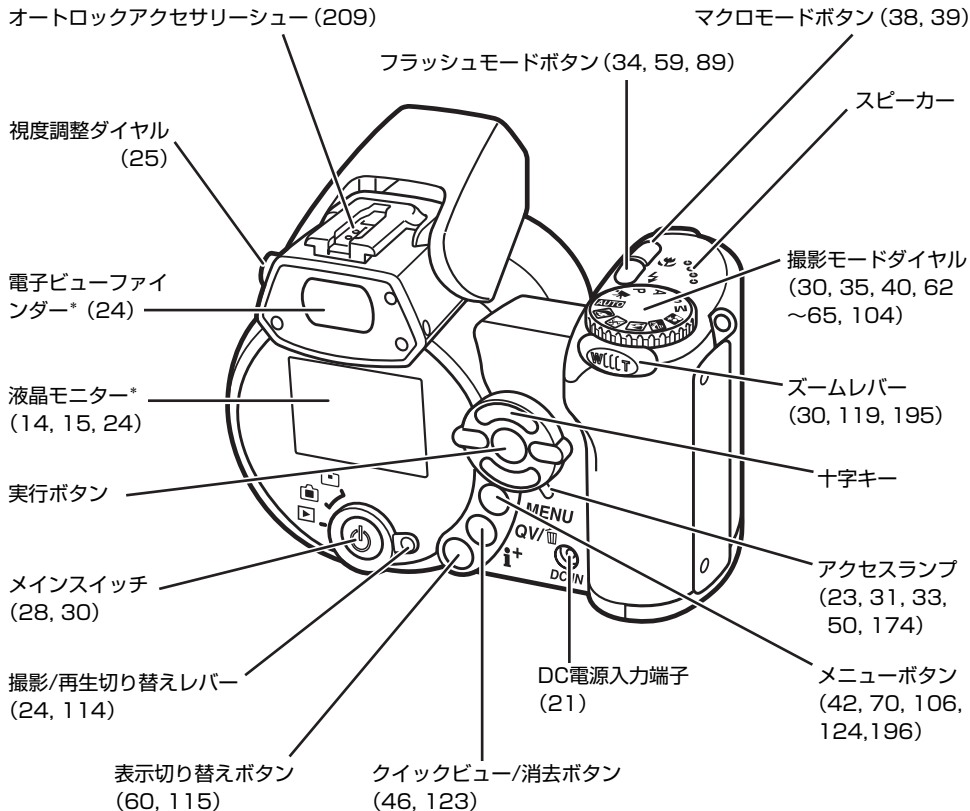
本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンラインユーザー登録を行っていただけます。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

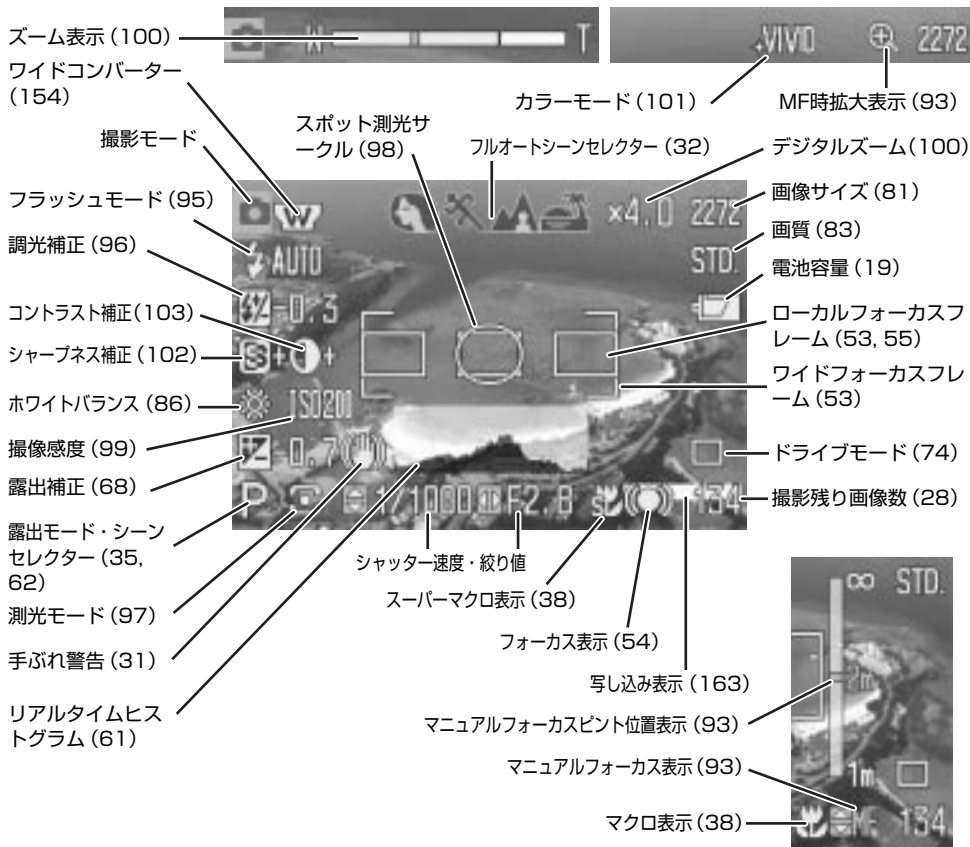
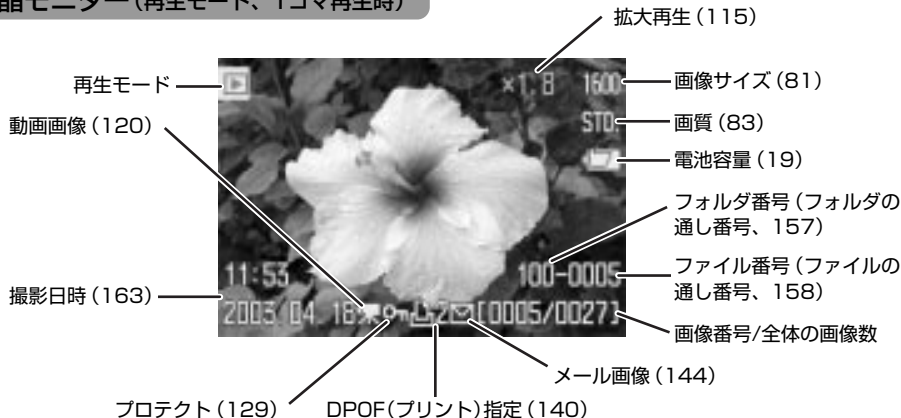
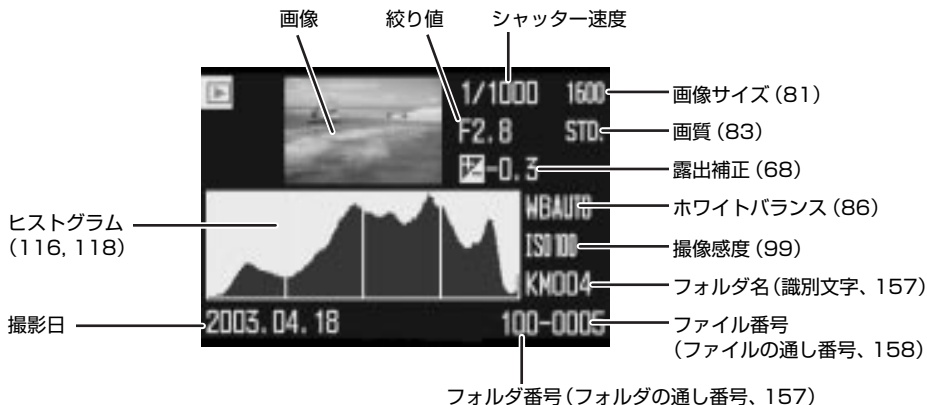
ボディ前面

ボディ背面

オートロックアクセサリーシュー（209）
マクロモードボタン（38, 39）
フラッシュモードボタン（34, 59, 89）
スピーカー
視度調整ダイヤル
（25）
撮影モードダイヤル
（30, 35, 40, 62
～65, 104）
電子ビューファイ
ンダー*（24）
ズームレバー
（30, 119, 195）
液晶モニター*
（14, 15, 24）
十字キー
実行ボタン
MENU
QV/
DC IN
AUTO
アクセスランプ
（23, 31, 33,
50, 174）
メインスイッチ
（28, 30）
撮影/再生切り替えレバー
（24, 114）
DC電源入力端子
（21）
メニューボタン
（42, 70, 106,
124,196）
表示切り替えボタン
（60, 115）
クイックビュー/消去ボタン
（46, 123）

液晶モニター(撮影モード時)

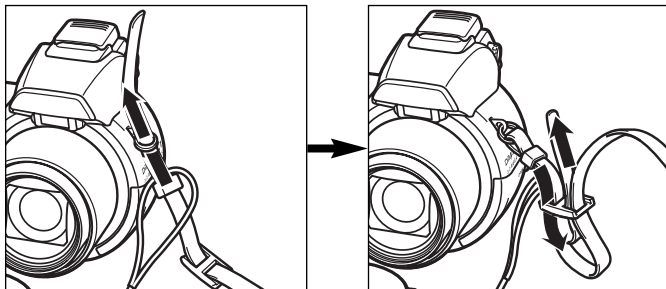
※説明のためすべての表示を点灯させています。
※ファインダー表示の内容は液晶モニターと同じです。

液晶モニター（再生モード、1コマ再生時）

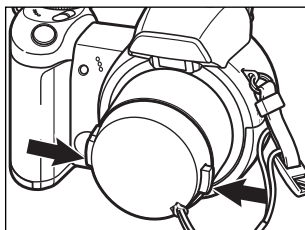
拡大再生（115）
再生モード
画像サイズ（81）
動画画像（120）
画質（83）
電池容量（19）
フォルダ番号（フォルダの通し番号、157）
ファイル番号（ファイルの通し番号、158）
撮影日時（163）
画像番号/全体の画像数
メール画像（144）
プロテクト（129）
DPOF（プリント）指定（140）

液晶モニター（再生モード、ヒストグラム表示）

準備編

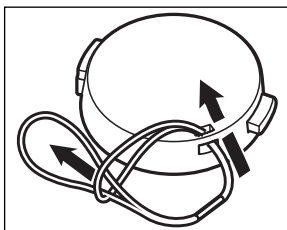
実際にカメラをお使いいただく前の準備や、知っておいていただきたいことについて説明しています。

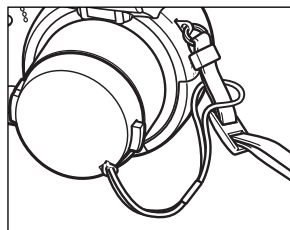
ストラップとレンズキャップ

ストラップを取り付ける

ストラップの先端を取り付け部の輪に通し、図のように取り付けます。

- 反対側も同様に取り付けてください。

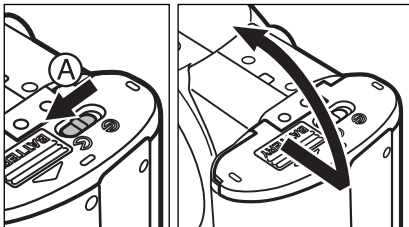
レンズキャップ

キャップ両横のつまみを図の矢印の方向につまんで取り付け、または、取り外します。

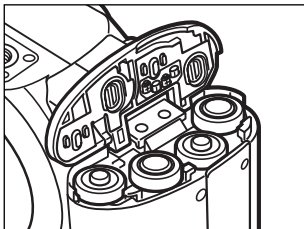
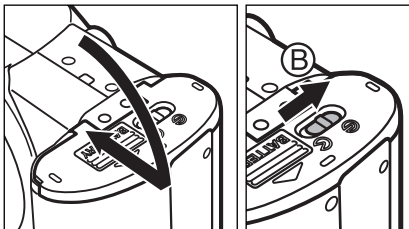
- 撮影後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。

レンズキャップは、紛失防止のため、付属のひもを上図 左のように取り付け、輪の部分をストラップに通しておく(上図 右)ことをおすすめします。

- ひもは、使用説明書などが入っている袋に入っています。

電池を入れる

このカメラは、単3形アルカリ乾電池、または、単3形ニッケル水素電池のいずれかを４本 使用します。

- ニッケル水素電池は、指定の充電器でフル充電してからお使いください。
- 上記以外の電池、および、2004年2月以降に新しく発売された電池については、弊社までお問い合わせください。
- マンガン電池はこのカメラでは使用しないでください。

電池を入れる

1. 電池室ふたロックをAの方向にスライドさせます。

2. 電池室ふたを、矢印の方向にスライドさせて開きます。

3. 電池室ふた裏の＋/ー表示にしたがって電池を入れます。

4. 電池室ふたを閉め、矢印の方向にスライドさせます。

- 確実に閉まるまでスライドさせてください。

5. 電池室ふたロックをBの方向にスライドさせます。

「日付/時刻を設定してください」のメッセージが出たときは

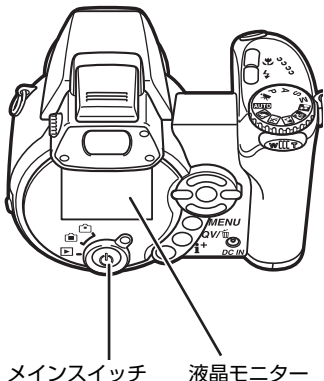
日時の設定が失われています。このようなメッセージが現れたら、日時を再設定してください。[はい] を選んで十字キー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面が現れます → P. 162

電池容量の確認

メインスイッチを押してカメラの電源を入れると、電池の容量が画面に表示されます。

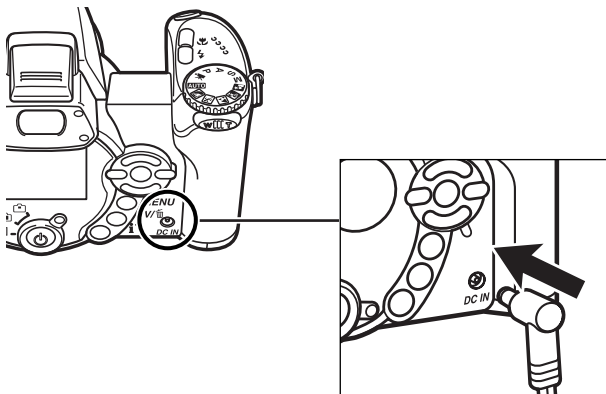
液晶モニター表示	電池容量
白色点灯（約3秒間）	電池容量は十分です。
白色点灯（約3秒間）	電池容量が少なくなりました。 ● 節電のため、フラッシュ充電中および発光直後は液晶モニターが消灯します。
赤色点灯	電池の交換をおすすめします。 ● この状態でもまだ撮影はできます。 ● 節電のため、フラッシュ充電中および発光直後は液晶モニターが消灯します。
電池がなくなりました	新しい電池と交換してください。 シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池の向き（＋/－）を確認してください。
- 長時間の撮影や再生には、別売のACアダプターAC-1Lの使用をおすすめします。→ 21ページ
- 赤色 点灯時は、UHS連続撮影、シャッターチャンス連写、シャッターチャンスUHS連写、動画撮影はできません。
- 電池容量がなくなったとき（上の表の一番下）は、その電池は再使用せず、すみやかに新しい電池と交換してください。

パワーセーブ、オートパワーオフ

このカメラは、約1分以上何も操作をしないでいると、節電のため低消費電力状態になります（パワーセーブ）。また約30分以上何も操作をしないでいると、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ）。

- パワーセーブまでの時間（初期設定は1分）は変更することができます。→ P.153
- パワーセーブまでの時間に関係なく、約1分間何も操作しないでいると、自動的に液晶モニターが消灯します。
- パワーセーブから撮影を再開するには、シャッターボタンを軽く押すなど何らかの操作を行なってください。
- オートパワーオフから撮影を再開するには、再度メインスイッチを押して電源を入れ直してください。

ACアダプター AC-1L（別売）

屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプター AC-1Lを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

接続のしかた

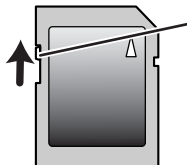
1. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。
2. DC電源入力端子にACアダプターのプラグを接続します（上図）。
3. ACアダプターの電源プラグをコンセントに差し込みます。

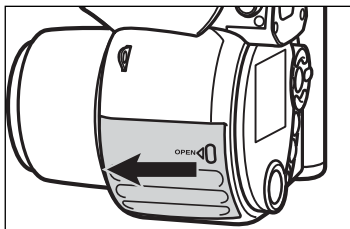
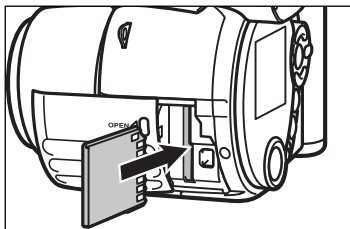
取り外し方

1. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。
2. ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。
3. DC電源入力端子からACアダプターのプラグを外します。

カードを入れる

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いいただけます。

ライトプロテクトスイッチ

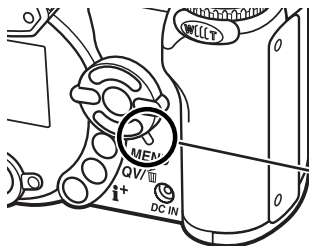
- SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、書き込みが禁止されてカード内の画像等を保護することができます。撮影する際には、スイッチを上に上げてください。

1. カードスロットふたを図の方向にスライドして開きます。

2. カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面（液晶モニター）側に向け、ラベル上の▲マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

- 中央をまっすぐに押し込みます。カードの端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

3. ふたを元通り閉めます。

- 閉まらない場合は、下記の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

- カードを入れないまま撮影しようとすると、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。（この状態でもシャッターは切れますが、画像は撮影されません。撮影時はかならずカメラにカードを入れてください。）
- マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。
- マルチメディアカード使用時に、液晶モニターに「- - -」が現れたり、「このカードは使えません」というメッセージが表示される場合は、カードの上下や裏表を逆に入れていないかを確認してください。

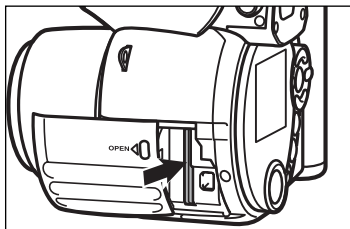
取り出し方

アクセスランプ

アクセスランプが赤く点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

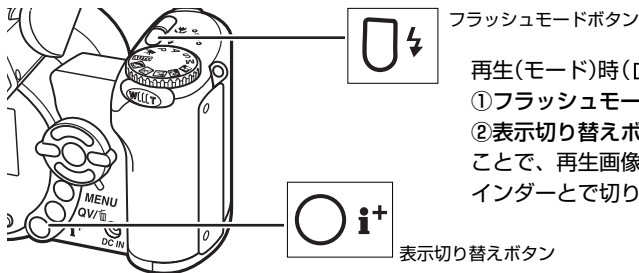
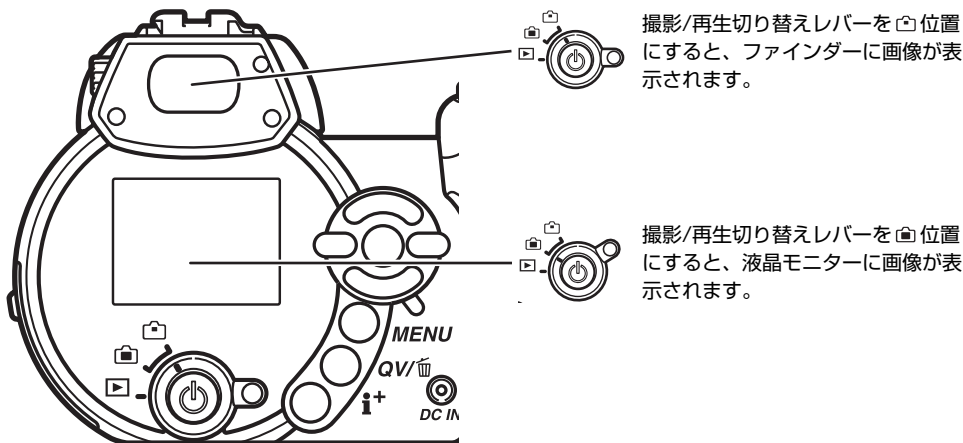
1. カメラの電源が切れていることを確認後、左ページカードの入れ方の手順1.と同じ要領で、カードスロットふたを開きます。

2. カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

- ロックが外れ、カードが少し出てきます。

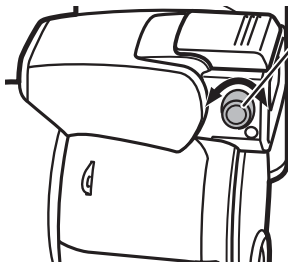
3. カードを取り出し、ふたを元通り閉めます。

スイッチファインダー

このカメラは、液晶モニター表示と電子ビューファインダー（以後 “ファインダー” と表記します）表示を1つの表示装置で兼用して、スイッチで切り替える機構（スイッチファインダー）を採用しています。液晶モニターに表示される内容（画像）とファインダーのそれとは常に同じものです。

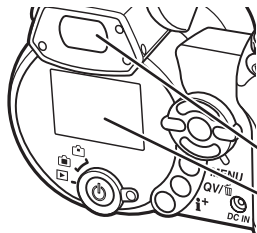
● 液晶モニターとファインダーとを同時に表示させることはできません。

ファインダーの視度調整

近視等によりファインダーの像がはっきり見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

● ファインダーのみに有効です。液晶モニターの像には影響しません。

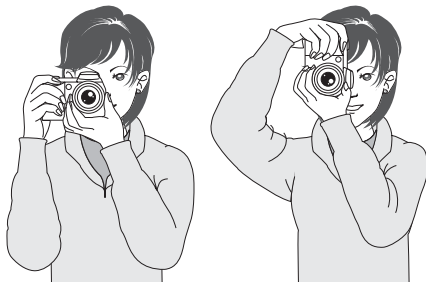
1. 撮影/再生切り替えレバーを 位置にしてカメラの電源を入れ、ファインダーに画像や数値、絵記号などを表示させます。

2. ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきりと見えるように、視度調整ダイヤルを回します。

このカメラはモニターを常に見やすくするために、被写体の輝度に応じて絞りのサイズを自動的に変化させています。その際に作動音が発生しますが、これは故障ではありません。

カメラを構える

撮影される画像は、ファインダー（撮影/再生切り替えレバー 位置時）、または、液晶モニター（撮影/再生切り替えレバー 位置時）に表示されます。カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

ファインダー

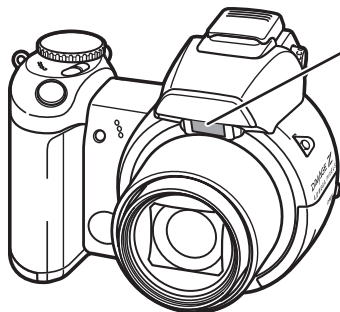
液晶モニター

ファインダーを見て撮影する

ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏みだし、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついても効果があります。
- カメラ縦位置で構えるときは、（左手の親指で）パッシブAFセンサーを覆わないよう注意してください。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

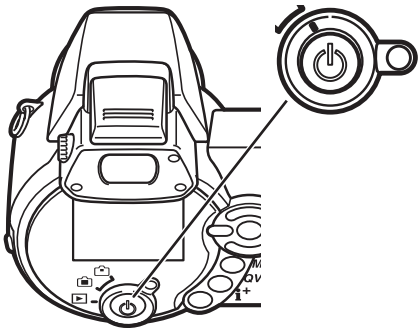
液晶モニターを見て撮影する

基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

パッシブAFセンサーについて

パッシブAFセンサー

このカメラは、AF（オートフォーカス）の性能を向上させるため、パッシブAFセンサーを搭載しています。
カメラを構えるときには、指やストラップ等でこのパッシブAFセンサーを覆ってしまわないようにしてください。

特にカメラ縦位置で構える際は、レンズを持つ左手の親指がこのセンサーの近くに来ますので、注意が必要です。

撮影できる画像数

カードを入れ、メインスイッチを押してカメラの電源を入れると、画面右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量や、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として、付属の16MBのSDメモリーカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約14枚です（画像サイズ2272×1704、画質スタンダード時）。

- 画像サイズ･画質を変更した場合、また動画を撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.84、85

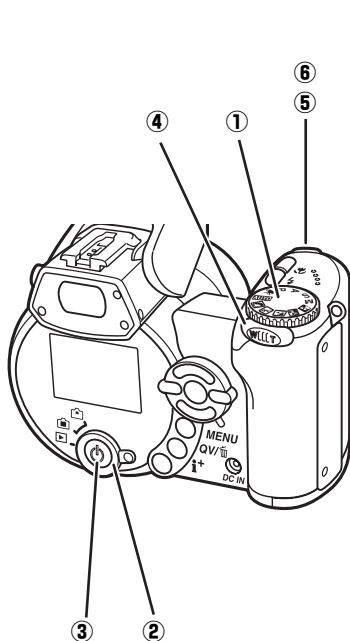
- 液晶モニターに赤色で000が表示されたときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。

- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

基本編

基本編をお読みいただければ、撮影（撮る）──再生（見る）──PC（パソコンとつないで画像を取り込む）の一連の操作について、一通りお使いいただけるよう、基本的な使い方に絞って説明してあります。
このカメラを初めてお使いになる場合や、とりあえず使ってみたいという方も、この基本編だけはお読みください。

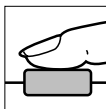
フルオートで撮ってみましょう

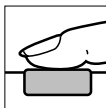
すべての設定をカメラまかせのフルオート（全自動）で気軽に撮影しましょう。

①ダイヤルを AUTO に合わせます。

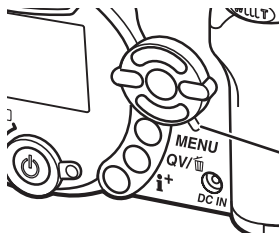
②レバーを または に合わせます。

③メインスイッチを押します。

④ズームレバーで写したいものの大きさを決めます。

- レバーを右（T側）へ動かすと大きく写り、左（W側）へ動かすと広い範囲が写ります。

⑤写したいものに［　　］を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。
- フルオートシーンセレクター機能が働いて、シーンを選択します。→ P.32

⑥ピントが合ったら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- ピントが合うと、画面右下に白い ○（フォーカス表示）が点灯します。

● 撮影された画像が自動的にカードに記録（保存）されます。書き込み中はアクセスランプが赤色ですばやく点滅しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

● カメラから、ズーム広角側で約50㎝以上、望遠側で2㍍以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、スーパーマクロ撮影、または、マクロ撮影を行なってください。→ P.38、39
● 撮影後シャッターボタンから指を離さずにそのまま押し続けていると、押している間撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

※撮影後常に一定の間表示させるには → アフタービュー（P.153）

● シャッターボタンを半押ししたときに現れる表示の意味は以下の通りです。

液晶モニター下部	状況
白色 ○ 点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
赤色 ● 点灯	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています。撮影はできます。
	シャッター速度が遅くなっています。 手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

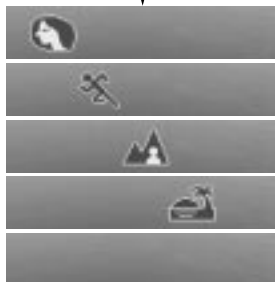
● 撮影後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

ピント合わせの詳細については ☞ 53ページ

近くのものを撮るには ☞ 38、39ページ

撮影モードダイヤル AUTO 位置では、画面の上側に撮影場面を表す絵表示が並びます。そのまま撮影すると、カメラが撮影場面を判断し、自動的にその場にふさわしい設定が行われます（フルオートシーンセレクター）。

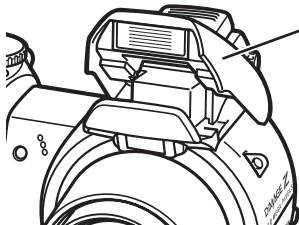
- フルオートシーンセレクターの機能が働かないようにすることもできます。→ 44ページ
- 撮影者が自分で目的のシーンを選ぶこともできます。→ 35ページ

フルオートシーンセレクター

シャッターボタンを半押しすると、レンズの焦点距離や被写体までの距離などからカメラが撮影場面を判断し、その場面にふさわしい設定が自動的に行われます。

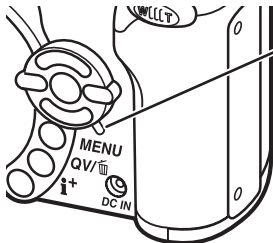
- 半押しすると、カメラが選んだ場面が液晶モニターに表示されます。
- どの場面にも当てはまらなかった場合は、何も表示されず、スナップ撮影（通常のプログラム撮影）になります。

フラッシュの光り方を変えるには ☞ 34ページ

フラッシュを発光させないようにするには ☞ 33ページ

フラッシュを使ってみましょう

フラッシュを使うときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュ充電中はアクセスランプがすばやくオレンジ色で点滅します。

充電が完了すると、アクセスランプの点滅が止まります。充電が完了するのを待って撮影してください。

フラッシュ光が撮りたいものに届いたときは、撮影後、画面左上に OK が点灯します。

※届く距離は → 次ページ

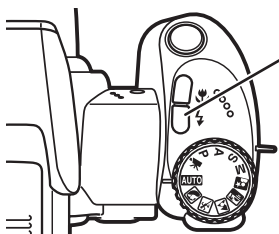
● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では6.0メートル、最望遠側では4.5メートルを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離も変わります。→ P.99

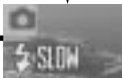
夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

フラッシュの光り方を変えるには

内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。

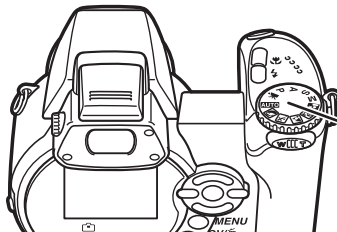
フラッシュモードボタンを押すごとに、次の順序でフラッシュの光り方が変わります。

暗いときなど必要なとき自動的に光ります。（自動発光）

人の目が赤く写るのを和らげます。必要なとき自動的に光ります。（赤目軽減自動発光）

必ず光ります。（強制発光）

夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります（スローシンクロ）。

シーンセレクターを使ってみましょう

目的のシーンを選ぶ

撮影者が自分で目的の撮影シーンを選ぶことができます。ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景の5つのシーンから選べます。

撮影モードダイヤルを回して、撮影したい画面の絵表示を選びます。

● 液晶モニター左下にも同じ絵表示が現れます。

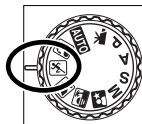
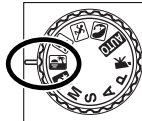
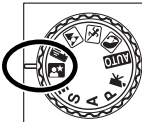
ポートレート

スポーツ

風景

夕景

夜景ポートレート・夜景

● 選んだ撮影シーンに応じてカメラの設定が自動的に行われます。そのため、選んだシーンによっては撮影者が設定を変更できない機能があります。

ポートレート

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

● 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいように、またやや遠いところにある被写体をくっきりと描写します。

● このモードでは、動く被写体にピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押ししなくても常にピント位置が調整され続けます(フルタイムAF、→ P.94)。またシャッターボタンを半押しすると動いているものにピントを合わせ続けます(コンティニュアスAF、→ P.91)。フォーカスロック(→ P.56)されません。

● フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを押し下げて、フラッシュが光らないようにしてください。
※フラッシュ光の届く距離 → P.34

風景

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

● フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。

● 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなります。液晶モニターに((🖐)) が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

夕景

夕焼けの赤さを美しく描写することができます。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD(撮像素子)を傷める原因となります。やむを得ず置く場合はレンズキャップを取り付けてください。

夜景ポートレート・夜景

黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。夜景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夜景のみの場合は、フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

近づいて大きく撮ってみましょう(スーパーマクロ・マクロ)

このカメラは、ズーム広角(W)側では50㎝まで、ズーム望遠(T)側では2㍍まで近づいて撮ることができます。スーパーマクロモードやマクロモードにすると、さらに近づいて大きく撮ることができます。

● 38ページ、39ページに記載の撮影距離は、いずれも鏡胴先端からの値です。

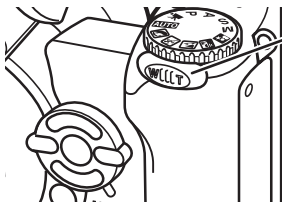
マクロモードボタンを押すごとに、以下の順でマクロ機能が切り替わります。

マクロモード

スーパーマクロモード

マクロ機能解除

マクロモード

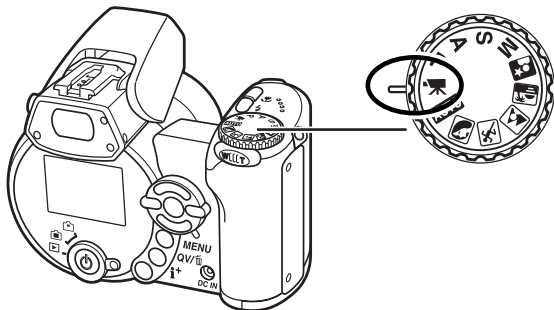
ズーム広角(W)側では7㎝まで、ズーム望遠(T)側では1.2㍍まで近づいて撮ることができます。
ズーム広角(W)側で横8.9㎝×縦6.5㎝のものを、ズーム望遠(T)側で横13.8㎝×縦10.3㎝のものを、それぞれほぼ画面いっぱいに撮ることができます。

● ズーム広角(W)側で7㎝～1㍍のものに、ズーム望遠(T)側で1.2㍍～2.5㍍のものに、ピントが合います。

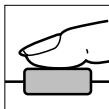
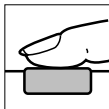
スーパーマクロモード

3㎝まで近づいて撮ることができます。横39㎜×縦28㎜のものをほぼ画面いっぱいに撮ることができます。

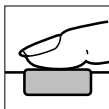
● レンズが11.1㎜(35㎜換算で67.8㎜)位置まで自動でズームし、そこで固定されます。
● 3㎝～1㍍のものにピントが合います。

動画(ムービー)を撮ってみましょう

カードの容量がなくなるまで連続して動画撮影ができます。
画像サイズやフレームレート、光学ズームのあり/なし、動画撮影中のAFあり/なしは、メニュー画面で変更できます。詳しくは → P.106～

1. 撮影モードダイヤルを に合わせます。

● 液晶モニター画面右上に画像サイズとフレームレート、右下に撮影可能な残り時間の目安が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合うと、画面右下に白い ○(フォーカス表示)が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで動画撮影を開始します。

● 撮影中は ●Rec が表示され、残り時間が減っていきます。

4. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

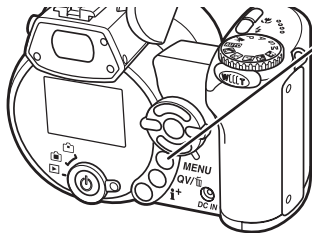
● 残り時間が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

●カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。
●電池の容量が少ないとき(画面に赤色の[電池マーク]が点灯している場合)は、動画撮影はできません。

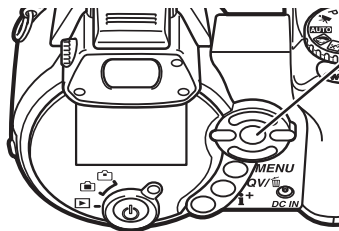
●撮影した動画は、再生モード(▶)で十字キー中央の実行ボタンを押すと再生されます。

十字キー中央の実行ボタンで再生

●再生中の動画の1コマを静止画像として(切り出して)保存することができます。詳細は → P.121
●撮影した動画の不要な部分をカットすることができます。詳細は → P.131

メニューで設定を変えてみましょう

撮影モードダイヤル AUTO 位置でメニューボタンを押すと、以下のメニュー画面が現れます。

1	SETUP
ドライブモード	1コマ撮影
画像サイズ	2272×1704
画質	スタンダード
オートシーンセレクター	ON
デジタルズーム	なし
	MENU

メニュー設定のしかた

メニューの設定は、上下左右のキーと中央の実行ボタンで行ないます。

1. 上下のキーで、項目(メニュー画面の左側に表示されているもの)の中から設定したいものを選びます。

2. 右のキーを押します。選ぶことのできる内容一覧が現れます。

3. 上下のキーで、内容一覧から設定したいものを選びます。

4. 中央の実行キーを押して決定します。

5. メニューボタンを押してメニュー画面を閉じます。

メニューで設定を変えてみましょう(続き)

撮影モードダイヤルが AUTO 位置のときの設定内容一覧は、以下の通りです。 [網掛け] は初期設定(このカメラをご購入後初めてお使いになる際にあらかじめ選ばれているもの)です。

ドライブモード	1コマ撮影
	セルフタイマー
	連続撮影
	シャッターチャンス連写
	ブラケット撮影

通常の「**1コマ撮影**」、撮影者も一緒に写れる「**セルフタイマー**」、シャッターボタンを押している間続けて撮れる「**連続撮影**」、シャッターボタンを押している間連続して撮影を続け、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録する「**シャッターチャンス連写**」、露出をずらしながら3コマ続けて撮る「**ブラケット撮影**」が選べます。

☞ 詳しくは74ページ

画像サイズ	2272×1704
	1600×1200
	1280×960
	640×480

パソコンに取り込んで編集したり大きくプリントしたいときに適した「**2272×1704**」から、Eメール添付用やインターネットのホームページ用の画像として最適な「**640×480**」まで、4通りのサイズを選べます。

☞ 詳しくは81ページ

画質	ファイン
	スタンダード
	エコノミー

圧縮率がもっとも小さく画像を加工する場合などに適した「**ファイン**」、圧縮率が一番大きくEメール添付用の画像などに適した「**エコノミー**」、その中間の「**スタンダード**」の3通りの画質を選べます。

☞ 詳しくは83ページ

オートシーンセレクター	ON
	OFF

カメラが自動的に撮影場面を判断して、その場面にふさわしい設定になるフルオートシーンセレクターの機能を「**ON(使う)**」か「**OFF(使わない)**」かを選べます。

☞ 詳しくは32ページ

デジタルズーム	あり
	なし

光学ズームでもっとも望遠側にレンズをズームさせた後に、さらに引き続いて4倍デジタルズーム機能の「**あり**」か「**なし**」かを選べます。

☞ 詳しくは100ページ

撮影モードダイヤルがシーンセレクター位置（[icon]、[icon]、[icon]、[icon]、[icon] 位置）のときの設定内容一覧は、以下の通りです。　　　　　は初期設定（このカメラをご購入後初めてお使いになる際にあらかじめ選ばれているもの）です。

ドライブモード	1コマ撮影
	セルフタイマー
	連続撮影
	シャッターチャンス連写
	ブラケット撮影

通常の「**1コマ撮影**」、撮影者も一緒に写れる「**セルフタイマー**」、シャッターボタンを押している間続けて撮れる「**連続撮影**」、シャッターボタンを押している間連続して撮影を続け、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録する「**シャッターチャンス連写**」、露出をずらしながら3コマ続けて撮る「**ブラケット撮影**」が選べます。

☞ **詳しくは74ページ**

画像サイズ	2272×1704
	1600×1200
	1280×960
	640×480

パソコンに取り込んで編集したり大きくプリントしたいときに適した「**2272×1704**」から、Eメール添付用やインターネットのホームページ用の画像として最適な「**640×480**」まで、4通りのサイズを選べます。

☞ **詳しくは81ページ**

画質	ファイン
	スタンダード
	エコノミー

圧縮率がもっとも小さく画像を加工する場合などに適した「**ファイン**」、圧縮率が一番大きくEメール添付用の画像などに適した「**エコノミー**」、その中間の「**スタンダード**」の3通りの画質を選べます。

☞ **詳しくは83ページ**

フォーカスモード	オートフォーカス
	マニュアルフォーカス

ピント合わせの方法として、「**オートフォーカス**」か「**マニュアルフォーカス**（手動によるピント合わせ）」かを選べます。

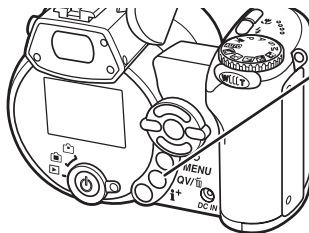
☞ **詳しくは91ページ**

デジタルズーム	あり
	なし

光学ズームでもっとも望遠側にレンズをズームさせた後に、さらに引き続いて4倍デジタルズーム機能の「**あり**」か「**なし**」かを選べます。

☞ **詳しくは100ページ**

撮った画像を再生してみましょう（クイックビュー）

QV/🗑

クイックビュー/消去ボタンを押すと、どんな画像が撮れたかすぐに確認できます。また、その画像が気に入らなければすぐに消去することもできます。

クイックビュー/消去ボタンを押すと、最後に撮った画像が表示されます。

左右のキーでその前後（に撮った）画像が見られます。

シャッターボタンを半押しすると、撮影画面にもどります。

QV/🗑

もう一度クイックビュー/消去ボタンを押すと、以下の画面が現れます。

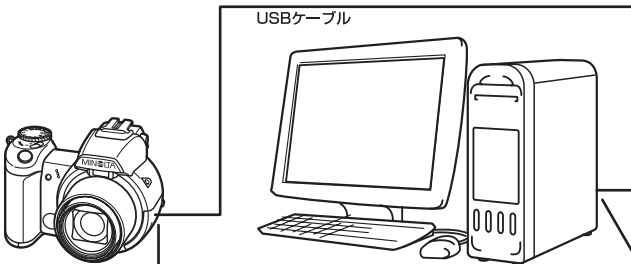
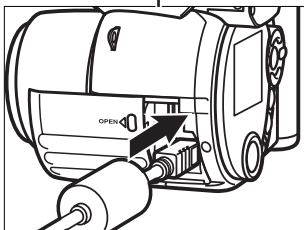
左キーで［はい］を選んで、

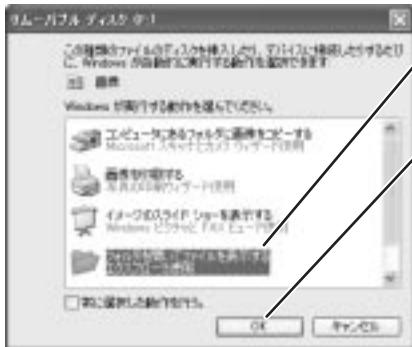
中央の実行ボタンを押すと、画像が消去されます。

再生モード（撮影/再生切り替えレバー▶位置）では、画像をまとめて消去したり、誤って消さないように保護（プロテクト）することができます。また、動画の不要部分をカットできる動画編集、撮った画像を次々と自動で再生するスライドショー、Eメール添付用画像の作成など、多彩な機能が楽しめます。

詳細は→P.114～

パソコンとつないで画像ファイルをコピー・保存してみましょう

パソコンとカメラの電源を入れて、付属のUSBケーブルでつなぎます。

※ここの説明は Windows®XP (Professional, Home Edition) 使用時の例です。
その他の、Windows®2000 Professional/Me/98 や Mac OS をお使いの方は → P.176〜

←カードスロットふたを開け、小さいほうのコネクタをUSB端子に奥まで確実に差し込みます。
入らないときは、端子とコネクタとの形状が合っているか、および、コネクタ上の▶マークが液晶モニター側になっているかを確認の上、再度差し込んでください。

大きいほうのコネクタをパソコン本体のUSBポートに差し込みます。

①パソコンに左の画面が現れますので、[フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

- この画面が現れないときは、画面左下の [スタート] → [マイ コンピュータ] → [リムーバブルディスク] を開いてください。

(次ページに続く ☞)

② [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクの後のアルファベット(左図の例ではF:)は、ご使用のパソコンによって異なります。

③ [100KM004] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は [100KM004] です。カメラの操作で、別の名前のフォルダも表示されることがあります。
- フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

④保存したいフォルダ、または、ファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100KM004] 等のフォルダを、まるごと [マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

[100KM004] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

クリックすると左側にフォルダの一覧が表示されます。

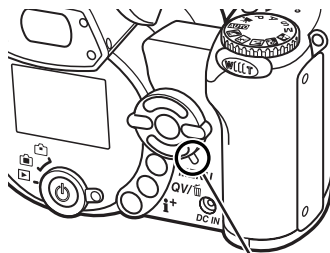
[PICT0001.JPG] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

- 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

- コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

必要な画像をパソコンにコピーした後は、以下の手順でUSB接続を解除してください。

アクセスランプ

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー(パソコンの画面右下)に表示されている[ハードウェアの安全な取り外し]または[ハードウェアの取り外しまたは取り出し]のアイコンを左クリックします。

3. [USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します(または停止します)]または[USBディスクの停止]を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または[OK]をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。

パソコンで画像を開く

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ピクチャなど）をダブルクリックして開きます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

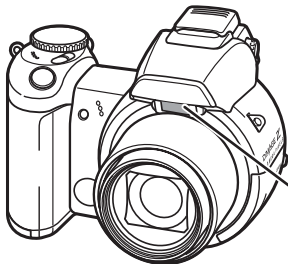
USB接続できないときは

本書185～187ページに記載の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。

応用撮影編
動画撮影編

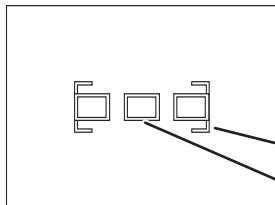
このカメラのすべての撮影機能について説明しています。詳しく知りたい操作方法に応じて、必要な箇所をお読みください。

ピント合わせ（詳細）

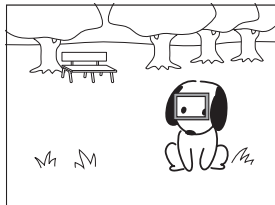
ハイブリッドAF

このカメラは、「外光パッシブ方式」と「映像AF方式」という2つの方式を併用することで、AF性能を向上させています（ハイブリッドAF）。まずパッシブAFセンサーで被写体までの距離を検出し（外光パッシブ方式）、その近くまでレンズを動かします。続けて映像AF方式で、ピント位置付近での細かなピント合わせを行ないます。

パッシブAFセンサー

● 撮影のときには、指やストラップなどでパッシブAFセンサーを覆ってしまわないようご注意ください。

フォーカスフレーム

ワイドフォーカスフレーム［　　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が3つあります。シャッターボタンを半押しすると、この3つのセンサーのいずれかが働き、自動的にピント合わせが行われます。

ワイドフォーカスフレーム

ローカルフォーカスフレーム（センサー）

シャッターボタンを半押しすると、カメラが被写体を判別し、その部分のローカルフォーカスフレームによりピントが合わせが行われます。ピント合わせに使われたローカルフォーカスフレームが**赤色**で表示されます（フォーカスモードが［ワンショットAF］の場合）。

● 上記の3つのローカルフォーカスフレームのうち、任意のフレームを選ぶこともできます。→ P.55

● フォーカスモードが［コンティニュアスAF］の場合（→ P.91）は、シャッターボタン半押しの間フォーカスフレームが赤色で表示されます。

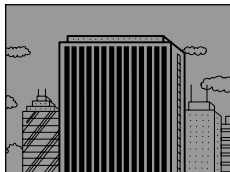
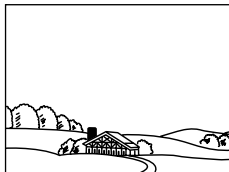
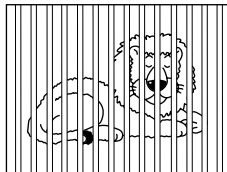
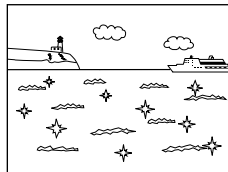
フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター下部のフォーカス表示が、ピントの状態をお知らせします。

液晶モニター下部	状況
白色 ○ 点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。 （フォーカスモードが［ワンショットAF］の場合のみ表示されます。）
白色 ((○)) 点灯	動いているものにピントを合わせ続けています。撮影できます。 （フォーカスモードが［コンティニュアスAF］の場合のみ表示されます。）
赤色 ● 点灯	ピントが合いません。以下を確認してください。撮影はできます。 **撮りたいものに近づきすぎていませんか？** カメラ（鏡胴先端）から、ズーム広角側で50㎝以上、ズーム望遠側で2㍍以上離れたものにピントが合います。それより近くのものを撮影するときは、スーパーマクロモード、または、マクロモード（→ P.38、39）で撮影してください。 **オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？** オートフォーカスの苦手な被写体だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（→ P.56）、または、マニュアルフォーカス（手動によるピント合わせ）撮影（→ P.93）を行なってください。

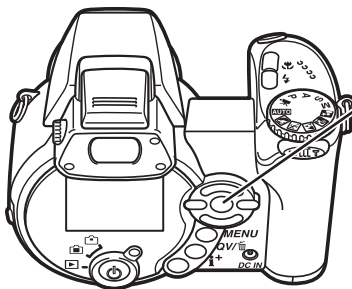
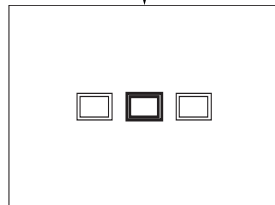
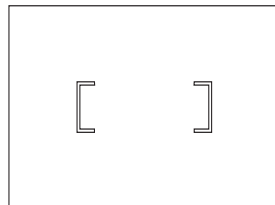
オートフォーカスの苦手な被写体

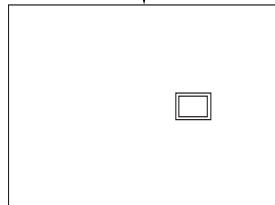
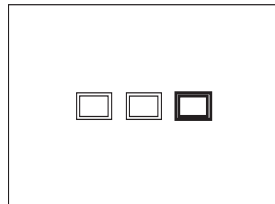
映像AF方式のピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、画面右下に赤色の ● が点灯します。このような場合は、フォーカスロック撮影を行なうか（→ P.56）、または、マニュアルフォーカス（手動によるピント合わせ）で撮影してください（→ P.93）。

オートフォーカスの苦手な被写体

暗すぎるもの

青空や白壁などコントラストのないもの

フォーカスフレームの中に距離の異なるものが混じっているとき

太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

ローカルフォーカスフレームの選択

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が3つあります。この3つの中から、実際に使うフレームを1つ選択することができます。

1. 十字キー中央の実行ボタンを、約1秒間 押し続けます。

● ローカルフォーカスフレームが表示されます。

2.左右のキーで、ピントを合わせたいフレームを選びます。

- 選んだフレームは青色で表示されます。
- フォーカスロック撮影には、中央のフレームを選ぶと便利です。

3.十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 選ばなかったフレームが消えます。

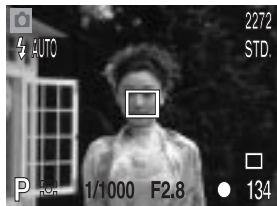
4.シャッターボタンを半押ししてピントを合わせた後、押し込んで撮影します。

- ピントが合うと、フレームは赤くなります。

- 再度十字キー中央の実行ボタンを約1秒押し続けると、ワイドフォーカスフレームに戻ります。
- デジタルズーム時(→ P.100)には、フレームを選択することはできません。

フォーカスロック撮影

ピント位置を一時的に固定して、その間に構図を変えることができます。

- 3つのローカルフォーカスフレームのうち、中央のフレームを選んでおくと便利です。

1. ピントを合わせたいものに、P.55～56で選んだフォーカスフレームを合わせてシャッターボタンを半押しします。

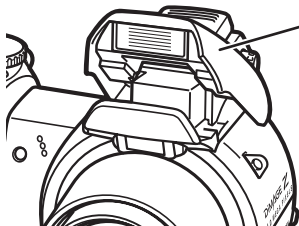
●ピントが合って固定されると、ローカルフォーカスフレームが赤くなります。画面右下には白色の ○ が点灯します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、構図を変えます。

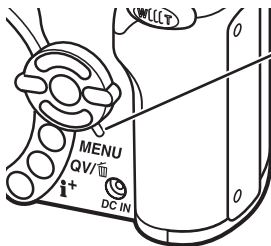
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

応用撮影編
動画撮影編

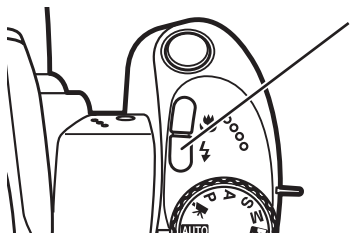
●ピントと同時に露出も固定されます（シャッター速度と絞り値が黒く反転します）。
●シャッターボタンから手を離すと、固定されたピント位置は解除されます。
●シーンセレクターで「スポーツ」を選択しているとき（→ P.36）、または、P, A, S, M各モード（→ P.62～66）でフォーカスモードに［コンティニュアスAF］を設定しているときは、フォーカスロックはできません。

フラッシュ撮影

フラッシュを使うときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュ充電中はアクセスランプがオレンジ色ですばやく点滅します。
充電が完了すると、アクセスランプの点滅が止まります。充電が完了するのを待って撮影してください。

適正露出が得られたときは、撮影後、画面左上に OK が点灯します。

フラッシュモードを変えるには

内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。
フラッシュモードボタンを押すごとに、次の順序でフラッシュの光り方が変わります（キーカスタマイズ（→ P.89）を初期設定の［フラッシュモード］に設定している場合）。

キーカスタマイズを［フラッシュモード］以外に設定している場合は、撮影モードメニューで変更できます（→ P.95）。

応用撮影編 動画撮影編

撮影モードダイヤルが、AUTO、P、、、、、位置のとき

暗いときなど必要なとき自動的に光ります。（自動発光）

人の目が赤く写るのを和らげます。必要なとき自動的に光ります。（赤目軽減自動発光）

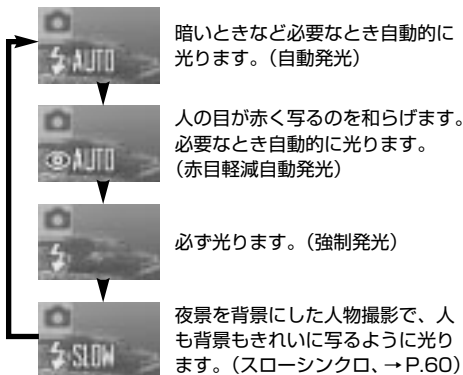
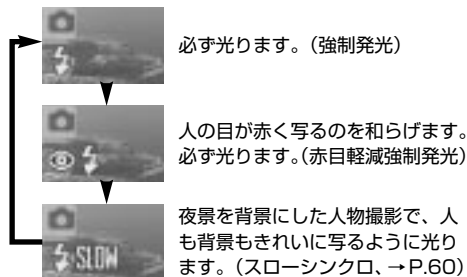
必ず光ります。（強制発光）

夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。（スローシンクロ、→P.60）

撮影モードダイヤルが、A、S、M位置のとき

必ず光ります。（強制発光）

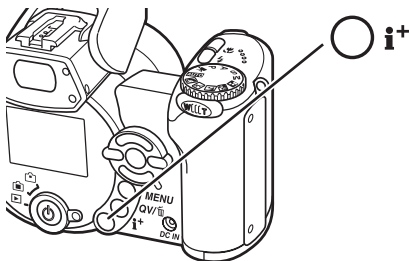
人の目が赤く写るのを和らげます。必ず光ります。（赤目軽減強制発光）

夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。（スローシンクロ、→P.60）

スローシンクロ撮影

夜景を背景にして記念撮影する場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

フラッシュモードボタンを押してスローシンクロを選び、撮影します。

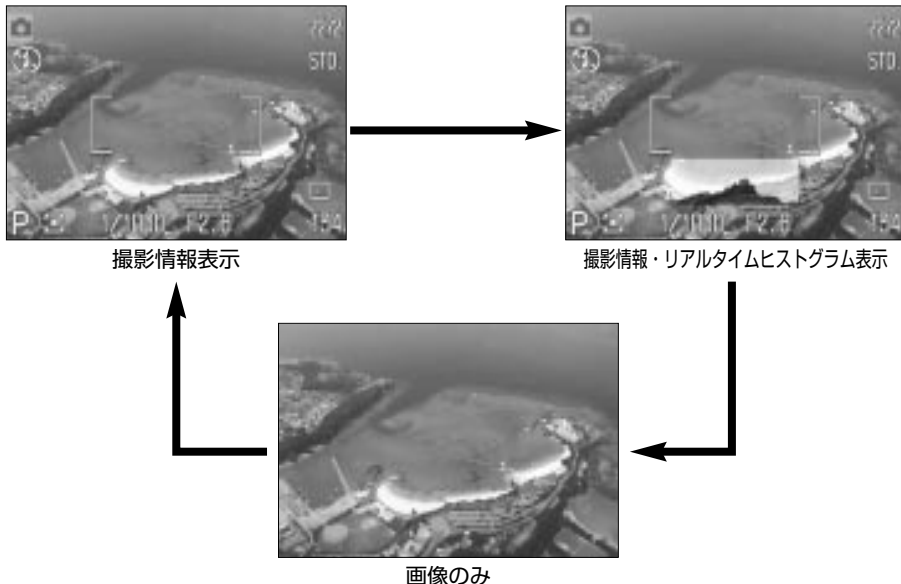
- シーンセレクターの「夜景ポートレート」と得られる効果は同じです（→ P.37）。
- スローシンクロ撮影時は、フラッシュはかならず赤目軽減発光になります。
- シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

画面表示の切り替え（撮影モード）

液晶モニター、または、ファインダーの表示内容を切り替えることができます。

表示切り替えボタンを押します。

- ボタンを押すたびに、液晶モニター、または、ファインダーの表示が、右ページの順で切り替わります。
- 動画撮影時（撮影開始前）も同様に切り替わります。

撮影情報表示

撮影情報・リアルタイムヒストグラム表示

画像のみ

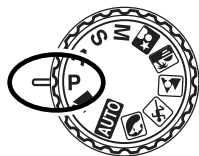
- 液晶モニターに表示される内容とファインダーに表示される内容は同じものです（液晶モニターとファインダーを同時に表示させせることはできません）。
- 「画像のみ」の状態でも、警告表示（赤色の表示）とフォーカス表示（→ P.54）、日付写し込み表示（→ P.163）は現れます。また、フルオートシーンセレクター（→ P.32）も作動し、自動で選ばれたシーンの絵記号が表示されます。
- この使用説明書では、撮影情報表示の状態（左上図）で説明しています。
- ヒストグラムについては、118ページをご覧ください。
- このカメラでは、暗いところでも液晶モニターがよく見えるように、一定以下の暗さになるとモニター感度が自動的に上がります（モニター自動感度アップ機能）。

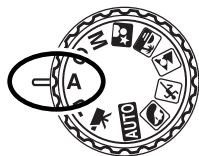
露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。

P(プログラム)モード	シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。
A(絞り優先)モード	希望の絞り値を決めることができます。
S(シャッター速度優先)モード	希望のシャッター速度を決めることができます。→P.64
M(マニュアル)モード	希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.65

● A、S、Mモードでは、フラッシュは自動発光しません。

P(プログラム)モード

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができるので、スナップ写真など一般撮影に最適です。

A(絞り優先)モード

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。

絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります(右ページ、写真左)。逆に8.0などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります(右ページ、写真右)。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

1. 撮影モードダイヤルをAに合わせます。

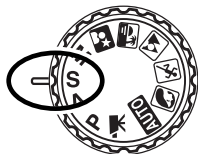
● 液晶モニターに絞り値が青色で表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望の絞り値を選びます。

● 以下の範囲から選ぶことができます。
広角側：2.8〜8.0
望遠側：3.7〜8.0

十字キー上下で変更する、の意味

● 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります（手ぶれ警告 が表示されます）。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
● シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。白く表示される範囲内で絞り値を設定してください。
● 被写体の状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。
● フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。

S(シャッター速度優先)モード

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります(写真左)。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります(写真右)。

シャッター速度が速いとき　　シャッター速度が遅いとき

1. 撮影モードダイヤルをSに合わせます。

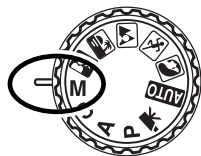
● 液晶モニターにシャッター速度が青色で表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

● 15秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。2″、4″ など「″」の文字が出ている場合は、それぞれ2秒、4秒を表します。

十字キー上下で変更する、の意味

- シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。白く表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。
- Sモードでは手ぶれ警告 ((✋)) は表示されません。
- シャッター速度が1秒以上の場合、露光（撮影）終了後に続けてノイズ軽減処理が行われます。処理中は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。→ P.67
- タイム露光（長時間露光）撮影はMモードで行なってください。→ P.66
- 被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

M（マニュアル）モード

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. 撮影モードダイヤルをMに合わせます。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

- 15秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。15秒の次にはT（タイム露光撮影、→ P.66）が表示されます。

3. 十字キーの左右で、希望の絞り値を選びます。

- 絞り値は以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8〜8.0
  望遠側：3.7〜8.0

十字キー左右で変更する、の意味

十字キー上下で変更する、の意味

- Mモードでフラッシュを発光させない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します(フルタイムAFを[あり]に設定している場合は、画面の明るさは変化しません)。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー/アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の両方が赤く点灯します。フラッシュを発光させる場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。
- シャッター速度が1秒以上の場合、露光(撮影)終了後に続けてノイズ軽減処理が行われます。処理中は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。→P.67
- Mモードでは、撮像感度(→P.99)をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
- Mモードでは手ぶれ警告 は表示されません。
- Mモードでの露出補正(→P.68)はできません。

- フラッシュを使用する場合、AモードやMモードで絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして(開放側で)撮影することをおすすめします。

タイム露光(長時間露光)撮影

1度シャッターボタンを押すと、シャッターが開いたままになり(最長30秒)、もう一度シャッターボタンを押すとシャッターが閉じられます。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。

1. Mモード撮影で、シャッター速度で「T」を選びます。

- 15秒からさらに十字キーの下キーを押してください。

2. シャッターボタンを押します。

- シャッターが開いたままになります。
- 露光（撮影）中は液晶モニターは消灯し、以下の画面が現れます。

- 30秒経過すると、自動的に撮影は終了します。

3. 必要な時間が経過したら、もう一度シャッターボタンを押します。

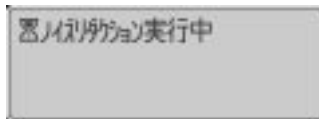
- シャッターが閉じます。

1秒以上の撮影を行なう場合の画面について

シャッター速度が1秒以上の場合、または、タイム露光撮影を行なった場合は、露光（撮影）終了後に続けてノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。ノイズリダクション中（数秒～30数秒程度、シャッター速度によって異なる）は、液晶モニターが消灯し、右のメッセージが現れます。この間は次の撮影はできません。

ノイズリダクション実行中

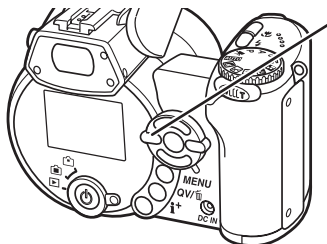
- ノイズリダクションをなしにすると、ノイズ軽減処理をせずに、すぐに次の撮影を行なうことができます。→ P.161

応用撮影編
動画撮影編

画像を明るくする・暗くする（露出補正）

撮影される画像を明るくしたり暗くしたりします。－2.0～＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。
＋側にすると画像が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画像が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正＋側

露出補正－側

● 撮影モードダイヤルが AUTO 位置のときは、露出補正はできません。

1. 十字キーの左右どちらかを1回押します。

● 画面に現在の設定値が表示されます。

2. 十字キーの左右で希望の数値を選びます。

● 右を押すと明るくなります（＋側に露出補正）。左を押すと暗くなります（－側に露出補正）。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定後、画面左下に数値が表示されます。

● 露出補正を解除するときは、同じ要領で±0に設定してください。

撮影モードメニュー

撮影モードダイヤルが、P、A、S、M位置のときにメニューボタンを押すと、72～73ページに示す設定が可能です。

メニュー設定のしかた

メニューの設定は、上下左右のキーと中央の実行ボタンで行ないます。

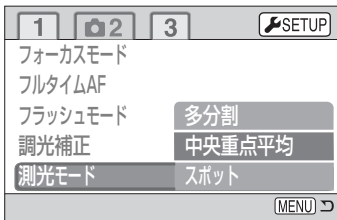
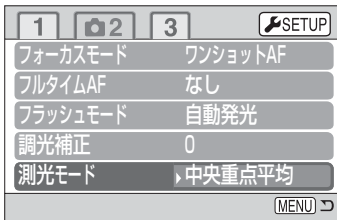
1.左右のキーで、設定したい項目のあるタブ（1～3）を選びます。

2.上下のキーで、項目（メニュー画面の左側に表示されているもの）の中から設定したいものを選びます。

1 2 3 SETUP
フォーカスモード オートフォーカス
フルタイムAF なし
フラッシュモード 自動発光
調光補正 0
測光モード 多分割
MENU

3.右のキーを押します。選ぶことのできる内容一覧が現れます。

4. 上下のキーで、内容一覧から設定したいものを選びます。

1 2 3 SETUP
フォーカスモード
フルタイムAF
フラッシュモード 多分割
調光補正 中央重点平均
測光モード スポット
MENU

5. 中央の実行ボタンを押して決定します。

この説明書では、以後、メニュー画面に対しての操作を以下のように表記します。

MENU →［2］→［測光モード］→【右側へ移動】→［中央重点平均］→ ● 実行

この表記は、以下に示す一連の操作を表したものです。

①メニューボタンを押す。

②左右キーで［2］を選ぶ。 ☞70ページ 操作**1.**

③上下キーで［測光モード］を選ぶ。 ☞70ページ 操作**2.**

④右キーで右側の項目に移動（選べる設定の一覧が現れる）。 ☞70ページ 操作**3.**

⑤上下キーで［中央重点平均］を選ぶ。 ☞71ページ 操作**4.**

⑥中央の［実行ボタン］を押して決定。 ☞71ページ 操作**5.**

📷1	
ドライブモード(→P.74)	[1コマ撮影]
	セルフタイマー
	連続撮影
	シャッターチャンス連写
	ブラケット撮影
画像サイズ(→P.81)	[2272×1704]
	1600×1200
	1280×960
	640×480
画質(→P.83)	ファイン
	[スタンダード]
	エコノミー
ホワイトバランス(→P.86)	カスタム設定
	カスタム呼び出し
	[AUTO]
	プリセット
キーカスタマイズ(→P.89)	[フラッシュモード]
	ドライブモード
	ホワイトバランス
	フォーカスモード
	カラーモード

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

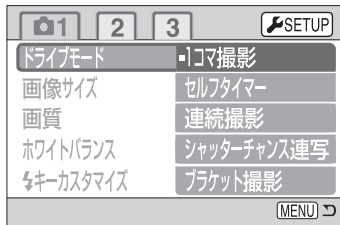
📷2	
フォーカスモード(→P.90)	[ワンショットAF]
	コンティニュアスAF
	マニュアルフォーカス
フルタイムAF(→P.94)	あり
	[なし]
フラッシュモード(→P.95)	[自動発光]
	赤目軽減自動発光
	強制発光
	赤目軽減強制発光
	スローシンクロ
調光補正(→P.96)	±2.0(1/3ステップ)[±0.0]
測光モード(→P.97)	[多分割]
	中央重点平均
	スポット

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

📷3	
撮像感度 (→ P.99)	ISO 400
	ISO 200
	ISO 100
	ISO 50
	[AUTO]
デジタルズーム (→ P.100)	あり
	[なし]
カラーモード (→ P.101)	[ナチュラルカラー]
	ビビッドカラー
	モノクロ
	セピア
シャープネス (→ P.102)	ハード(+)
	[標準]
	ソフト(−)
コントラスト (→ P.103)	強い(+)
	[標準]
	弱い(−)

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

ドライブモード

セルフタイマーや連続撮影などのいろいろな撮影ができます。以下の7つから選ぶことができます。

1コマ撮影： シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。

セルフタイマー： セルフタイマー撮影ができます。→ P.75

連続撮影： シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。→ P.76

UHS連続撮影： シャッターボタンを押し続けている間、高速で連続して撮影できます。→ P.76

シャッターチャンス連写： シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影し、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録します。→ P.77

シャッターチャンスUHS連写： シャッターボタンを押し続けている間高速で連続して撮影し、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録します。→ P.77

ブラケット(露出ずらし)撮影： 露出をずらした写真が自動的に3枚撮影できます。→ P.80

1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。

MENU →[1]→[ドライブモード]→【右側へ移動】→[1コマ撮影]→●実行→ **MENU**

セルフタイマー

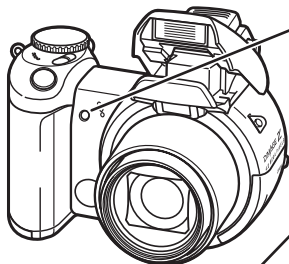
シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

MENU →[1]→[ドライブモード]→【右側へ移動】→[セルフタイマー]→●実行→ **MENU**

1. 前ページの手順でセルフタイマーを選びます。

●画面にセルフタイマーの絵記号が表示されます。

2. 撮りたいものに[　　]を合わせ、構図を決めます。

3. 撮りたいものにピントが合っていることを確認してから、シャッターボタンを押します。

●セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。

●セルフタイマー動作中は、ランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます。→ P.167

●セルフタイマー動作中は、画面中央にセルフタイマーの絵記号と撮影までの残り秒数のカウントが表示されます。

●撮影後、セルフタイマーは解除されます。

●作動中のセルフタイマーを止めるには、ズームレバーを左右どちらかに動かしてください。

連続撮影・UHS*連続撮影

*UHS = Ultra High Speed（ウルトラハイスピード）の略

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。連続撮影では、ワンショットAF時：最高毎秒約2.5コマ、コンティニュアスAF時：最高毎秒約1.5コマの撮影ができます。
UHS連続撮影では、毎秒約10コマの速度で、最高15コマまで連続して撮影できます。

MENU →［1］→［ドライブモード］→【右側へ移動】→［連続撮影］→ ● 実行で選択画面へ

1. 上記の手順で連続撮影を選びます。

● 連続撮影かUHS連続撮影かを選ぶ画面が表示されます。

連続撮影

UHS連続撮影

2. 左右のキーでどちらかを選んで、実行ボタンを押します。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

【連続撮影時の注意】

- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。ただし、露出モードP, A, S, M各モードでフォーカスモードがコンティニュアスAF（→ P.91）のとき、または、シーンセレクターのスポーツモード（ → P.36）でフォーカスモードがオートフォーカスのときは、1コマごとにピント合わせが行われます（この場合でも露出は1コマ目で固定されます）。
- **カメラ内部のメモリー容量の関係上、連続で撮影できるコマ数は最大5コマです。**
- 日付写し込み（→ P.163）を行なっている場合は、連続撮影の速度は遅くなります。

【UHS連続撮影時の注意】

UHS連続撮影では、すべての画像データをいったんカメラ内部のメモリーに蓄積し、撮影完了後にデータをまとめてカードに書き込み(記録)します。よって、
- 撮影後、カードに書き込む時間が必要です。書き込み中は次の撮影はできません。
- **カメラ内部のメモリー容量の関係上、連続で撮影できる最大コマ数は15コマです。**

- 画像サイズは1280画素×960画素に固定されます。
- フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- UHS連続撮影時にはデジタルズーム(→ P.100)はできません。また、デジタルズーム時にUHS連続撮影に設定すると、デジタルズームは解除されます。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。Sモード(→ P.64)やMモード(→ P.65)で1/30秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/30秒に変更されます。
- 電池の容量が少ないとき(液晶モニターに赤色の が点灯している場合)は、UHS連続撮影はできません(シャッターは切れません)。
- UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア(縦に伸びる光の帯)が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は画面で確認できます。Aモードで絞りを絞ると、このような現象を緩和させることができます。→ P.63

応用撮影編 動画撮影編

シャッターチャンス連写・シャッターチャンスUHS連写

シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影が行われます。このときの撮影画像はカメラ内部のメモリーに一時保存されていき、シャッターを押し続けている間は最新の撮影画像を内部メモリーに上書きし続けます。シャッターボタンを離したら、その直前まで内部メモリーに一時保存されていた画像をカードに書き込み(記録)します。テニスやゴルフのフォームのチェックなど、過去にさかのぼって動きを追いかける、連続したシーンの撮影に効果的です。
シャッターチャンス連写では5コマ分(約2秒前)まで、シャッターチャンスUHS連写では12コマ分(約1.2秒前)までさかのぼって記録できます。

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ移動】→［シャッターチャンス連写］→ ●実行で選択画面へ

1. 上記の手順でシャッターチャンス連写を選びます。

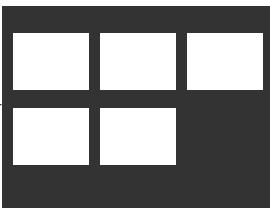
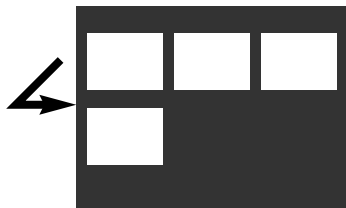
● 通常の連続撮影かUHS連続撮影かを選ぶ画面が表示されます。

シャッターチャンス連写

シャッターチャンスUHS連写

2. 左右のキーでどちらかを選んで、実行ボタンを押します。

3. シャッターボタンを押し続け、記録を終了したいタイミングで離します。

● 撮影後、さかのぼって記録される画像が順に小さく表示されます（シャッターチャンス連写では5コマ、シャッターチャンスUHS連写では12コマ）。この表示中は、カメラを操作できません。

【シャッターチャンス連写時の注意】

- フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。ただし、露出モードP, A, S, M各モードでフォーカスモードがコンティニュアスAF（→ P.91）のとき、または、シーンセレクターのスポーツモード（ → P.36）でフォーカスモードがオートフォーカスのときは、1コマごとにピント合わせが行われます（この場合でも露出は1コマ目で固定されます）。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。Sモード（→ P.64）やMモード（→ P.65）で1/30秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/30秒に変更されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、シャッターチャンス連写、シャッターチャンスUHS連写はできません（シャッターは切れません）。
- シャッターチャンス連写時は日付写し込み（→ P.163）はできません（シャッターチャンスUHS連写時は日付写し込みできます）。

【シャッターチャンスUHS連写時の注意（上記注意事項に加えて）】

- 画像サイズは1280×960画素に固定されます。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- デジタルズーム（→ P.100）はできません。また、デジタルズーム時にシャッターチャンスUHS連写に設定すると、デジタルズームは解除されます。
- 他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は画面で確認できます。Aモードで絞りを絞ると、このような現象を緩和させることができます。→ P.63

ブラケット撮影

露出をずらした写真が自動的に3枚できます。シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ移動】→［ブラケット撮影］→ ● 実行で選択画面へ

1. 上記の手順でブラケット撮影を選びます。

- 露出ずらし量を設定する画面が表示されます。

2. 左右のキーでずらし量を設定します。

- ±0.3、±0.5、±1.0のいずれかを選びます。±1.0だとずらし量が多くなり、±0.3だと小さくなります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

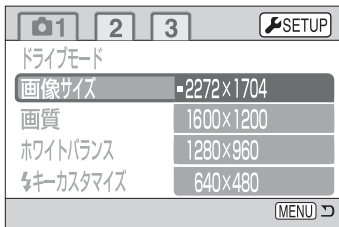
- 画面右下にブラケットの絵記号と撮影枚数を表す３が表示されます。

4. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- ±0 → −（露出アンダー）側 → ＋（露出オーバー）側、の順に撮影されます。
- 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。

●フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
●基準値（±0）とピント位置は1枚目を撮影するときに固定されます。露出補正（→ P.68）により、基準値をあらかじめずらしておくことも可能です。ただし、露出モードP, A, S, M各モードでフォーカスモードがコンティニュアスAF（→ P.91）のとき、または、シーンセレクターのスポーツモード（ → P.36）でフォーカスモードがオートフォーカスのときは、1コマごとにピント合わせが行われます（この場合でも、基準となる露出（±0）は1コマ目で固定されます）。
●撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

MENU →［ 1］→［画像サイズ］→【右側へ移動】→［希望のサイズ］→ ● 実行→ **MENU**

●画面右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。
たとえば、1280×960を選んだ場合は、1280と表示されます。

画像サイズ（続き）

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2272×1704画素の場合、画像は横に2272、縦に1704に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

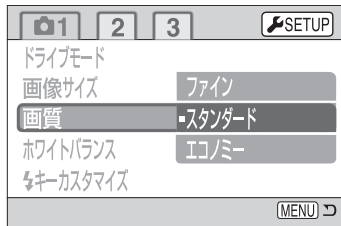
画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリント（印刷）できますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に応じて画像サイズをお選びください。

このカメラでは、画像サイズを以下の4通りの中から選ぶことができます。

2272×1704	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする(※1)場合におすすめします。約385万画素の画像が撮影できます。 (※1) 2L版（178㎜×127㎜）～ A4（297㎜×210㎜）程度
1600×1200	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする(※2)場合におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 (※2) L版（127㎜×89㎜）～ A5（210㎜×148㎜）程度
1280×960	枚数を多く撮るときに便利です。約120万画素の画像が撮影できます。
640×480	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi ～ 300dpi の場合を指しています。

画質

画質（画像の圧縮率）を指定することができます。3通りの中から選ぶことができます。

MENU →［ 1］→［画質］→【右側へ移動】→［希望の画質］→ ● 実行 → MENU

● 液晶モニター右上に、選んだ画質が表示されます。
  ファイン → FINE、スタンダード → STD.、エコノミー → ECON.と表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（84ページの表参照）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファインの順に高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

画質（続き）

表示	ファイル型式	説明
ファイン （FINE）	JPEG （圧縮率 小）	画像がJPEG（ジェイペグ）型式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。 JPEG（ジェイペグ）型式の圧縮は、圧縮率が大きいほど画質が劣化します。いったん劣化した画像の画質をパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質の設定は慎重に行なってください。一般的な目安は以下の通りです。 プリント（印刷）する場合 → ファイン、スタンダード 画像を加工する場合 → ファイン Eメールに添付する場合など → エコノミー
スタンダード （STD.）	JPEG （圧縮率 中）	
エコノミー （ECON.）	JPEG （圧縮率 大）	

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

- 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。
- 同じ容量のカードでも、メーカーや種類、撮影条件が異なると、撮影枚数など数値が異なることがあります。

ファイルサイズ（静止画像）

	2272×1704	1600×1200	1280×960	640×480
エコノミー	約520KB	約280KB	約190KB	約80KB
スタンダード	約1000KB	約440KB	約300KB	約120KB
ファイン	約1940KB	約770KB	約550KB	約160KB

ファイルサイズ（動画）

フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約1070KB/秒	約680KB/秒	約170KB/秒
15 fps	約1070KB/秒	約540KB/秒	約350KB/秒	約95KB/秒

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数（静止画像）

	2272×1704	1600×1200	1280×960	640×480
エコノミー	約27枚	約47枚	約69枚	約150枚
スタンダード	約14枚	約27枚	約39枚	約100枚
ファイン	約7枚	約14枚	約22枚	約69枚

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数（動画）

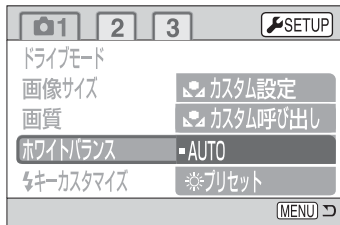
フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約13秒	約21秒	約1分22秒
15 fps	約13秒	約25秒	約41秒	約2分30秒

【参考①】128MB SDメモリーカード（市販品）使用時の撮影画像数（動画）

フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約1分56秒	約3分2秒	約11分52秒
15 fps	約1分56秒	約3分43秒	約5分56秒	約21分45秒

【参考②】256MB SDメモリーカード（市販品）使用時の撮影画像数（動画）

フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約3分52秒	約6分2秒	約23分38秒
15 fps	約3分52秒	約7分25秒	約11分49秒	約43分21秒

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽく写ったり黄色っぽく写ったりします。これを白く写るように調整するのがホワイトバランスです。オートにすると自動的に調整されますが、意図的に選択したり、独自の設定を登録したりすることもできます。

オート(AUTO)　：ホワイトバランスは自動的に調整されます。
プリセット　：昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯、フラッシュ光の5つから光源を選ぶことができます。
カスタム　：独自のホワイトバランス設定を登録することができます。

オート(AUTO)

ホワイトバランスは自動的に調整されます。初期設定はオート(AUTO)です。

- オートの場合、液晶モニターやファインダーには表示は現れません。(ヒストグラム表示には**WB AUTO**と表されます。)

プリセット

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オート(AUTO)で思うような色が出ないときにお使いください。

MENU → [1] → [ホワイトバランス] → 【右側へ移動】 → [プリセット] → ● 実行で選択画面へ

1. 上記の手順でプリセットを選びます。

- プリセットされている光源を選ぶ画面が表示されます。

2. 十字キーの左右で、希望の光源を選びます。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯
- フラッシュ光

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 画面に選んだ光源が表示されます。

● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

【設定する】

MENU →［1］→［ホワイトバランス］→【右側へ移動】→［カスタム設定］→ ● 実行で設定画面へ

1. 上記の手順でカスタム設定を選びます。

● カスタムホワイトバランスの設定画面が現れます。

2. 白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、十字キー中央の実行ボタンを押し込みます。

- ピントを合わせる必要はありません。
- シャッター音がしますが撮影はされません。ここで画面に入れたものが白くなるようなホワイトバランスに設定されます。
- 設定後は、カスタムホワイトバランスでの撮影になります。

- この操作で設定されたカスタムホワイトバランスは、次に同じ操作で別のカスタムホワイトバランスが設定されるまで有効です（カメラの電源を切ってもキャンセルされません）。

【設定したカスタムホワイトバランスを呼び出す】

MENU →［ 1］→［ホワイトバランス］→【右側へ移動】→［カスタム呼び出し］→ ● 実行 → **MENU**

上記の手順でカスタム呼び出しを選びます。

- 画面にカスタムホワイトバランスの絵記号が現れます。

キーカスタマイズ

よく使う機能をフラッシュモードボタンに割り当てることができます。メニュー画面を表示して操作する必要がなく、設定をすばやく変更できます。どの項目をフラッシュモードボタンで設定変更できるようにするかをここで選びます。

MENU →［1］→［キーカスタマイズ］→【右側へ移動】→［希望の項目］→ ● 実行 → **MENU**

上記の手順で、フラッシュモードボタンで設定を変更可能にする項目を選びます。

- フラッシュモードボタンを押すたびに、以下の順で設定が変わります。
- 以下の順序で右端の次にフラッシュモードボタンを押すと、ふたたび左端の設定にもどります。
  たとえば、下記ドライブモードの場合、［ブラケット撮影］の次にフラッシュモードボタンを押すと、［1コマ撮影］にもどります。

フラッシュモード（内蔵フラッシュを手で上げてください）

撮影モードダイヤルが、P、AUTO、、、、、位置のとき

自動発光 → 赤目軽減自動発光 → 強制発光 → スローシンクロ

撮影モードダイヤルが、A、S、M位置のとき

強制発光 → 赤目軽減強制発光 → スローシンクロ

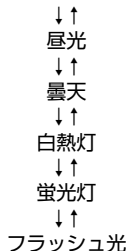
ドライブモード（↓↑は、十字キーの左右で選択）

1コマ撮影 → セルフタイマー撮影 → 連続撮影 → シャッターチャンス連写 → ブラケット撮影

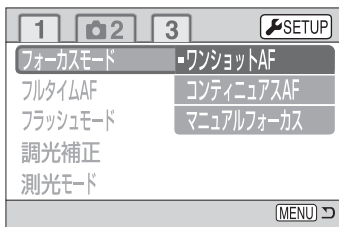
連続撮影 ↓↑ UHS連続撮影

シャッターチャンス連写 ↓↑ シャッターチャンスUHS連写

ブラケット撮影 ↓↑ ずらし量（設定）

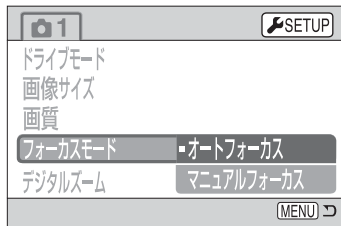
ホワイトバランス（↓↑は、十字キーの左右で選択）
WB AUTO → プリセット → カスタム設定 → カスタム呼び出し
↓↑
昼光
↓↑
曇天
↓↑
白熱灯
↓↑
蛍光灯
↓↑
フラッシュ光

フォーカスモード（☞ 詳細は下記）
ワンショットAF → コンティニュアスAF → マニュアルフォーカス

カラーモード（☞ 詳細は99ページ）
ナチュラルカラー（Natural） → ビビッドカラー（VIVID） → 白黒（BW） → セピア（SEPIA）

フォーカスモード

撮影モードダイヤルが、P、A、S、M位置のとき
自動でピントを合わせるオートフォーカスか、手動によるピント合わせのマニュアルフォーカスかを選ぶことができます。
また、オートフォーカスでのピントの合わせ方として、ワンショットAF*とコンティニュアスAF*を選択できます。

*AF = Auto Focus（オートフォーカス）の略

MENU →［2］→［フォーカスモード］→【右側へ移動】→［希望のモード］→ ● 実行 → MENU

撮影モードダイヤルが、[icon]、[icon]、[icon]、[icon]、[icon] 位置のとき

自動でピントを合わせるオートフォーカスか、手動によるピント合わせのマニュアルフォーカスかを選ぶことができます。

フォーカスモードメニューは［1］タブに表示されます（→P.45）。

MENU →［1］→［フォーカスモード］→【右側へ移動】→［希望のモード］→ ● 実行→ MENU

ワンショットAF

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。初期設定はワンショットAFです。

コンティニュアスAF

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

- ワイドフォーカスフレーム設定時（→ P.53、55、56）は、ピント位置を表す赤いセンサーは表示されません。
- コンティニュアスAFでも、激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。
- 連続撮影（→ P.76）、ブラケット撮影（→ P.80）、シャッターチャンス連写（→ P.77）でもコンティニュアスAFが使用できます。

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター下部のフォーカス表示が、ピントの状態をお知らせします。
ワンショットAFとコンティニュアスAFとでは、フォーカス表示が異なります。

ワンショットAF	○ 白色	ピントが合って固定されています。
	● 赤色	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	((○)) 白色	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	● 赤色	ピントが合っていません。

- コンティニュアスAFでは、フォーカス表示 ((○)) が現れた場合でも、撮影前に液晶モニター、または、ファインダーでピントが合っている（撮りたいものがはっきりと見えている）ことを確認されることをおすすめします。

マニュアルフォーカス（手動によるピント合わせ）

MENU →［📷2］→［フォーカスモード］→【右側へ移動】→［マニュアルフォーカス］→ ● 実行
→ **MENU**

1. 上記の手順でマニュアルフォーカスを選びます。

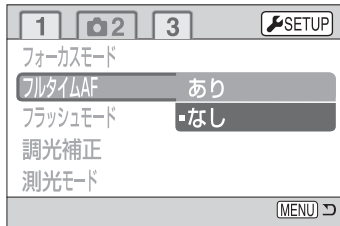
- マニュアルフォーカス画面（画面右下にマニュアルフォーカス Manual Focus を意味する **MF** が現れ、ピント合わせの目安のバーグラフが表示されます）が現れます。

画面中央付近が拡大表示されていることを示す絵記号

2. 十字キーの上下でピントを合わせます。

- 十字キーの上下いずれかを1回押すと、画面中央付近が約2.5倍に拡大表示され、ピントの状況を見やすくします（約4秒間操作しないでいると拡大表示は解除されます）。
- バーグラフは目安です。画面上に写したいものが最もはっきりと見えるように、上下の十字キーで調整してください。

- 露出モードA、S、Mモード時は、十字キー中央の実行ボタンを押すたびに、十字キー上下の働きが、「MFのピント合わせ」と「シャッター速度設定（Aモード時は絞り値設定）」とで切り替わります（左図はMモード時）。
- スーパーマクロモードやマクロモード時（→P.38、39）もマニュアルフォーカスでのピント合わせができます。

フルタイムAF

フルタイムAFを機能させると、シャッターボタンを半押ししなくても、フォーカスフレーム内のものに常にピントが合い続けます。

MENU →［2］→［フルタイムAF］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行 → MENU

フルタイムAF　あり

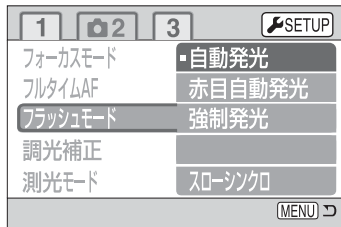
シャッターボタンを半押ししなくても、フォーカスフレーム内のものに常にピントが合い続けます。フルタイムAF　なしの場合と比べて、より速いピント合わせが可能です。

● フルタイムAF なしと比べて、電池の寿命がやや短くなることがあります。

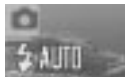
フルタイムAF　なし

シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。電池を節約したいときや、静かに撮影したい場合に便利です。初期設定は フルタイムAF なし です。

● 動画モード時、シーンセレクターのスポーツ（）選択時、 AUTO および シーンセレクター、、、位置でスーパーマクロ/マクロモードに設定したときは、ここでの設定に関係なく、フルタイムAF ありになります。

フラッシュモード

フラッシュの発光モード(光り方)を選びます。フラッシュが下がっているときでも選択できます。撮影モードダイヤルの位置によって選べるモードが異なります。

MENU →[2]→[フラッシュモード]→【右側へ移動】→[希望のモード]→●実行→ **MENU**

撮影モードダイヤル P 位置のとき

自動発光：暗いときなど必要なとき自動的に光ります。

赤目(軽減)自動発光：人の目が赤く写るのを和らげます。必要なとき自動的に光ります。

強制発光：必ず光ります。

スローシンクロ：夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。

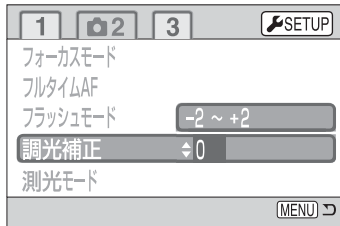
撮影モードダイヤル A、S、M 位置のとき

強制発光：必ず光ります。

赤目(軽減)強制発光：人の目が赤く写るのを和らげます。必ず光ります。

スローシンクロ：夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。

- 外付けフラッシュ(プログラムフラッシュ5600HS(D)/3600HS(D)/2500(D))装着時は、赤目(軽減)自動発光、および、赤目(軽減)強制発光は選ぶことができません。

調光補正

露出補正（→ P.68）では画面全体の明るさが調整されますが、フラッシュが発光する場合は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、－2.0～＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。

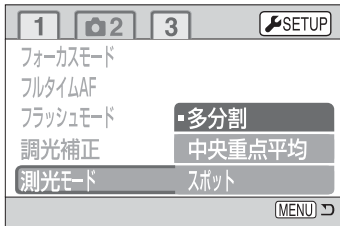
MENU → ［2］→［調光補正］→【右側へ移動】→［十字キーの上下で設定］→ ● 実行 → **MENU**

● 0 以外に設定すると、設定後、画面に絵記号と設定値が表示されます。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

- フラッシュの光量には限りがあるため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

測光モード

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

多分割測光： 画面全体を細かく分割して測光します。

中央重点平均測光： 画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。

スポット測光： 中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

MENU →［ 2］→［測光モード］→【右側へ移動】→［希望の設定］→ ● 実行 → **MENU**

多分割測光

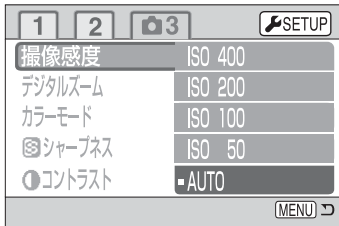
画面全体を細かく分割（256分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

中央重点平均測光

画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→ P.68

スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。

- 測光したい部分が画面中央にないときは、フォーカスロック撮影を行なってください。→ P.56

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オート（AUTO）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、ノイズが出る場合があります。初期設定はオート（AUTO）です。

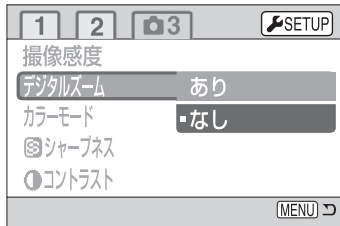
MENU →［3］→［撮像感度］→【右側へ移動】→［希望の設定］→ ● 実行 → **MENU**

上記の手順で撮像感度を選びます。

- 感度は、オート（AUTO）、ISO 50、ISO 100、ISO 200、ISO 400 から選ぶことができます。

- オート（AUTO）の場合、画面に表示は現れません。撮像感度は ISO 50〜200の範囲で自動的に設定されます。Mモード時（→ P.65）には ISO 100で固定されます。
- オート（AUTO）以外を設定した場合は、画面に ISOと数値が表示されます。

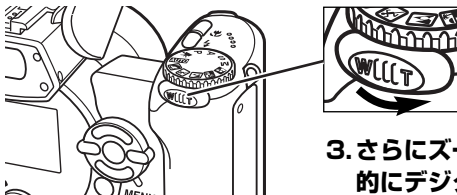
撮像感度を変更すると、フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）	フラッシュ調光距離（鏡胴先端から）	
	ズーム広角側	ズーム望遠側
オート（AUTO）	0.16〜6.0メートル	1.2〜4.5メートル
ISO 50	0.16〜3.0メートル	1.2〜2.2メートル
ISO 100	0.16〜4.2メートル	1.2〜3.2メートル
ISO 200	0.16〜6.0メートル	1.2〜4.5メートル
ISO 400	0.16〜8.5メートル	1.2〜6.4メートル

デジタルズーム

通常のズーム（光学ズーム）に加えて、さらに画像を最大4倍にまで拡大することができます。
撮影モードダイヤルが、AUTO、、、、、位置のときは、デジタルズームメニューは［1］タブに表示されます（→P.45）。

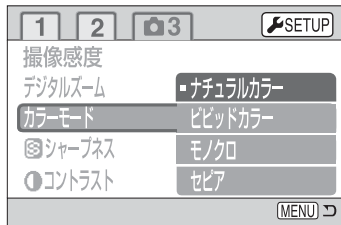
MENU →［3］→［デジタルズーム］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行 → MENU

操作方法

1. 上記の手順でデジタルズーム ありを選びます。

2. ズームレバーを右（T側）に動かして、最も望遠側にズームさせます。

3. さらにズームレバーを右（T側）に動かし続けると、自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

- 1.1倍から4.0倍まで、0.1倍ごとに拡大されます。元に戻すにはズームレバーを左（W側）へ動かしてください。レバー操作直後にズーム表示がおおよそのズーム位置を表示します。
- デジタルズーム時には、液晶モニターに黄色で現在の倍率が表示されます。
- デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。

カラーモード

撮影する画像の色を、ナチュラル、ビビッド、モノクロ、セピアの中から選ぶことができます。

ナチュラルカラー：　通常のカラー画像として記録されます。初期設定はナチュラルカラーです。

ビビッドカラー：　カラー画像ですが、より色が鮮やかに再現されるように、彩度とコントラストが調整されます。

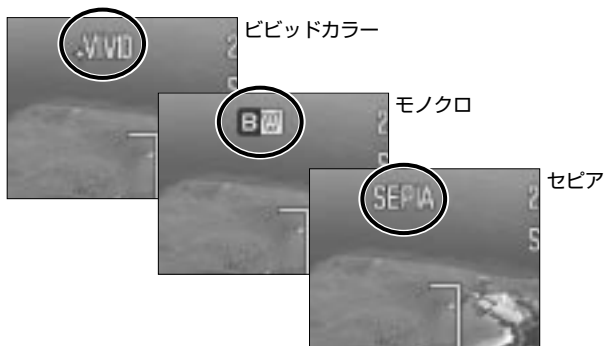
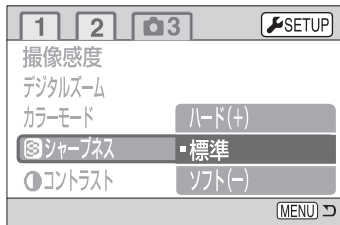
モノクロ：　白黒画像として記録されます。

セピア：　セピア調の画像として記録されます。

- 彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまい、階調が表現されないことがあります。
- モノクロ、セピアに設定してもファイルサイズはナチュラルカラーと同じです。

MENU → [3] → [カラーモード] → 【右側へ移動】 → [希望の設定] → ●実行 → **MENU**

上記の手順で希望のカラーモードを選びます。

- ナチュラルカラー以外を選択した場合、画面上部に選んだ設定が表示されます。

シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。

ハード（＋）：輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。

標準：標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。

ソフト（−）：輪郭のやわらかな画像になります。

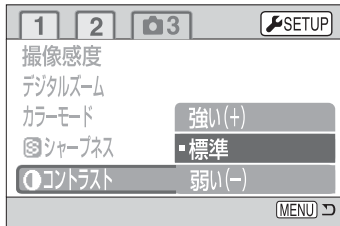
● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べると、より画像の劣化を押さえることができます。

MENU → [3] → [シャープネス] →【右側へ移動】→ [希望の設定] → ● 実行 → **MENU**

上記の手順で希望のシャープネスを選びます。

● 標準以外を選択した場合、画面に選んだ設定が表示されます。

シャープネス　ハード（＋）設定時

コントラスト

撮影する画像のコントラスト(明暗差)を調整することができます。3段階から選択することができます。

強い(＋)： コントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。

標準： 標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。

弱い(－)： コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べると、より画像の劣化を押さえることができます。

MENU →［3］→［コントラスト］→【右側へ移動】→［希望の設定］→ ● 実行 → **MENU**

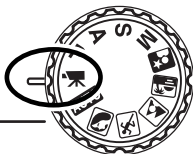
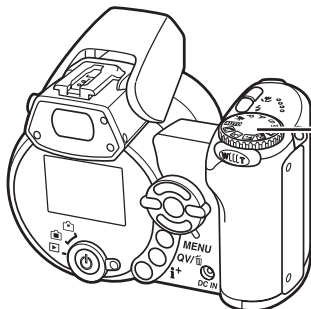
上記の手順で希望のコントラストを選びます。

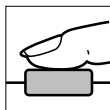
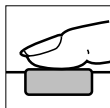
● 標準以外を選択した場合、画面に選んだ設定が表示されます。

コントラスト　強い(＋)設定時

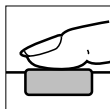
● シャープネス、コントラスト共に標準以外を選択した場合は、画面に両者の絵記号が並んで表示されます。

動画撮影（詳細）

メニュー画面で、画像サイズ（4通り）やフレームレート（2通り）、撮影中のAFのあり/なし等を変更できます。さまざまな設定ができますので、TVでの鑑賞、DVD等での保存からEメールの添付用など、用途に合わせた動画撮影が可能です。

1. 撮影モードダイヤルを 🎥 に合わせます。

- 画面右上に画像サイズとフレームレート、右下に撮影可能な残り時間が表示されます。
- 画面右下の撮影可能な残り時間は目安の値です。被写体によっては実際の撮影時間と異なる場合があります。

2. シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと、画面右下に白い ○（フォーカス表示）が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで動画撮影を開始します。

- 撮影中は ●Rec が表示され、残り時間が減っていきます。

4. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 残り時間が０になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

ズームについて

- 動画撮影開始前、動画撮影中いずれの場合も、光学ズーム および デジタルズーム操作ができます。
- 動画撮影中の光学ズーム操作については、動画撮影メニューであり/なしを選べます。
（撮影中に光学ズーム操作を行なうと、レンズの駆動音も録音されます。）

ピントについて

- 動画撮影中のオートフォーカス動作については、動画撮影メニューであり/なしを選べます。
（撮影中AFありにすると、AFの動作音が録音されることがあります。）
- マクロ撮影も行なえます。動画撮影開始前のピント合わせではマニュアルフォーカスも可能です。

その他の動画撮影前に可能な設定

- 露出補正（十字キーの左右で設定可能）
- 画像サイズ（→ P.107）、フレームレート（→ P.108）、光学ズームの有無（→ P.109）、ホワイトバランス（→ P.109）、ナイトムービーの有無（→ P.110）、動画撮影中のAFの有無（→ P.110）、カラーモード（→ P.112）（動画撮影メニューで設定可能）

その他の動画撮影時に固定される設定

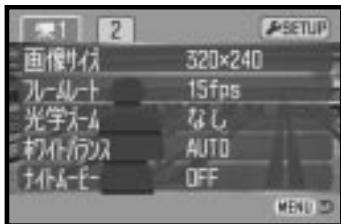
- 動画撮影時には、以下の機能は固定されます。変更はできません。
フォーカスエリア（ワイドフォーカスフレーム）、露出モード（Pモード）、測光モード（多分割）、撮像感度（オート）、ファイル形式（Motion JPEG / MOV）
- 以下の機能は、動画撮影時には使用できません。
フラッシュ、シーンセレクター、シャープネス、コントラスト、日付写し込み

- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、動画撮影はできません。
（「電池が少ないので撮影できません」というメッセージが表示されます。）
- 暗い場所で撮影する場合に、画面を見やすくすることができます（ナイトムービー機能 → P.110）。

> カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。**特に、画像サイズ800×600、または、画像サイズ320×240以上でフレームレート30fpsの設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。**

動画撮影モードメニュー

撮影モードダイヤルが動画撮影モード位置 にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→ P.70

- ここでの画像サイズ、ホワイトバランス、カラーモードの各設定は、動画のみに影響します。(静止画)撮影モードでの設定には影響しません(カスタム設定したホワイトバランスは、静止画と動画とで共通です)。

1	
画像サイズ (→ P.107)	800×600
	640×480
	[320×240]
	160×120
フレームレート (→ P.108)	30 fps
	[15 fps]
光学ズーム (→ P.109)	あり
	[なし]
ホワイトバランス (→ P.109)	カスタム設定
	カスタム呼び出し
	[AUTO]
	プリセット
ナイトムービー (→ P.110)	ON
	[OFF]

※[ ]で囲んだものは初期設定です。

2	
フォーカスモード (→ P.110)	[撮影中AFあり]
	撮影中AFなし
	マニュアルフォーカス
カラーモード (→ P.112)	[ナチュラル]
	ビビッド
	モノクロ
	セピア

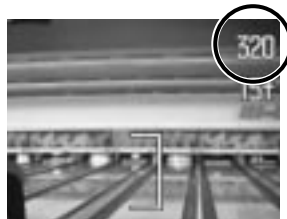
※[ ]で囲んだものは初期設定です。

画像サイズ（動画撮影メニュー）

動画の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

MENU →[1]→[画像サイズ]→【右側へ移動】→[希望のサイズ]→ 実行→ MENU

● 画面右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。たとえば、320×240を選んだ場合は、320と表示されます。

● 800×600を選んだ場合は、フレームレートが15fpsに固定されます。変更できません。

フレームレート(動画撮影メニュー)

動画は、1枚1枚の静止画像を連続して再生することで、動きのある絵になっています。この静止画像の1枚1枚を「フレーム」といいます。フレームレートは、1秒当たりに取り込む(撮影する)フレーム数のことで、2通りの中から選ぶことができます。
フレームレートが大きくなるほど、より動きの滑らかな動画になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

fps = Frame per Secondの略。1秒当たりのフレーム数のこと。

MENU →[1]→[フレームレート]→【右側へ移動】→[希望の数値]→ ● 実行→ MENU

- 画面右上、画像サイズの下に、選んだフレームレートが表示されます。
- 画像サイズに800×600を選んだときは、フレームレートを変更できません(15fpsで固定されます)。

画像サイズ800×600、または、画像サイズ320×240以上でフレームレート30fpsの設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。

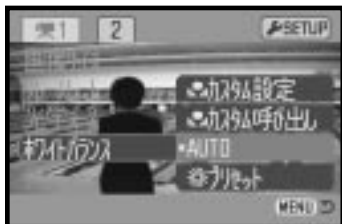
光学ズーム(動画撮影メニュー)

動画撮影中に、光学ズーム操作を可能にするかしないかを選べます。

● 動画撮影中に光学ズーム操作を行うと、レンズの駆動音も録音されます。このメニューで光学ズーム [なし] を選ぶか、撮影開始前にあらかじめズーム操作しておき、撮影中は光学ズーム操作をしない方法をおすすめします。

MENU →[1]→[光学ズーム]→【右側へ移動】→[あり または なし]→ ● 実行→ MENU

ホワイトバランス(動画撮影メニュー)

動画のホワイトバランスを選ぶことができます。

● プリセットの選び方やカスタムホワイトバランスの設定のしかたは、撮影モードメニューのホワイトバランスと同様です。→P.86

MENU →[1]→[ホワイトバランス]→【右側へ移動】→[プリセット]→ ● 実行で選択画面へ

MENU →[1]→[ホワイトバランス]→【右側へ移動】→[カスタム設定]→ ● 実行で設定画面へ

ナイトムービー(動画撮影メニュー)

暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗く見にくくなります。ナイトムービーを [ON] にして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

● ナイトムービーをONにすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

MENU → [1] → [ナイトムービー] → 【右側へ移動】 → [ONまたはOFF] → ● 実行 → MENU

フォーカスモード(動画撮影メニュー)

動画撮影中のフォーカスモードを選ぶことができます。

撮影中AFあり：動画撮影中も常にオートフォーカスが作動し、ピントを合わせ続けます。

撮影中AFなし：ピントは動画撮影開始時の位置で固定されます。撮影中はオートフォーカスは働きません。

マニュアルフォーカス：動画撮影開始前のピント合わせを手動で行うことができます。撮影中のピントはその位置で固定されます。

MENU → [2] → [フォーカスモード] → 【右側へ移動】 → [希望の設定] → ● 実行 → MENU

画面中央付近が拡大表示されていることを示す絵記号

マニュアルフォーカスを選んだときは、十字キーの上下で動画撮影開始前のピントを合わせます。

- 十字キーの上下いずれかを1回押すと、画面中央付近が約2.5倍に拡大表示され、ピントの状況を見やすくします（約4秒間操作しないでいると拡大表示は解除されます）。
- バーグラフは目安です。画面上に写したいものが最もはっきりと見えるように、上下の十字キーで調整してください。

- ［撮影中AFあり］を選ぶと、オートフォーカスの動作音が録音される場合があります。そのときは、［撮影中AFなし］に設定してください。

カラーモード(動画撮影メニュー)

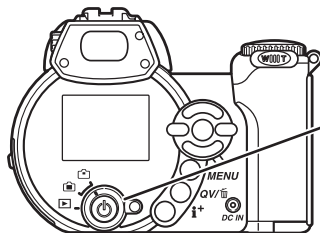
撮影する動画の色を、ナチュラル、ビビッド、モノクロ、セピアの中から選ぶことができます。

● 各設定の意味は、撮影モードメニューのカラーモードと同様です。→ P.101

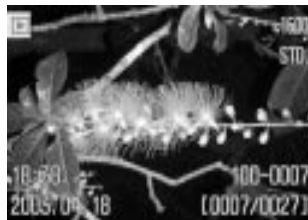
MENU → [2] → [カラーモード] →【右側へ移動】→ [希望の設定] → ● 実行 → MENU

再生編

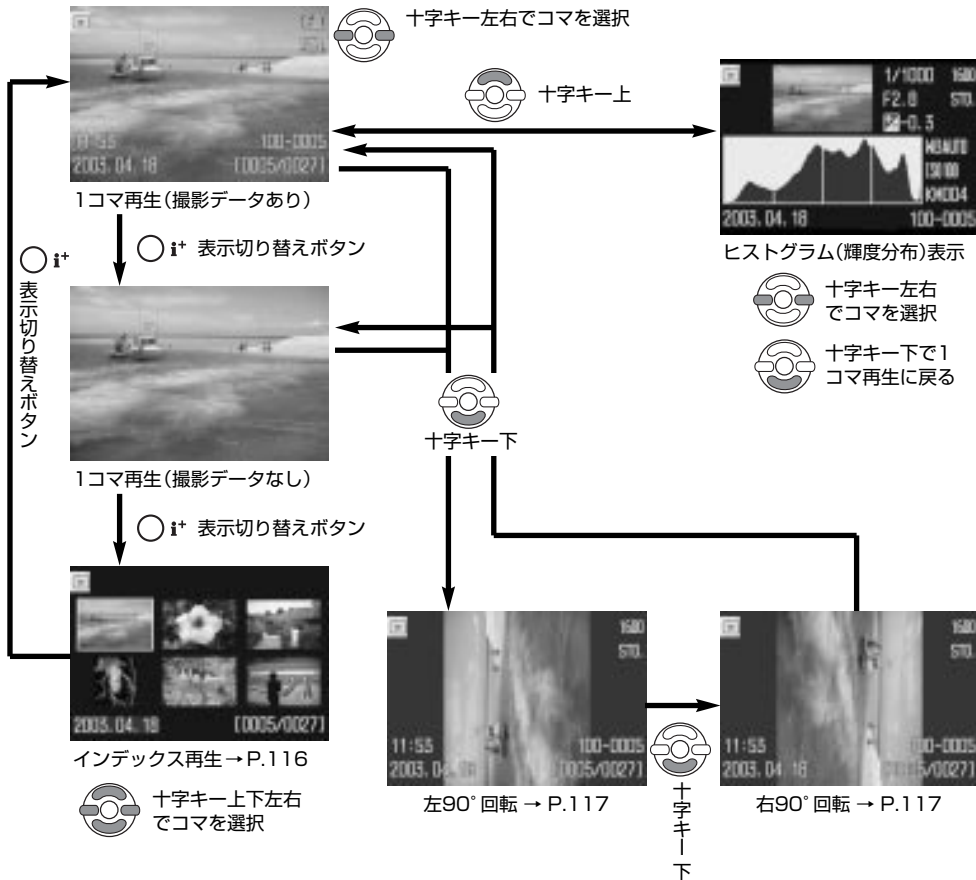
静止画や動画の再生（撮った画像/動画を画面で見る）について説明してあります。
またメニュー設定で、画像をまとめて消去したり、動画の不要部分を消去したり、一定間隔で自動再生させたり、画像のコピーやメール添付用画像の作成も行なえます。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

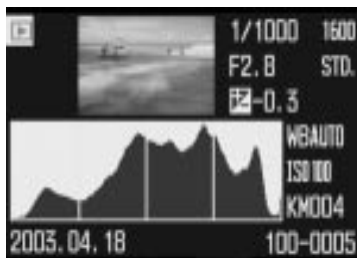
古い画像　　新しい画像

- 十字キー(の左右)を押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- クイックビュー(→ P.123)でも再生モードと同じ操作が可能です(再生モードメニューを除く)。
- 動画の場合は、動画撮影開始時の画像が表示されます。

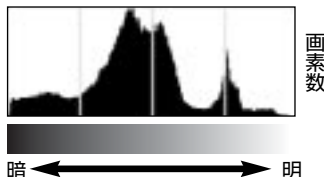
画面表示の切り替え

再生モードおよびクイックビュー時には、表示切り替えボタンと十字キー（上下左右）により、以下の通り画面の切り替えができます。

インデックス再生

6コマ分を一度に液晶モニターに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

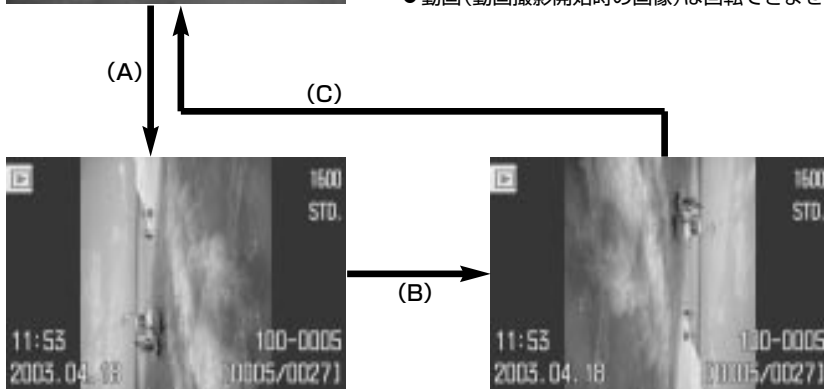
- 動画の場合は、動画撮影開始時の画像が表示されます。

ヒストグラム（輝度分布）表示

1コマ再生時に十字キーの上キーを押すと、画像のヒストグラム（輝度分布 → P.118）と撮影データが表示されます。

- 再度十字キーの上キーを押すか、または十字キーの下キーを押す、あるいはメニューボタンを押すと、1コマ再生にもどります。
- 十字キーの左右を押すとコマを選択することができます。

- 動画のヒストグラム表示はできません。左右キーでコマを選択中にいったん動画を表示させると、次からはすべての画像が1コマ再生にもどります。

画像の回転

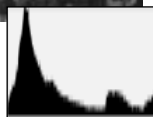
1コマ再生時に十字キーの下を押すと、画像が回転します。カメラ縦位置で撮った画像を見るときに便利です。

- 十字キーの下を1回押すと左方向（反時計回り）に90˚ 回転します（A）。もう一度押すと、元の表示から右方向（時計回り）に90˚ 回転した画像に変わり（B）、さらにもう一度押すと元の表示にもどります（C）。
- 動画（動画撮影開始時の画像）は回転できません。

- いったん回転させた後別のコマを表示させ、再びそのコマの再生に戻ると、回転された状態で再生されます。
- パソコンに取り込んだ画像は、使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります（付属の DiMAGE Viewer では正しく回転された状態で表示されます）。
- SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチが「書き込み禁止」位置になっているとき（→ P.22）は、画像の回転はできません。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

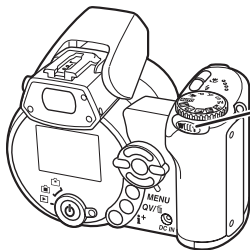
＋側に
露出補正を
かける

＋側に露出補正をかけると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

ヒストグラムの左右両端は、白または黒100%*を表します。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の階調は再現できないことになります。撮影前にヒストグラムを確認することで、このような画像の状態を前もって知ることができます。

*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR 255、G 255、B 255、黒はR 0、G 0、B 0

- 撮影前のリアルタイムヒストグラム（→ P.61）は、その時に液晶モニター、または、ファインダーに表示されている画像（ライブビュー画像）のヒストグラムを表します。したがって、ライブビュー画像と実際に撮影される画像の明るさが異なる場合（露出モードMモードでフラッシュを発光させる場合など）は、撮影後にヒストグラムを確認してください。→ P.116
- 被写体の状況や画像処理によって、撮影前と後のヒストグラムに若干の差が生じることがあります。

拡大再生

再生モードおよびクイックビュー中に、画像の一部を最大6倍まで拡大することができます。

1. 再生モード位置またはクイックビュー中に、ズームレバーを右(T側)に1回動かします。

- 拡大再生のズーム画面になり、画面右上に拡大倍率が表示されます。
- 動画は拡大再生できません。

2. ズームレバーを左右に動かして、拡大倍率を変更します。

- 右(T側)に1回動かすと画像が拡大され、左(W側)に1回動かすと画像が縮小します。
- 1.2倍～6倍の範囲内で、0.2倍ごとに倍率が選択できます。動かし続けると早送りされます。

- 拡大再生中は、画面右上に、元画像のどの部分を拡大表示しているかを示す表示が現れます。白色は元画像全体を、中の黄色は拡大再生されている部分を現します。

- 十字キーの上下左右で表示エリアを移動させることができます。
- 移動にあわせて、白色内の黄色の部分も移動します。
- 元画像の端まで移動させると、三角の表示が消えて(左図の例では左向きの三角表示)、それ以上移動できないことをお知らせします。

3. メニューボタンまたは十字キー中央の実行ボタンを押すと、通常の1コマ再生にもどります。

- 表示切り替えボタンを押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

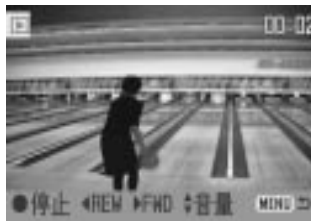
動画再生

撮影した動画を再生します。

1. 十字キーの左右で、動画が撮影されたコマを選びます。

● 動画撮影開始時の画像が表示されます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

● 右上の数値は経過秒数です。

● 再生中は、
- ・十字キーの上下で音量の調整ができます（上キーで音量アップ、下キーで音量ダウン）。
- ・十字キーの左右を押し続けると、巻き戻しと早送りができます（左が巻き戻し、右が早送り）。
- ・表示切り替えボタン ○ᵢ⁺ で、再生中の動画以外の表示を消すことができます。もう一度押すと、再び表示されます。
- ・十字キー中央の実行ボタンで、一時停止・再開を繰り返します。

● 最後まで再生すると、自動的に動画再生開始前の状態に戻ります。
● 途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

● 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
● 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。

※動画撮影について → P.104

動画から静止画を切り出す（セレクトショット）

撮影済みの動画からお気に入りの画面（シーン）を静止画として切り出して保存できます。

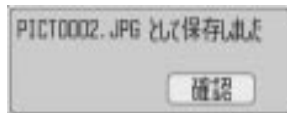
1. 動画を再生し、静止画として保存したいところで十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 一時停止状態になります。
- 十字キーの左右を押すと、静止画として保存したいシーンを選ぶことができます。

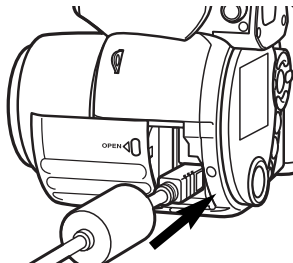
2. 十字キーの上キーを押します。

- 右図のメッセージが現れます。

3. 十字キーの左で［はい］を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 保存確認のメッセージが表示されます（右図）。
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、動画再生の一時停止状態にもどります。必要なら、**1.**～**3.**の操作を繰り返してください。

- 上記の操作で保存された静止画の画像サイズは、再生していた動画の画像サイズと同じサイズになります（800×600、640×480、320×240、160×120 のいずれかになります）。
- 上記の操作で保存された静止画の画質は、エコノミー相当になります（ただし、動画の圧縮率と静止画の画質(圧縮率)とは一致しませんので、切り出された静止画像には画質の情報は記録されていません）。

画像をテレビで見る

付属のAVケーブルAVC-400でカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1. テレビとカメラの電源を切ります。

2. AVケーブルの黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

3. カメラ側面のカードスロットふたを開け、AVケーブルのもう一方の側をAV出力端子に差し込みます（左図）。

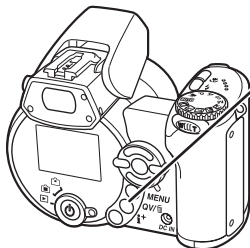
- AVケーブルのコネクタがAV出力端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の▶マークが液晶モニター側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。

4. テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5. カメラの電源を入れ、撮影/再生切り替えレバーを▶位置（再生モード）に合わせます。

- 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像がそのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様の操作ができます。
- 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→ P.168

画像を手早く消去する

再生モード位置またはクイックビュー中にクイックビュー/消去ボタンを押すと、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

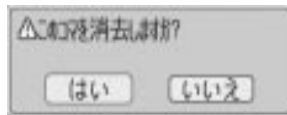
いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 十字キーの左右で、消去したい画像を選びます。

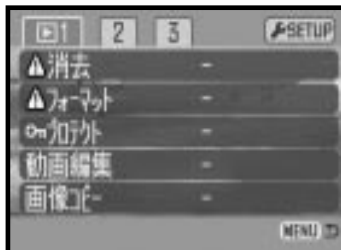
- 動画も消去できます。

QV/🗑

2. クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 右図のメッセージが現れます。

3. 十字キーの左で [はい] を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 選んだ画像が消去されます。他の画像も消去するときは、**1.**～**3.**の操作を繰り返してください。

再生モードメニュー

再生モード(撮影/再生切り替えレバー▶位置)のときにメニューボタンを押すと、以下に示す設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→ P.70

※SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチが「書き込み禁止」位置になっているとき(→ P.22)は、[▶**1**]タブ、および、[▶**3**]タブの項目はすべて設定できません。

▶1	
消去 (→ P.126)	このコマ
	全コマ
	コマを指定
フォーマット (→ P.128)	実行する
プロテクト (→ P.129)	このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し
動画編集* (→ P.131)	実行する
画像コピー (→ P.134)	このコマ
	コマを指定

* [動画編集] は、動画撮影されたコマを再生画面に表示させている場合のみ選択できます。

▶2	
スライドショー (→ P.137)	実行する
再生画像 (→ P.138)	[全コマ]
	コマを指定
間隔 (→ P.138)	1〜60秒 [5秒]
繰り返し (→ P.138)	あり
	[なし]

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

▶3	
DPOF指定 (→ P.140)	このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し
日付プリント (→ P.143)	あり
	[なし]
インデックスプリント (→ P.143)	作成する
	作成しない
メール画像作成 (→ P.144)	このコマ
	コマを指定
画像サイズ (→ P.144)	[640×480]
	160×120

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。

このコマ(1コマ消去)：　再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去：　カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。

※1コマずつ手早く消去する方法もあります。→ P.123

いったん消去した画像を復活させることはできません。

MENU →［▶1］→［消去］→【右側へ移動】→［消去方法を選択］→ ● 実行

1. 上記の手順で希望の消去方法を選択します。

「このコマ」「全コマ」の場合 **4.**の確認画面へ	「コマを指定」の場合 **2. 3.**でコマを指定後、**4.**の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーの左右で消去するコマを選び、十字キーの上キーを押して指定します。

左右で
画像を選択して、

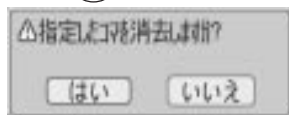
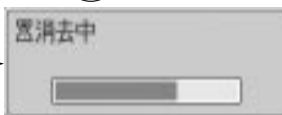
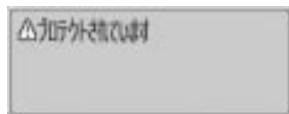
上で
画像を指定します。

消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下キーを押すと、画像の指定を取り消します。

3.実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- **4.**の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

4.確認後、消去を実行します。（下図は指定コマ消去の場合の表示）

- 左のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→P.129
- 全コマ消去の場合、左のメッセージは現れませんが、プロテクト（誤消去防止）された画像は消去されずに残ります。

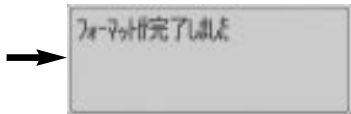
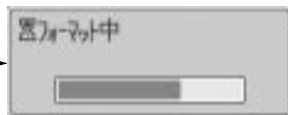
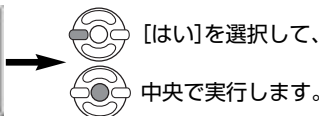
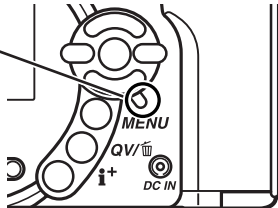
カードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダ（→ P.156～）をすべて消去するときには、SDメモリーカードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

MENU →［▶1］→［フォーマット］→【右側へ移動】→［実行する］→ ● 実行

1. フォーマットするカードをカメラに入れ、上記の手順でフォーマットを選択します。

2. 十字キーでカードのフォーマットを実行します。

● フォーマット中はアクセスランプが点滅します。点滅中はカードを抜かないでください。

● カードのフォーマットは、このページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードをフォーマットすると、カメラがカードを認識できないことがあります。カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影する前にカメラで再フォーマットしてください。

プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の3通りのプロテクト方法と、プロテクトの取り消しがあります。

このコマ（1コマプロテクト）：
　　再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
　　1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。

全コマ（全コマプロテクト）：
　　カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。

コマを指定：
　　指定した画像だけにプロテクトをかけます。

全コマ取り消し：
　　カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

MENU →［▶1］→［プロテクト］→【右側へ移動】→［プロテクト方法を選択］→ ● 実行

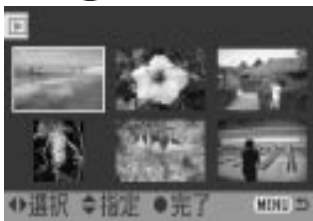
1. 上記の手順で希望のプロテクト方法を選択します。

「このコマ」「全コマ」「全コマ取り消し」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
2. 3. でコマを指定

● 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに🔑が表示されます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でプロテクトするコマを選び、十字キーの上キーを押して指定します。

左右で
画像を選択して、

上で
画像を指定します。

プロテクトを指定したコマには🔑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下キーを押すと、画像の指定を取り消します。

中央で
指定を完了

3.実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクト(コマ指定)が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。。
- 十字キー中央の実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

動画編集（撮影済みの動画から不要部分を消去）

撮影済みの動画から不要な部分を消去して新たな動画を作成します。元の動画は、残すことも消去することもできます。

[動画編集] は、動画が撮影されたコマを再生画面に表示させているときに選択できます。

1.動画が撮影されたコマを再生画面に表示させます。

MENU →［▶1］→［動画編集］→【右側へ移動】→［実行する］→ ● 実行

2.上記操作で、メニューから [動画編集] を選び、実行します。

● 動画がカメラ内部のメモリーに読み込まれた後、編集（消去部分）の開始点を選ぶ画面が表示されます。

3.左右キーで、編集（消去部分）の開始点を指定します。

● 左右キーの右キーを押すたびに映像が1フレームずつ送られ、左キーを押すたびに1フレームずつ戻されます。キーを押し続けると早送り/早戻しされます。

4.編集（消去部分）の開始点を指定したら、下キーを押します。

● 編集（消去部分）の終了点を指定する画面（左図）が表示されます。

5. 左右キーで、編集（消去部分）の終了点を指定します。

- 左右キーの右キーを押すたびに映像が1フレームずつ送られ、左キーを押すたびに1フレームずつ戻されます。キーを押し続けると早送り/早戻しされます。
- 開始点より前の点は選べません。開始点を変更したいときは、上キーを押すと前ページ操作**3.**の画面に戻りますので、左右キーで開始点を変更してください。その後、下キーを押すとこの画面（左図）に戻ります。

6. 編集（消去部分）の終了点を指定したら、下キーを押します。

- 編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）を確認する画面（左図）が現れます。

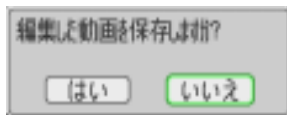
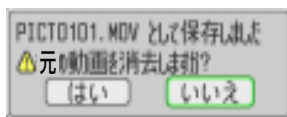
7. 確認のため編集後の動画を再生するときは、中央の実行ボタンを押します。

- 編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）が再生されます。
- 再生が終わると、再び上記操作**6.**の画面が表示されます。下キーを押して操作**8.**に進んでください。編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）を保存する画面（右上図）が現れます。

編集後の動画を再生しない場合は、そのまま下キーを押して操作8.に進みます。

- 編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）を保存する画面（右上図）が現れます。

8. 中央の実行ボタンを押します。
以下の確認画面が表示されますので、左右キーで [はい] か [いいえ] を選んで、実行ボタンを押します。

- 編集後の動画のサイズがカードの残り容量よりも大きい場合は、編集後の動画の保存はできません。

- [いいえ] を選んだときは、編集後の動画は保存されません。画面は操作**8.**のままですので、メニューボタンを押して、動画編集を終了してください。
- [はい] を選んだときは、編集後の動画が保存されます。保存後は、確認と元の動画を残すか消去するかを選ぶ以下の画面が表示されます。

9. 元の動画を消去するときは、左右キーで [はい] を選んで、実行ボタンを押します。
元の動画を残すときは、左右キーで [いいえ] を選んで、実行ボタンを押します。

- メニュー画面に戻りますので、メニューボタンを押して、動画編集を終了してください。

- 編集後の動画に対しても、同様に動画編集を行なうことができます。元の動画から2ヶ所以上の編集を行ないたい場合に便利です。

画像のコピー

あるカードに記録された画像を、別のカードにコピーすることができます。

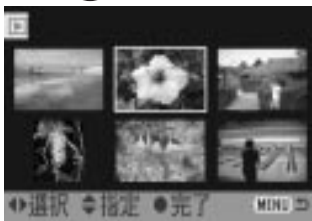
このコマ（1コマコピー）：　再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定：　指定した画像だけをコピーします。

MENU →［▶1］→［画像コピー］→【右側へ移動】→［指定方法を選択］→ ● 実行

1. 上記の手順で希望のコマ指定方法を選択します。

「このコマ」の場合	「コマを指定」の場合
4.のコピー実行へ	**2. 3.**でコマを指定後、**4.**のコピー実行へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でコピーするコマを選び、十字キーの上キーを押して指定します。

左右で
画像を選択して、

上で
画像を指定します。

コピーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

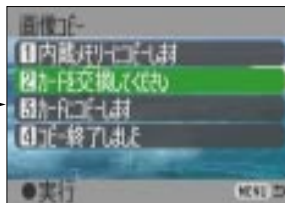
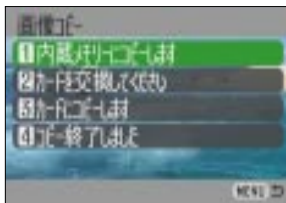
- 十字キーの下キーを押すと、画像の指定を取り消します。

中央で
指定を完了

3. 実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

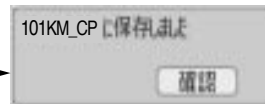
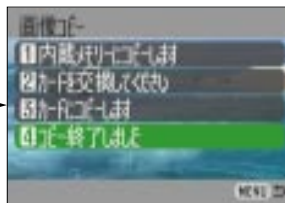
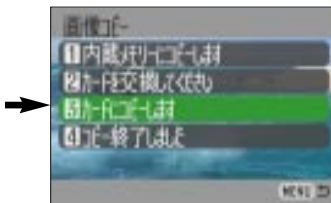
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、**4.**のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

4. 画面の指示にしたがってコピーを実行します。

この状態でしばらく待ちます。

別のカードに交換した後、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- カードを交換せずに実行ボタンを押すと、同一カード内にコピーされます。
- メニューボタンで元にもどります。

この状態でしばらく待ちます。

101KM_CP に保存しました
確認

コピー先のフォルダ名が表示されます。

中央で確認 → メニューボタンで元の画面に

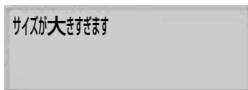
セットアップ
再生編

画像のコピー（続き）

● 画像をコピーすると、
再生時には、コピーされた画像が最新画像として液晶モニターに表示されます。
パソコンに接続すると、カード内に "KM_CP"のフォルダが新たに作成され、コピーされた画像はその中に保存されています。コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。先頭の数字3桁はフォルダの通し番号です。詳しくは → P.156、157
（KM＝Konica Minolta、CP＝Copy の意味）
● 動画もコピーできます。
● プロテクトされた画像をコピーした場合、コピーされた画像にはプロテクトがかかっていません。

画像が多すぎます
指定し直してください

● 左のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。

サイズが大きすぎます

● 大きなサイズの動画ファイルを指定してコピーしようとすると、左のメッセージが現れることがあります。指定した画像サイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続し（→P.172）、パソコン経由でコピーしてください。

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、カード内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

MENU →［▶2］→［スライドショー］→【右側へ移動】→［実行する］→ ● 実行

1.上記の手順でスライドショーを実行させます。

- スライドショーが開始されます。
- スライドショー実行中に十字キーの中央を押すと、一時停止・再スタートが繰り返されます。

MENU

2.スライドショーを終えるときは、メニューボタンを押します。

- その後もう一度メニューボタンを押すと、元の再生画面にもどります。

- 動画もスライドショーで再生されます。
- スライドショー開始前にあらかじめ、表示切り替えボタン ○ で撮影データを消しておくこともできます。

セットアップ
再生編

スライドショーの設定変更

スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像：　全コマ（全コマを再生する）／コマを指定（再生するコマを指定する）
間隔（画像表示時間）：　1〜60秒の範囲で、1〜10秒は1秒ごと、10〜60秒は5秒ごと
繰り返し：　あり／なし

1. 以下の手順で、希望の項目と設定を選択します。

MENU →［▶2］→［間隔］→【右側へ移動】

「間隔」を選んだ場合
2.に進んで間隔を設定

MENU →［▶2］→［再生画像］→【右側へ移動】

「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
3. 4.に進んでコマを設定

「再生画像」で「全コマ」を選んだ場合
続けて、「スライドショー」→「実行する」でスライドショー再生（→ 前ページ）

2. 項目で「間隔」を選んだときは、十字キーの上下で再生の間隔を設定します。

上下で再生の間隔（秒）を指定し、

中央で決定

続けて、「スライドショー」→「実行する」でスライドショー再生（→ 前ページ）

3.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でスライドショー再生するコマを選び、十字キーの上キーを押して指定します。

左右で
画像を選択して、

上で
画像を指定します。

スライドショーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下キーを押すと、画像の指定を取り消します。

中央で
指定を完了

4. 実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定が完了します。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

続けて、「スライドショー」→「実行する」でスライドショー再生(→ 137ページ)

- 動画も指定できます。
- 繰り返しを「あり」に設定した場合は、スライドショー再生がずっと繰り返されます。再生を止めるにはメニューボタンを押してください。

DPOF(プリント)指定

撮影した画像を、ご自分のプリンタでプリントする場合やプリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことができます。

● プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。SDメモリーカード等のメディアに入っている画像のうち、どれを何枚印刷するのかを指定する方法。

デジカメで撮影した画像のプリント方法

①ご自分のプリンタで印刷する

画像をパソコンに取り込んで、そこから印刷する方法が一般的です。
PictBridge対応のプリンタをお使いの場合は、カメラとプリンタを付属のUSBケーブルで接続するだけでプリントすることができます。→ P.188～

②ネットプリントを利用する

インターネット経由でプリントの依頼ができます。コニカミノルタオンラインラボ http://onlinelab.jp/ では、画像のプリントのほかに、「オンラインアルバム」「オンラインDVDサービス」などさまざまなサービスをご用意しております。ぜひご利用ください。

③ご購入店やコンビニなどにプリントを依頼する

メモリーカードを、ご購入店やカメラ店、コンビニ等にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

プリントする画像を指定する

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法と、全コマ取り消しがあります。

このコマ(1コマプリント)： 再生中の画像を1コマだけDPOF(プリント)指定します。
全コマプリント： カード内の画像すべてをDPOF(プリント)指定します。
コマを指定： 指定した画像だけをDPOF(プリント)指定します。
全コマ取り消し： カード内の画像すべてのDPOF(プリント)指定を取り消します。

● 動画のDPOF(プリント)指定はできません。

MENU →[▶3]→[DPOF指定]→【右側へ移動】→[指定方法を選択]→●実行

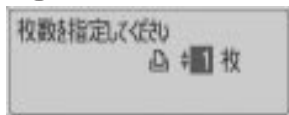
1. 上記の手順で希望のプリント指定方法を選択します。

「このコマ」「全コマ」の場合
2.に進んで枚数を指定

「コマを指定」の場合
3. 4.でコマと枚数を指定

2.「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。

- 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。
- 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

上下で
枚数を指定して、

中央で決定

メニューボタンで元の画面に

- 再生時、DPOF（プリント）指定された画像には、液晶モニターに🖶と枚数が表示されます。🖶のみで数字がなければ、DPOF（プリント）指定枚数は1枚です。
- 全コマ指定後に撮影した画像は、DPOF（プリント）指定されません。

3.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でDPOF(プリント)設定するコマを選び、十字キーの上下キーを押して印刷枚数を指定します。

左右で
画像を選択して、

上下で
枚数を指定します。

プリント指定したコマには 🖶 が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

中央で
指定を完了

4.実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、DPOF(プリント)指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

- 再生時、DPOF(プリント)指定された画像には、液晶モニターに 🖶 と枚数が表示されます。🖶 のみで数字がなければ、DPOF(プリント)指定枚数は1枚です。

日付プリント

プリントする際に、プリンタ側で日付を印字するかどうかを選べます。日付の印字される場所（画面内/画面外）や印字される文字のサイズ等は、お使いのプリンタによって異なります。

- 印字されるのは「年月日」だけです。時刻は印字されません。
- プリンタによっては、この機能に対応していない機種もあります。
- 画面内右下への日付写し込み（→ P.163）とは別の機能ですので、重なって印字されないようお気をつけください。

MENU →［▶3］→［日付プリント］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行 → **MENU**

インデックスプリント

カードに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントを作成するかしないかを選べます。初期設定ではインデックスプリントは［作成しない］です。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- インデックスプリントを［作成する］に設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

MENU →［▶3］→［インデックスプリント］→【右側へ移動】→［作成する または 作成しない］→ ● 実行 → **MENU**

メール画像作成

カードに記録された画像から、Eメール添付に適したメール画像（画像サイズ：640×480、または、160×120、画質：エコノミー、または、スタンダード）を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。

このコマ（1コマのみ作成）：　再生中の画像を1コマだけメール用に新たに作成します。

コマを指定：　指定した画像をすべてメール用に新たに作成します。

画像サイズの設定

画像サイズは、メール画像を作成する前にあらかじめ設定してください。

MENU → [▶3] → [画像サイズ] →【右側へ移動】→ [640×480 または 160×120] → ● 実行 → **MENU**

上記の手順で、作成するメール画像のサイズを選びます。

- 画像サイズ640×480の画像は、パソコンなどでのEメールに添付する画像に適しています。160×120の画像は、携帯電話へのメールに添付する画像に適しています。

メール画像の作成

MENU → [▶3] → [メール画像作成] →【右側へ移動】→ [指定方法を選択] → ● 実行

1. 上記の手順で希望のコマ指定方法を選択します。

「このコマ」の場合
4.の確認画面へ

「コマを指定」の場合
2. 3.でコマを指定後、**4.**の確認画面へ

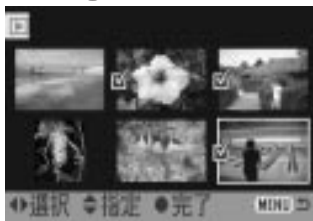
2.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でメール画像作成するコマを選び、十字キーの上キーを押して指定します。

左右で
画像を選択して、

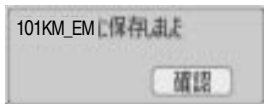
上で
画像を指定します。

画像作成を指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下キーを押すと、画像の指定を取り消します。

中央で
指定を完了

3.実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、**4.**の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

4. メール画像作成が完了すると、以下の確認画面が現れます。

保存先のフォルダ名が表示されます。

● 再生時、メール画像として作成された画像には、液晶モニターに ✉ が表示されます。

メール画像を作成すると、

- ● 再生時には、新たに作成された画像が最新画像として液晶モニターに表示されます。
- ● パソコンに接続すると、カード内に "KM_EM" のフォルダが自動的に作成され、作成されたメール画像はその中に保存されています。先頭の数字3桁はフォルダの通し番号です。詳しくは → P.156、157
  （KM＝Konica Minolta、EM＝E-mail の意味）

● 動画から直接メール画像を作成することはできません。この場合、動画の1シーンを静止画として切り出してから（→ P.121）、メール画像を作成してください。ただし、320×240、および、160×120サイズの動画から切り出した静止画から 640×480サイズのEメール画像は作成できません。

● プロテクトされた画像からメール画像を作成した場合、作成された画像にはプロテクトがかかっていません。

画像が多すぎます
指定し直してください

●左のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

作成できません

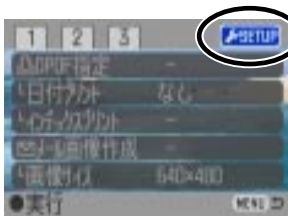
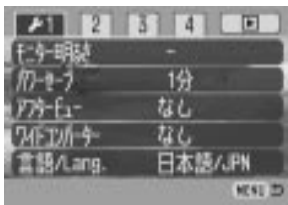
●左のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えているか、動画 あるいは すでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成できません。

セットアップ編

画面の明るさや表示言語など、このカメラ全般に関するさまざまな設定を変更できます。

セットアップモードにするには

1. メニューボタンを押してメニュー画面を表示させせます。

●撮影モード、動画(撮影)モード、再生モードのいずれのメニュー画面でも構いません(左図は再生モード)。

2. 十字キーの左右で、画面右上の［SETUP］を選んで反転(表示)させせます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

●セットアップモードの画面が現れます。

セットアップモードメニュー

セットアップモードでは以下の設定が可能です。操作方法は撮影モードメニュー（→ P.70）と同じです。

1	
モニター明るさ （→ P.152）	実行する
パワーセーブ （→ P.153）	10分
	5分
	3分
	[1分]
アフタービュー （→ P.153）	10秒
	2秒
	[なし]
ワイドコンバーター （→ P.154）	あり
	[なし]
言語/Lang. （→ P.155）	[日本語/JPN]
	English
	Deutsch
	Français
	Español

※ [　　　] で囲んだものは初期設定です。

2	
ファイルNo.メモリー （→ P.158）	あり
	[なし]
フォルダ形式 （→ P.160）	[標準形式]
	日付形式
ノイズリダクション （→ P.161）	[あり]
	なし
日時設定 （→ P.161）	実行する
日付写し込み （→ P.163）	あり
	[なし]

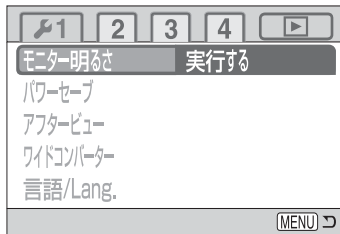
※ [　　　] で囲んだものは初期設定です。

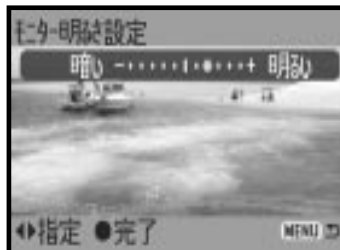
🔧3	
設定値リセット (→ P.164)	実行する
操作音 (→ P.167)	[音1]
	音2
	なし
AF音 (→ P.167)	[音1]
	音2
	なし
シャッター音 (→ P.167)	[音1]
	音2
	なし
音量 (→ P.167)	3(大きい)
	[2]
	1(小さい)

※ [　　　] で囲んだものは初期設定です。

🔧4	
ビデオ出力 (→ P.168)	[NTSC]
	PAL
USB接続 (→ P.169)	[カードリーダー]
	PictBridge

※ [　　　] で囲んだものは初期設定です。

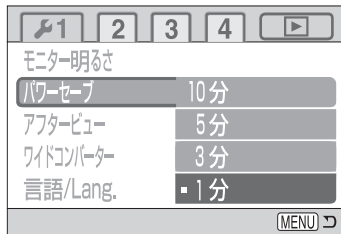
モニターの明るさ調整

液晶モニター、および、ファインダーの明るさを調整することができます。
液晶モニターとファインダーとでそれぞれ別々の明るさを設定できます。液晶モニターの明るさを調整するときは液晶モニターに画像が表示されているときに、ファインダーの明るさを調整するときはファインダーに画像が表示されているときに以下の操作を行なってください。

SETUP →［🔧1］→［モニター明るさ］→【右側へ移動】→［実行する］→ ● 実行

1. 上記の手順で、モニター明るさ調整画面を表示させます。
- 左図の画面が現れます。

2. 十字キーの左右でモニターの明るさを調整します。

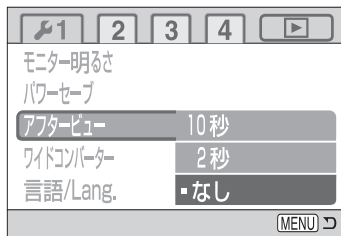
3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 元の画面にもどります。

- セットアップモードメニューから実行する代わりに、表示切り替えボタンを約2秒間押し続けると、上記の明るさ調整画面が現れて画面の明るさを調整できます。

パワーセーブ

このカメラは、約1分以上何も操作をしないでいると、節電のため低消費電力状態になります（パワーセーブ）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。初期設定は［1分］です。

● 液晶モニターは約1分間何も操作をしなければ消灯します。この時間の変更はできません。

SETUP →［1］→［パワーセーブ］→【右側へ移動】→［時間を選択］→ ● 実行

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を指定した時間（秒）画面に表示させることができます。初期設定は アフタービュー［なし］です。

SETUP →［1］→［アフタービュー］→【右側へ移動】→［希望の設定を選択］→ ● 実行

アフタービュー なし

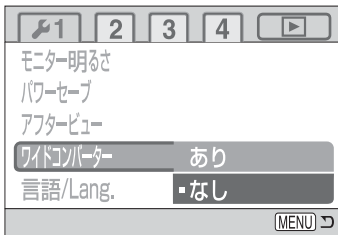
撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面（その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される）にもどります。初期設定はアフタービュー なしです。

- アフタービューをなしにしていても、撮影後シャッターボタンを押し込んだまま指を離さずに押し続けていると、その間撮影した画像が液晶モニターに表示され、アフタービューの代わりになります。

アフタービュー 2秒/10秒

撮影直後の約2秒間または約10秒間、撮影した画像を画面に表示させます。

- 2秒間/10秒間の画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
- 連続撮影やブラケット撮影の場合は、インデックス表示（画面に6コマが同時に表示される）になります。UHS連続撮影では1～6コマ→7～12コマ→13～15コマの順で、シャッターチャンス連写では5コマまで、シャッターチャンスUHS連写では1～6コマ→7～12コマの順で、それぞれアフタービューの時間 画面に表示されます。
- 連続撮影、または、ブラケット撮影のときで、日付写し込み［あり］の場合、または、ノイズリダクションが実行される場合（→ P.67、161）は、アフタービューは表示されません。

ワイドコンバーター

ワイドコンバーター（別売）を装着し、それを使用して撮影するときは、この画面で ワイドコンバーター［あり］に設定してください。カメラの設定がワイドコンバーター用の設定に切り替わります。
初期設定は ワイドコンバーター［なし］です。

SETUP →［1］→［ワイドコンバーター］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行

- ワイドコンバーター［あり］にすると、画面左上にそれを知らせる絵記号が表示されます（右図）。
- ワイドコンバーターを装着し、この設定を［あり］にすると、レンズが最も広角側（6.3㎜）に自動的にズームしそこで固定されます。スーパーマクロモードは使用できません。詳しくは、ワイドコンバーターキット ZCW-100の使用説明書をご覧ください。
- 内蔵フラッシュはその光が大きくさえぎられてしまいます。ワイドコンバーターを装着してフラッシュ撮影するときは、別売の外付けフラッシュのご使用をおすすめします。

言語設定

画面に表示される言語を、5カ国語の中から選ぶことができます。初期設定は［日本語/JPN］です。

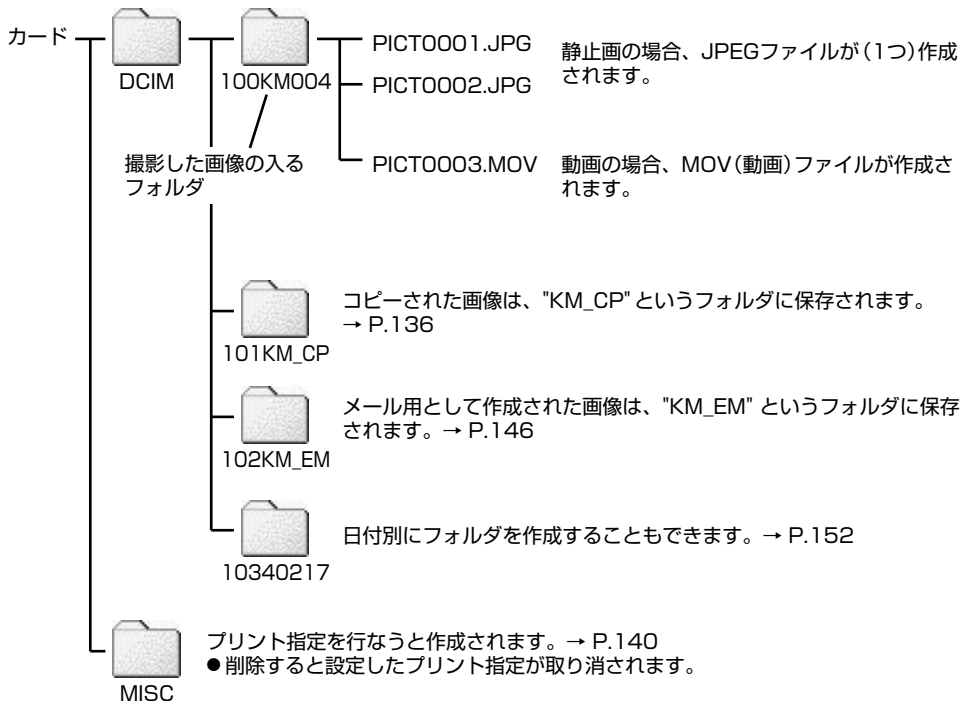
セットアップ 再生編

SETUP →［🔧1］→［言語/Lang.］→【右側へ移動】→［希望の表示言語］→ ● 実行

- 選べる言語は以下の通りです。
  - ・日本語
  - ・英語（**English**）
  - ・ドイツ語（**Deutsch**）
  - ・フランス語（**Français**）
  - ・スペイン語（**Español**）

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。パソコンに接続すると見ることができます。→ P.170

フォルダ名について

標準形式の例：100 KM004

- フォルダの通し番号（100～）
- 識別文字

日付形式の例：100 40217

- フォルダの通し番号（100～）
- 年(西暦の下1桁)月日

フォルダ名は、**標準形式**の場合、“フォルダの通し番号3桁”＋“識別文字5文字”
日付形式の場合、“フォルダの通し番号3桁”＋“年(西暦の下1桁)月日” となります。

フォルダ番号（フォルダの通し番号）は “100” から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
標準形式のフォルダの場合、識別文字は “KM004” です。“KM” はコニカミノルタを、“004” はこのカメラ（DiMAGE Z2）を表します。
標準形式/日付形式いずれのフォルダの場合も、画像をコピーすると “KM_CP”、メール画像を作成すると “KM_EM” という識別文字のフォルダが作成されます。

- 標準形式フォルダの識別文字5文字、および、日付形式フォルダの年月日5文字は、カメラをパソコンに接続してカード（の内容）を表示させたとき、または、カメラで再生してヒストグラムを表示させたとき（→ P.116）に確認できます。
- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（→ P.170～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください(→ P.128)。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

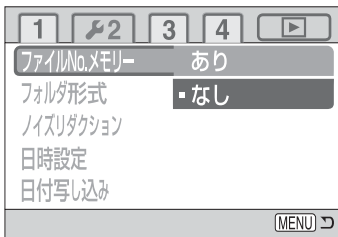
ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び “0001” から始まります（初期設定のファイルNo.メモリーなしの場合、→ P.158）。
- “PICT9999” まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（156ページの場合だと “104KM004”）、その中で再び" “PICT0001” から画像の記録が開始されます。
- 各フォルダ内では、常にファイル名は “PICT0001” から（すでにファイルが存在する場合はその次の番号から）始まります（初期設定のファイルNo.メモリーリなしの場合、→ P.158）。

※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.158

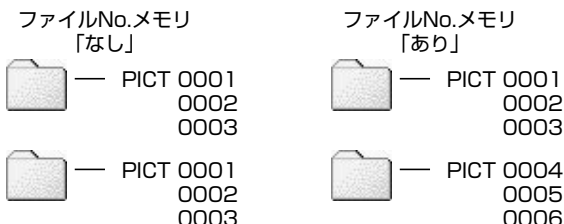
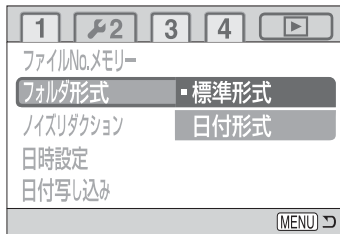
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

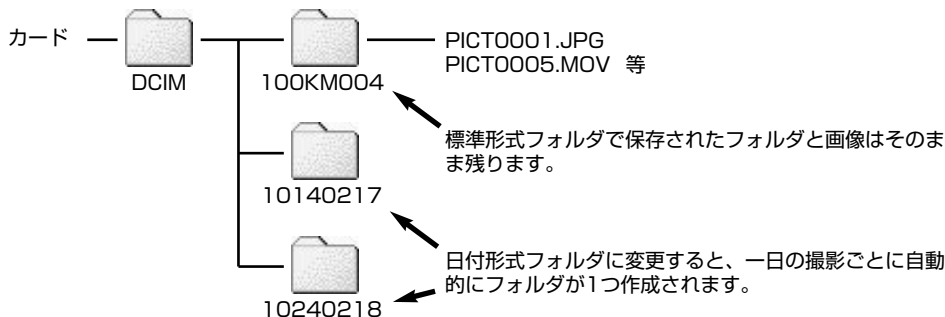
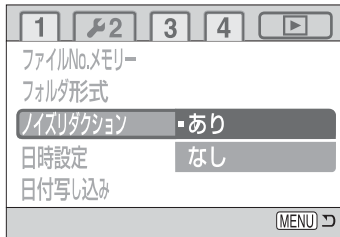
ファイルNo.メモリー

初期設定の「ファイルNo.メモリー なし」では、フォルダが変わるたびにファイル名は再び “PICT0001” から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし：　ファイルNo.メモリーは機能しません。画像のコピーやメール画像の作成、日付形式フォルダで日付が変わる等でフォルダが変わると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

あり：　ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

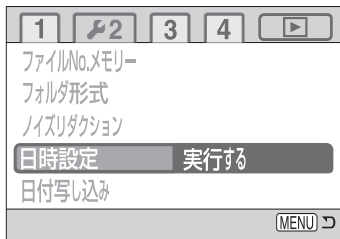
SETUP →［🔧2］→［ファイルNo.メモリー］→【右側へ移動】→［あり または なし］→●実行

イメージ図

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

初期設定の標準形式フォルダ（100KM004 等）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存することができます。

SETUP → [2] → [フォルダ形式] → 【右側へ移動】 → [標準 または 日付] → ● 実行

ノイズリダクション

長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。このカメラでは、シャッター速度が1秒以上の場合はスローシャッターノイズリダクション*が機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズを低減させます。
このノイズリダクションの有無を切り替えることができます。
初期設定は「あり」です。

*リダクション ＝ Reduction（低減、削減）

SETUP →［2］→［ノイズリダクション］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ●実行

- ノイズリダクションが「あり」の状態で1秒以上の撮影を行なうと、撮影後 数秒～30数秒間程度、ノイズ軽減処理が行われます。ノイズリダクション中は液晶モニターが消灯して「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。この間は撮影はできません。→ P.67
- ノイズリダクションを「なし」にすると、ノイズ軽減処理が行われません。撮影後、すぐに次の撮影を行なうことができます。
- ノイズを完全には取り除くことができない場合があります。

日時設定/日付並べ替え

日時の修正が必要な場合は、次ページの手順で行なってください。「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることもできます。

- 通常は、撮影のたびに設定する必要はありません。

SETUP →［🔧2］→［日時設定］→【右側へ移動】→［実行する］→ ● 実行

1. 上記の手順で、日時設定を実行します。

- 左図の設定画面が現れます。

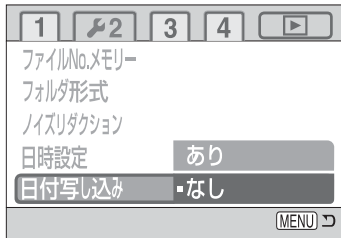
2. 十字キーの左右で数値を変更したい項目を選び（反転させ）、十字キーの上下で数値を指定します。

- 十字キーの上下を押し続けると、数値が早送りされます。
- メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面にもどります。

3. 必要なだけ 2.の操作を繰り返します。

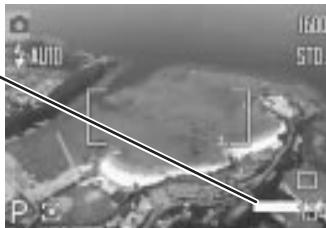
- 年月日の並び順を変更するときは、十字キーの左右で年/月/日の部分を反転させ、十字キーの上下で並び順を選びます。

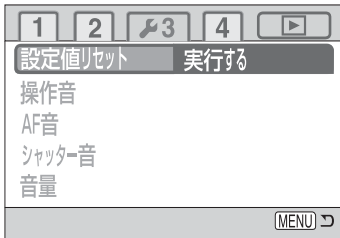
4. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

日付写し込み

撮影の年月日を、画面の右下に入れることができます。

初期設定は［なし］です。

SETUP →［2］→［日付写し込み］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行

● 日付写し込み［あり］のときは、画面右下に黄色のバーが表示されます。

● 日付写し込み［なし］の場合でも、撮影時の年月日時刻は、画像とは別情報として記録されており、再生時には画面左下に表示されます。
● シャッターチャンス連写のときは日付写し込みできません。このメニュー画面もグレーダウンし、［あり］を選べません。
● 日付写し込み［あり］に設定していても、シャッターチャンス連写にすると、日付写し込み［なし］になり、画面右下の黄色のバーも消えます。この場合は、ドライブモードをシャッターチャンス連写以外に変更すると、再び日付写し込み［あり］にもどります。
● 日付写し込み［あり］に設定していると、連続撮影の速度が遅くなります。
● DPOF（プリント）指定の「日付写し込み」(→P.143)とは別の機能ですので、重なって印字されないようお気をつけください。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

SETUP →[3]→[設定値リセット]→【右側へ移動】→[実行する]→●実行

1. 上記の手順で、設定値リセットを実行します。

● 左図の確認画面が現れます。

2. 十字キーの左右で [はい] を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定値リセットが完了すると、左図下の画面が現れます。十字キー中央の実行ボタンで元の画面にもどります。

リセットされる内容は以下の通りです。

ボタンで設定するもの

項目	設定	ページ
フラッシュモード	自動発光 または 強制発光	59
スーパーマクロ・マクロ	なし	38 39
シャッター速度	1/250秒	64
絞り値	F5.6	62

項目	設定	ページ
ブラケット段数 ファインダー再生	±0.3 解除（液晶モニター表示）	80 24
露出補正	±0.0	68
液晶モニター表示	撮影情報表示（リアルタイムヒストグラムなし）	61
フォーカスエリア	ワイド	53

AUTO撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
ドライブモード	1コマ撮影	74
画像サイズ	2272×1704	81
画質	スタンダード	83
オートシーンセレクター	ON	32
デジタルズーム	なし	100

シーンセレクター（、、、、）モードメニュー

項目	設定	ページ
ドライブモード	1コマ撮影	74
画像サイズ	2272×1704	81
画質	スタンダード	83
フォーカスモード	オートフォーカス	91
デジタルズーム	なし	100

撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
ドライブモード	1コマ撮影	74
画像サイズ	2272×1704	81
画質	スタンダード	83
ホワイトバランス	AUTO	86
キーカスタマイズ	フラッシュモード	89
フォーカスモード	ワンショットAF	90
フルタイムAF	なし	94
フラッシュモード	自動発光 または 強制発光	95
調光補正	±0.0	96
測光モード	多分割（測光）	97
撮像感度	AUTO	99
デジタルズーム	なし	100
カラーモード	ナチュラルカラー	101

撮影モードメニュー（続き）

項目	設定	ページ
シャープネス	標準	102
コントラスト	標準	103

動画モードメニュー

項目	設定	ページ
画像サイズ	320×240	107
フレームレート	15fps	108
光学ズーム	なし	109
ホワイトバランス	AUTO	109
ナイトムービー	OFF	110
フォーカスモード	撮影中AFあり	110
カラーモード	ナチュラルカラー	112

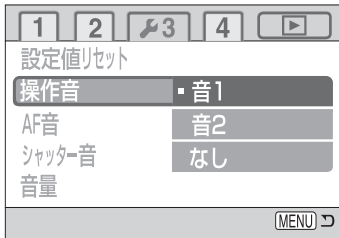
設定値リセット（続き）

再生モードメニュー

項目	設定	ページ
スライドショー再生画像	全コマ	138
スライドショー間隔	5秒	138
スライドショー繰り返し	なし	138
メール画像作成画像サイズ	640×480	144

セットアップモードメニュー

項目	設定	ページ
モニター明るさ	標準	152
パワーセーブ	1分	153
アフタービュー	なし	153
ワイドコンバーター	なし	154
ファイルNo.メモリー	なし	158
フォルダ形式	標準形式	160
ノイズリダクション	あり	161
日付写し込み	なし	163
操作音	音1	167
AF音	音1	167
シャッター音	音1	167
音量	2	167
USB接続	カードリーダー	169

操作音・AF音・シャッター音・音量の設定

カメラを操作すると操作音が、シャッターを切るとシャッター音が出ます。オートフォーカスでピントが合ったときも確認音が鳴ります。それらの音や音量を変えることができます。

操作音、AF音、シャッター音は、［音1］［音2］［なし］の3つから、音量は［1］［2］［3］の3段階から選ぶことができます。

音量は、操作音、AF音、シャッター音のすべてに反映されます。初期設定は、操作音、AF音、シャッター音はすべて［音1］、音量は［2］です。

SETUP →［3］→［操作音］→【右側へ移動】→［音1 または 音2 または なし］→ ● 実行

SETUP →［3］→［AF音］→【右側へ移動】→［音1 または 音2 または なし］→ ● 実行

SETUP →［3］→［シャッター音］→【右側へ移動】→［音1 または 音2 または なし］→ ● 実行

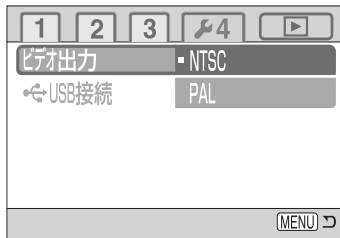
SETUP →［3］→［音量］→【右側へ移動】→［3 または 2 または 1］→ ● 実行

操作音	ボタンを押す、ダイヤルを回すなどカメラの操作したときに出る音	音1（電子音をベースにした音）
		音2（機械音をベースにした音）
		なし（音は出ません）

AF音	オートフォーカスでピントが合ったときに鳴る確認音	音1（電子音をベースにした音）
		音2（α-9のAF音）
		なし（音は出ません）

シャッター音	シャッターを切ったときに出る音	音1（α-9のシャッター音）
		音2（CLEのシャッター音）
		なし（音は出ません）

音量	3（大きい）
	2
	1（小さい）

ビデオ出力方式の切り替え

カメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビで見ることができます(→ P.122)。
テレビのビデオ信号形式にはいくつかのパターンがあり、国や地域によって異なります。日本やアメリカ、韓国等ではNTSC方式、ヨーロッパの多くの国々(フランスを除く)やオーストラリア、中国等ではPAL方式が採用され、両者の間には互換性がありません。
このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。初期設定は [NTSC] です。

SETUP → [4] → [ビデオ出力] → 【右側へ移動】 → [NTSC または PAL] → ● 実行

USB接続

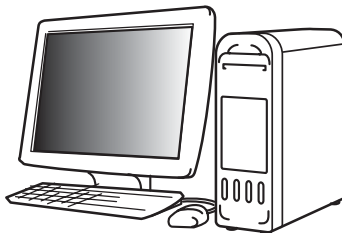
USB接続時のカメラの動作を選びます。

カードリーダー：　カメラとパソコンとを接続してカード内の画像をパソコンに取り込む場合は、[カードリーダー] に設定します。→ P.170〜

PictBridge：　PictBridge対応プリンターと接続してカード内の画像を印刷する場合は、[PictBridge] を選びます。→ P.188〜

SETUP → [4] → [USB接続] →【右側へ移動】→ [カードリーダー または PictBridge] → ● 実行

パソコンとの接続編

パソコンとカメラを付属のUSBケーブルで接続し、カメラ内の画像をパソコンに取り込む（コピーする）方法について説明しています。

● カメラとパソコンを接続して画像をパソコンに取り込む場合は、セットアップモードの［🔧4］タブの［USB接続］の設定を［カードリーダー］にしてください。→ 前ページ参照

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ(以下パソコン)をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のUSBケーブル USB-500をお使いください(USBマスストレージ対応)。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows®XP Professional / Home Edition、Windows®Me、Windows®2000 Professional、Windows®98 / 98 Second Edition がインストール済み	Mac OS 9.0～9.2.2、Mac OS X v.10.1.3～v.10.1.5、v.10.2.1～v.10.2.8、v.10.3 ～v.10.3.2 がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは本体に標準装備されたポートのみをサポートします。ハブ経由で接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 上記環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報(互換性情報)については、弊社ホームページ(コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト)をご覧いただくか、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

http://ca.konicaminolta.jp/

0570-007111 (日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけます)

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows®XP/Me/2000 Professional の場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.172～

- USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード(12Mbps)でのデータ転送となります。ハイスピードモード(480Mbps)には対応していません。

USB接続の動作環境（続き）

Windows®98/98 Second Edition の場合

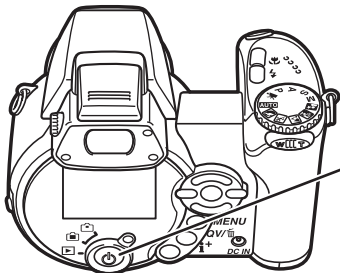
付属のディマージュビューアCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→ P.182
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→ P.172〜

- USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

Apple Macintosh の場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.172〜

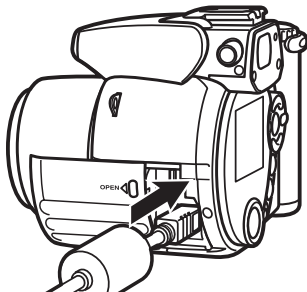
- USB 2.0対応機種に接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

パソコンに接続する（USB接続）

1. パソコンの電源を入れます。

2. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

- 撮影/再生切り替えダイヤルはどの位置でも構いません。

3. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

4. カードスロットふたを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。
- USBケーブルのコネクタがUSB端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の▶マークが液晶モニター側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際には179ページの指示にしたがってください。

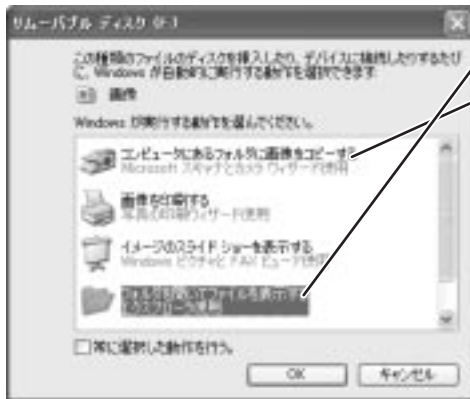
- USB接続中は、液晶モニターに が現れます。

- USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると自動的にカメラがOFFになります（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は自動的にカメラがOFFになることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→ P.179
- Windows®98/98 Second Edition 使用時に、接続後 [新しいハードウェアの追加ウィザード] の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合は182ページへ、すでにしている場合は185ページへ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルを含む）を、パソコンにコピーして保存します。

- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-1Lの使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
- カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なうことをおすすめします（→ P.128）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

Windows®XPの場合

1. [フォルダを開いてファイルを表示する]を選び、[OK] をクリックします。

- [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
- パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の [スタート] → [マイ コンピュータ] → [リムーバブルディスク] を開いてください。[リムーバブルディスク] が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。

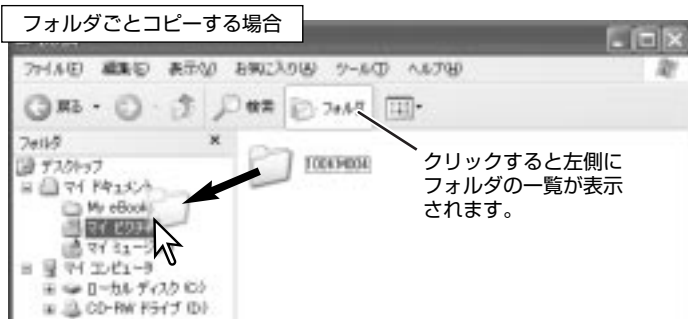
② [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクの後のアルファベット(左図の例ではF:)は、ご使用のパソコンによって異なります。
- [DCIM] 以外のフォルダ([MISC] 等)は削除しないでください。

③ [100KM004] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は [100KM004] です。カメラの操作で、別の名前のフォルダも表示されることがあります。
- フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

④保存したいフォルダ、または、ファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100KM004] 等のフォルダを、まるごと [マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

[100KM004] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

パソコンと接続

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する（続き）

ファイルごとにコピーする場合

クリックすると左側にフォルダの一覧が表示されます。

[PICT0001.JPG] を[マイ ピクチャ] にコピーする例

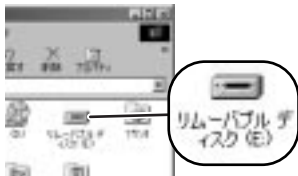
- 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

- コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows®2000/Me/98/98SEの場合

1. デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

- カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（右上の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は → P.185

2.「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

●「DCIM」フォルダが現れます。

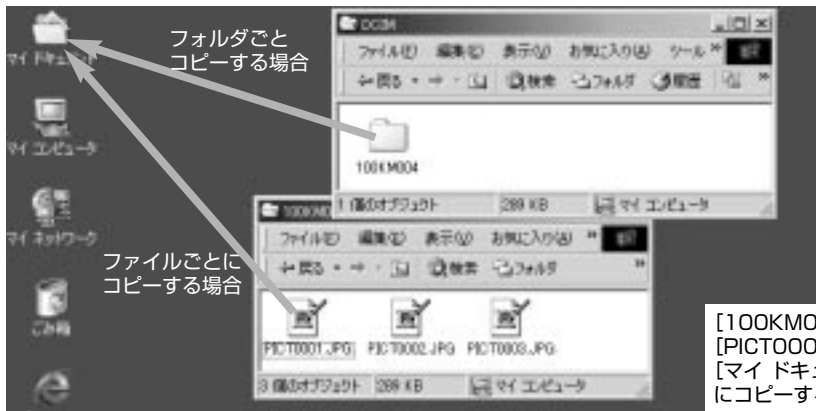
3. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

●その他のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

4. [100KM004] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は [100KM004] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。→ P.156

●フォルダを開けると [PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子（この場合は“.JPG”）が付く場合と付かない場合があります。

5. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

[100KM004]
[PICT0001.JPG] を
[マイ ドキュメント]
にコピーする例

- 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
- ［マイ ドキュメント］以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

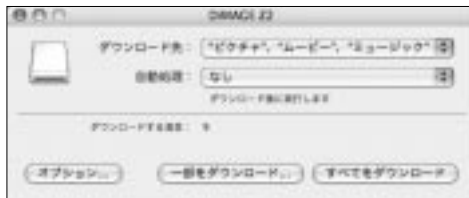
Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）

- 現れない場合は、Mac OSを再起動してください。

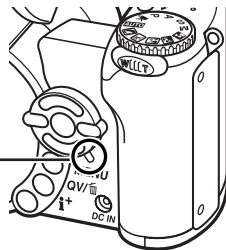
1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. 167ページの3.～5.の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

- ［マイ ドキュメント］の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

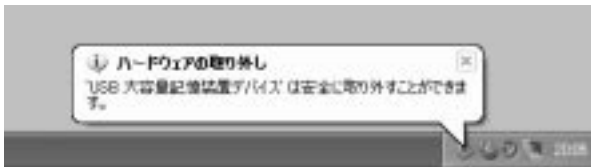
イメージキャプチャアプリケーションを利用する場合（Mac OS Xのみ）

Mac OS Xでは、カメラとパソコンを接続すると、左図のイメージキャプチャ（Image Capture）アプリケーションが起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、［一部をダウンロード...］または［すべてをダウンロード］をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは、Mac OSのヘルプ画面等をご覧ください。

接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

アクセスランプ

Windows®XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている [ハードウェアの安全な取り外し] または [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] のアイコンを左クリックします。

3. [USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）] または [USBディスクの停止] を左クリックします。
4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または [OK] をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。
6. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

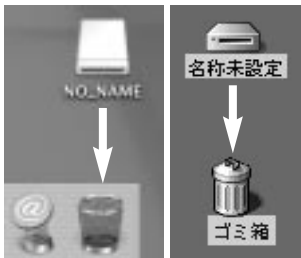
接続を解除する（続き）

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの**2.**で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して [停止] をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して [OK] をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、[OK] または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。

Windows®98 または 98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. USBケーブルを取り外します。
3. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. USBケーブルを取り外します。
4. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開く

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開きます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

●各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

このカメラで撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→ DiMAGE Viewer使用説明書参照

MOVファイル

動画撮影された画像で、最後に「.MOV」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→ P.205

●DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
●Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

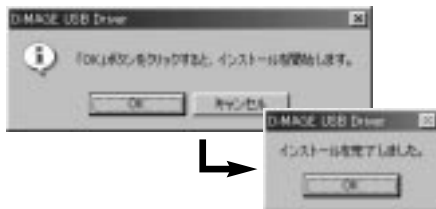
ドライバのインストール（Windows®98/98SEのみ）

Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

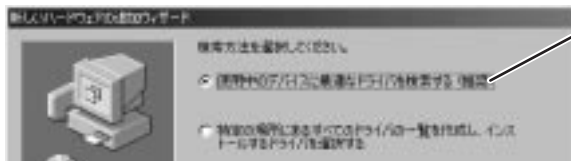
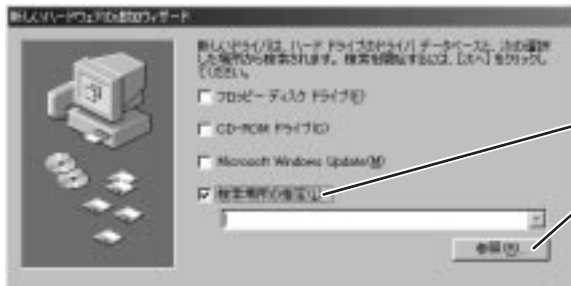
3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

● このカメラ（DiMAGE Z2）のWindows®98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows®98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE Z2のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE Z2のドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→ P.172～

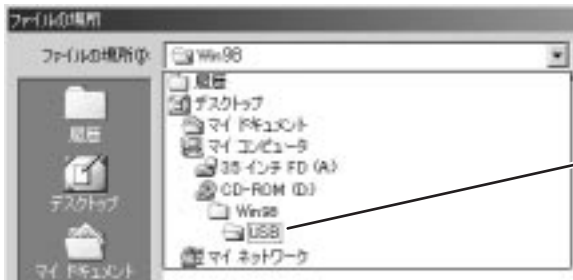
接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、P.172の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

次ページへ続く

ドライバのインストール（Windows®98/98SEのみ）（続き）

5. 検索場所を、[CD-ROM] – [Win98] – [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

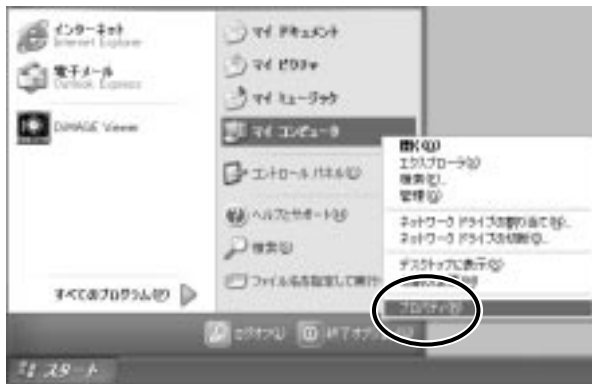
Windowsパソコンをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページ（コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト）も合わせてご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/
または、本書裏表紙に記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→ P.172

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

- Windows®XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
- Windows®Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows®XP

Windows®Me、2000、98、98SE

次ページへ続く

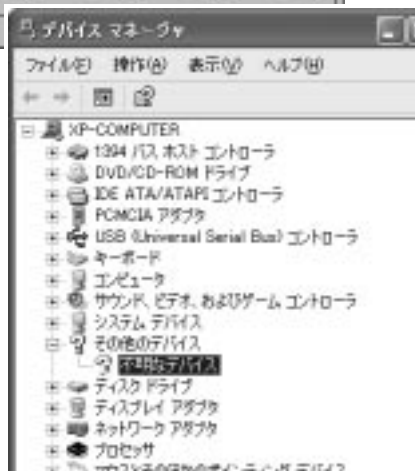
3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows®XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows®Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

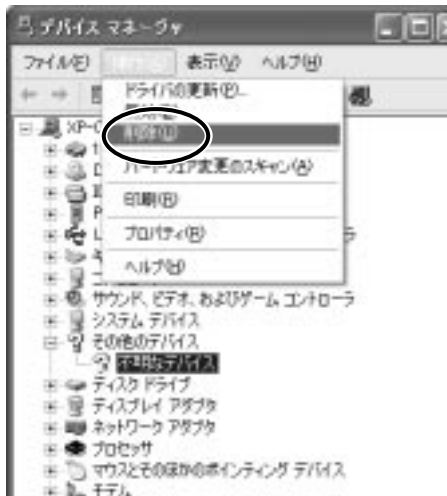
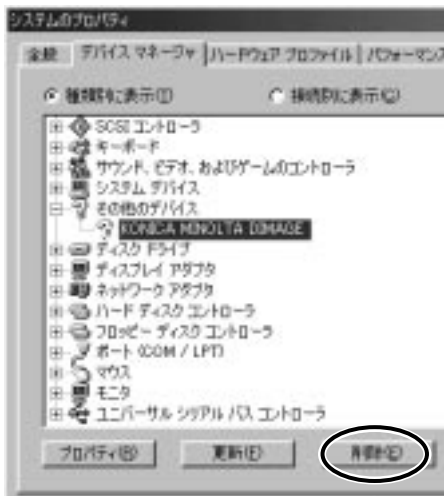
Windows®XP、2000

Windows®Me、98、98SE

4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

- 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
- カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
- 該当する項目が見つからない場合は、カメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5. 4で選んだ項目を削除します。

- Windows®XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows®Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows®XP、2000

Windows®Me、98、98SE

6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows®XP、2000、Meの場合は、この後162ページの要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows®98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（→ P.182）、その後再度USB接続を行ないます（→ P.172）。

プリンタで印刷編
その他

付属のUSBケーブルでカメラをPictBridge対応プリンタに接続し、カメラ内の画像を印刷する方法について説明しています。
また、取り扱い上の注意や手入れと保管のしかたなどについても説明しています。

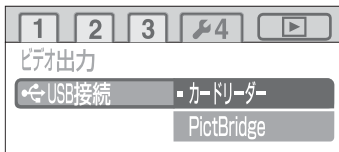
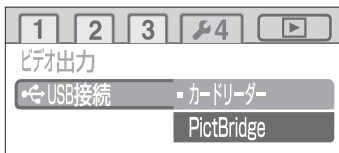
PictBridgeは、デジタルカメラとプリンタを直接接続して、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンを介さずに印刷するための規格の愛称です。
PictBridgeのロゴが表示された製品同士であれば、お互いの製造メーカーや機種が異なっていても、カメラ側からの簡単な操作で手軽にデジタルフォトプリントを楽しめます。

カメラとプリンタをつないで画像を印刷する

PictBridge対応のプリンタをお持ちの場合、カメラとプリンタを直接USBケーブルで接続してカメラに表示される画像を簡単にプリントできます。

カメラをPictBridgeモードにする

- PictBridge対応のプリンタと接続して画像のプリントを行なう場合は、以下に示す手順で、[USB接続] を **[PictBridge]** に設定してください。
- カメラとパソコンを接続してカメラ内の画像をパソコンへコピーする場合は、同様の手順で[USB接続] を **[カードリーダー]** に設定してください。→ P.169
- PictBridge対応のプリンタとカメラとを接続して画像をプリントする場合は、**「JPEG画質の静止画」**のみプリントできます。

1. セットアップメニューモードで、十字キーの左右で [4] タブを反転させます。

2. 十字キーの下キーで [USB接続] を選び、右キーで右側へ移動します。

3. 十字キーの下キーで [PictBridge] を選び、中央の実行ボタンを押します。

MENU

4. メニューボタンを押して、セットアップモードを終了します。

カメラとプリンタを接続する

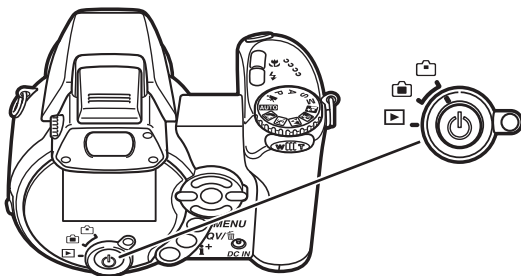
● プリントの途中でカメラの電池がなくなると、印刷（プリント）が中断されます。新品電池かフル充電した電池（ニッケル水素電池の場合）、または別売のACアダプターAC-1Lの使用をおすすめします。

1. プリンタの電源を入れます。

2. 用紙設定など、プリンタ側の設定を行ないます。

● 詳しい設定方法は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

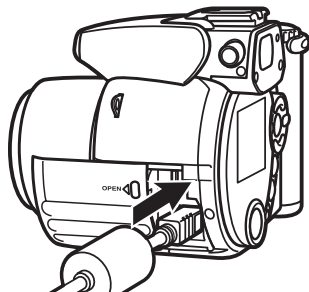
● 日付写し込み（→ P.163）付きの画像をプリントする場合は、二重写し込みを防ぐため、プリンタ側での日付写し込み設定は行なわないでください。

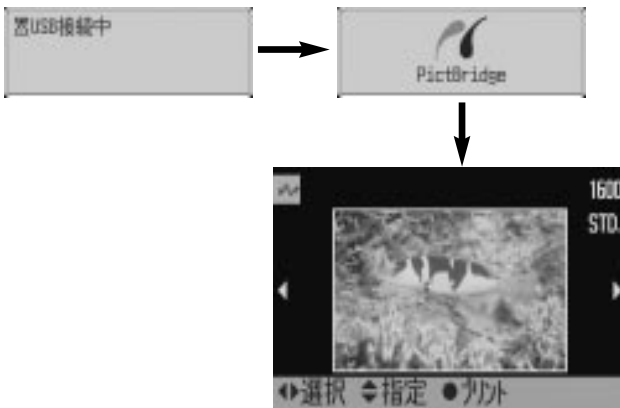
● **用紙サイズや印刷される画像のレイアウト、印刷の品質や画像といっしょに印刷される情報の種類は、ダイレクトプリントメニュー画面でカメラ側からも設定・変更できます。→ P.196、200**

3. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

● 撮影/再生切り替えダイヤルはどの位置でも構いません。

4. カメラに付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

● プリンタ内蔵のUSBポートに直接つないでください。USBハブ経由で接続すると正常に動作しない場合があります。

● 奥まで確実に差し込んでください。

5. カードスロットふたを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。USBケーブルのコネクタがUSB端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の▶マークが液晶モニター側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。
- 正しく接続されると、「USB接続中」「PictBridge」などのメッセージが現れた後、プリント初期画面になります。

プリント初期画面

表示中の画像1コマを印刷する

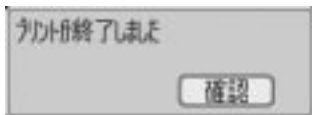
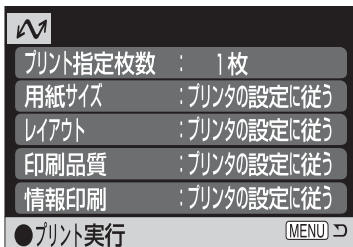
プリントしたい画像が表示されているときに十字キー中央の実行ボタンを押すと、印刷設定確認画面が表示されます。再度実行ボタンを押すと、表示されていた画像1コマが印刷されます。十字キーの上下で印刷枚数を設定できます。

1. 十字キーの左右でプリントしたい画像を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 印刷設定確認画面（左下図）が表示されます。
- 用紙サイズ、レイアウト、印刷品質、情報印刷についての詳細は、200ページをご覧ください。
- 十字キーの上下で枚数を指定できます（最大20枚まで）。上キーを押すと枚数が増え、下キーを押すと枚数が減ります。

2. もう一度実行ボタンを押して、プリントを開始します。

- プリント中は以下の画面が表示されます。

- プリントが終了したら左のメッセージが現れます。

3. 実行ボタンを押してプリントを終了します。

印刷するコマと枚数をあらかじめ指定してプリントする

印刷したい画像とその枚数をあらかじめ指定して、それらをまとめて一度にプリントします。画面左上に印刷合計枚数が表示されます。

1. 十字キーの左右で印刷したい画像を選びます。

- 印刷指定できないコマの場合は、左図の「プリンタマークのアイコンに斜め線が入ったマーク」が表示されます。

2. 十字キーの上下で印刷枚数を指定します。

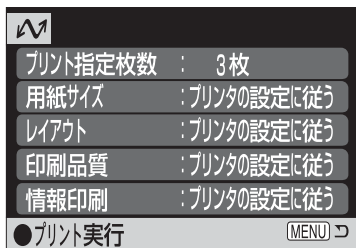
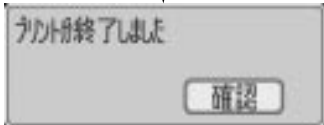
- 十字キーの上キーを押すと枚数が増え、下キーを押すと枚数が減ります。枚数は、1コマ当たり最大20枚まで指定できます。
- あるコマの枚数を指定し、十字キーの左右どちらかを押すと、画面左上にTotalと印刷合計枚数（左図の例では3）が表示されます。

3. 必要なだけ 1.と 2.の操作を繰り返します。

4. 印刷したい画像とその枚数をすべて指定し終えたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 印刷設定確認画面（左図）が表示されます。

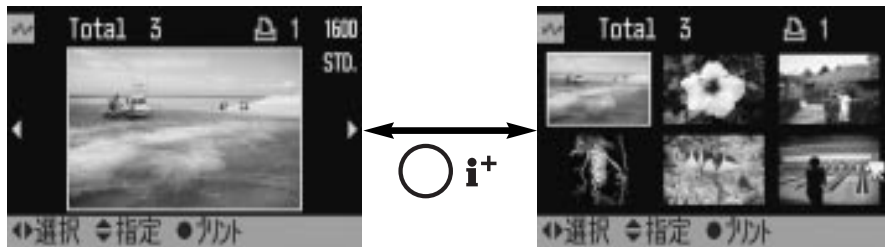
プリンタで印刷
その他

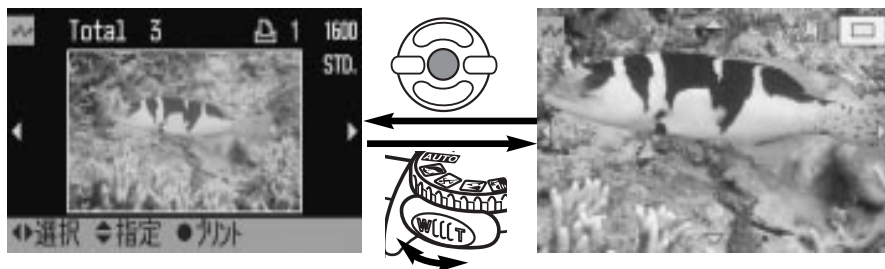
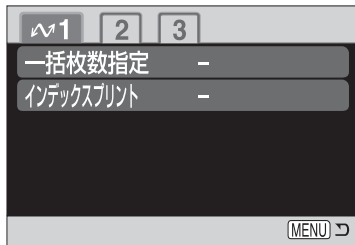
（次ページへ続く ☞）

5.もう一度実行ボタンを押して、プリントを開始します。

- プリント中は左図の『プリント中』の画面が表示されます。
- 指定枚数分の印刷が終了すると、「プリントが終了しました」の画面が現れます。

6.実行ボタンを押してプリントを終了します。

便利な使い方

●表示切り替えボタンを押すたびに、1コマ表示(左)とインデックス表示(右)とが切り替わります。

● 1コマ表示のときズームレバーを右に動かすと、画像が拡大再生されます。ズームレバーを左右に動かして拡大倍率を変更できます(→ P.119ページ)。
●拡大再生のとき十字キー中央の実行ボタンを押すと、もとの等倍表示にもどります。

プリンタで印刷
その他

ダイレクトプリントメニュー

ダイレクトプリントモード時（画面左上に が表示されているとき）にメニューボタンを押すと、以下に示す設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→ P.70

- お使いのプリンタによっては、選ぶことのできない設定もあります。

1	
一括枚数指定（→ P.197）	全コマ
	全コマ取り消し
インデックスプリント（→ P.199）	実行する

2	
用紙サイズ（→ P.200）	[プリンタの設定に従う]
	L
	はがき
	2L
	A4
種類（→ P.201）	[1]
	2
	3

※［　　　］で囲んだものは初期設定です。

2	
レイアウト（→ P.202）	[プリンタの設定に従う]
	フチなし1コマ/1枚
	1コマ/1枚
	2コマ/1枚
	4コマ/1枚
印刷品質（→ P.202）	[プリンタの設定に従う]
	FINE
情報印刷（→ P.202）	[プリンタの設定に従う]
	なし
	日付
	ファイル名
	日付+ファイル名

3	
DPOFプリント（→ P.203）	実行する

一括枚数指定

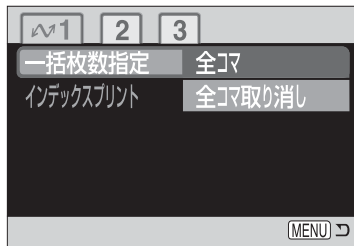
印刷(指定)可能なすべての画像の印刷枚数を一括して指定、および、一括して解除できます。

全コマ指定

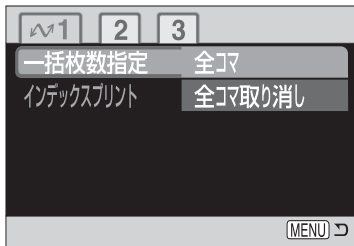
1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［ 1］→［一括枚数指定］から［全コマ］を選んで実行ボタンを押します。

- 枚数を指定する表示が現れます。
- 動画を除く静止画全コマの印刷枚数を指定できます。

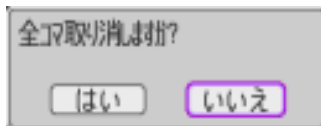
2. 十字キーの上下で枚数を設定し、実行ボタンを押します。

- 全コマに同じ印刷枚数が設定されます（最大 20枚）。

20コマ×2枚で、印刷合計枚数は40枚になります。

3. メニューボタンを押してダイレクトプリントの画面にもどります。

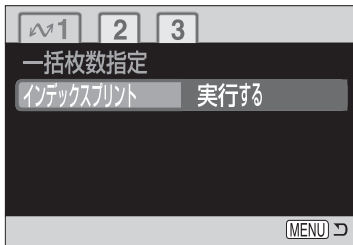
- 左図は、印刷(指定)可能な画像が全部で20コマあり、印刷枚数を2枚に一括指定した場合の画面です。

全コマ取り消し

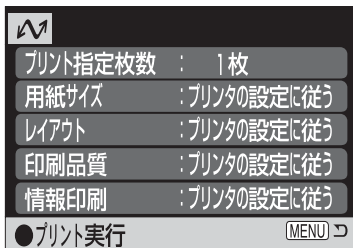
1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［1］→［一括枚数指定］から［全コマ取り消し］を選んで実行ボタンを押します。

● 以下の確認画面が現れます。

2. 十字キーの左キーで［はい］を選んで、実行ボタンを押します。

● 全コマの枚数指定が取り消されます。

インデックスプリント

カード内の全画像を、一度にまとめて印刷（インデックスプリント）できます。

1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［1］→［インデックスプリント］から［実行する］を選んで実行ボタンを押します。

● 印刷設定確認画面（左下図）が表示されます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、プリントを開始します。

● プリント中は以下の画面が表示されます。

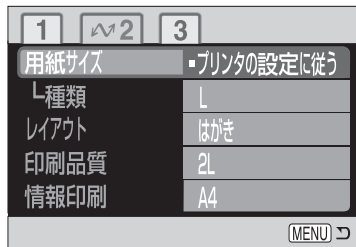
● インデックスプリントが終了すると、「プリントが終了しました」の画面が現れます。

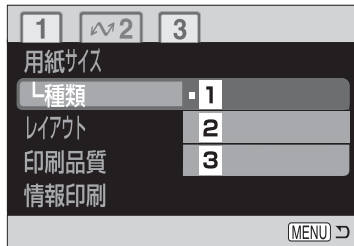
3. 十字キー中央の実行ボタンを押してプリントを終了します。

印刷設定

PictBridge採用のプリンタと接続時は、メニューの［ 2］画面で、カメラ側から用紙サイズ、レイアウト、印刷品質、情報印刷の各設定が行なえます。

- 接続しているプリンタによっては、カメラ側からの設定ができない項目もあります。
- プリンタ側で設定を行なう場合やプリンタ側で設定を変える場合は、［プリンタの設定に従う］を選んでください。
- **特に［用紙サイズ］については、このメニュー画面での設定と実際にプリンタにセットされている用紙とが異なることのないようにご注意ください。**

用紙サイズ

メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［ 2］→［用紙サイズ］から［希望の用紙サイズ］を選んで実行ボタンを押します。

種類（用紙サイズ）

このメニューで、表示される用紙サイズの選択肢を切り替えます。

メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［2］→［種類］から［希望の用紙サイズ選択肢］を選んで実行ボタンを押します。

1	主として、日本国内で用いられている選択肢（用紙サイズ）が表示されます。
2	主として、ヨーロッパで用いられている選択肢（用紙サイズ）が表示されます。
3	主として、北米で用いられている選択肢（用紙サイズ）が表示されます。

各種類で●の付いた用紙のサイズが、前ページ［用紙サイズ］の選択肢として表示されます。

用紙サイズ	種類			大きさ
	1	2	3	
プリンタの設定に従う	●	●	●	
L	●			89㎜×127㎜
はがき	●			100㎜×148㎜
2L	●	●		127㎜×178㎜
A4	●	●		210㎜×297㎜
Card size		●	●	54㎜×85.6㎜
100㎜×150㎜		●		100㎜×150㎜
4”×6”			●	101.6㎜×152.4㎜
8”×10”			●	203.2㎜×254㎜
Letter			●	216㎜×279.4㎜

レイアウト

メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［2］→［レイアウト］から［希望のレイアウト］を選んで実行ボタンを押します。

印刷品質

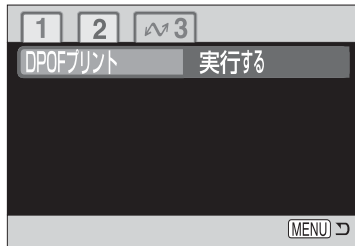
メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［2］→［印刷品質］から［希望の印刷品質］を選んで実行ボタンを押します。

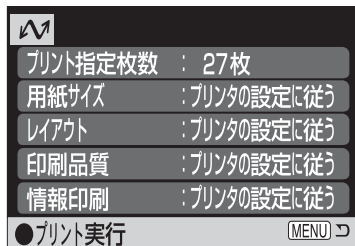
情報印刷

メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［2］→［情報印刷］から［画像といっしょに印字したい情報］を選んで実行ボタンを押します。

DPOFプリント

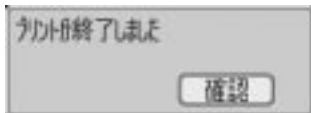
USBケーブルでカメラとプリンタを接続する前に、再生モードメニューでDPOF指定している場合、その内容にしたがって画像をプリントすることもできます。

- プリンタによっては、PictBridge接続でのDPOFプリントに対応していない機種があります。詳しくはプリンタに付属の取扱説明書等をご覧ください。

1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［3］→［DPOFプリント］から［実行する］を選んで実行ボタンを押します。

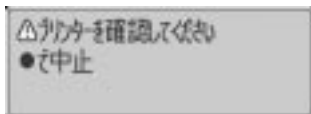
- 印刷設定確認画面（左下図）が表示されます。
- DPOF指定されていない場合は、このメニューは選べません。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- DPOF指定の内容にしたがって、印刷が開始されます。印刷中は左図の画面が表示されます。
- 印刷が終了すると、「プリントが終了しました」の画面が現れます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押してプリントを終了します。

カメラとプリンタをつないで画像を印刷する（続き）

プリントが終了しました
確認

● プリントが終了したら左のメッセージが現れます。十字キー中央の実行ボタンを押してプリントを終了してください。画像のプリントを終了するには、カメラとプリンタの電源を切って、USBケーブルを外してください。
● プリントが正常に終了すると、印刷の指定はすべて解除されます。

⚠プリンターを確認してください
●で中止

● 左のエラーメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできないことがあります。プリントできない場合は、インクの残量が残り少なくなっていないか、紙詰まりを起こしていないかなどプリンタ側を確認してください。プリントが再開されない場合は、十字キー中央の実行ボタンを押していったんプリントを中止してください。

プリントを中止しました

● プリント中や上記エラーメッセージ表示中に十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止され、左図のメッセージが現れます。
● 表示後しばらくすると左図のメッセージは自動的に消えて、印刷を実行した画面にもどります。印刷の指定は残っていますので、再度192ページからの要領でプリントを行なうことができます。

QuickTimeのインストールと使い方（Windows®のみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6 動作環境

- Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
- 128MB以上のメモリ（RAM）
- Windows®XP/Me/2000 Professional/98/98 Second Edition 各オペレーティングシステム

インストール方法

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. ［QuickTime インストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

- インストール途中に【インストール種類の選択】画面が現れますが、そこでは［基本的なインストール］を選択してください。［最小限のインストール］でインストールした場合、 DiMAGE Viewerでの動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の [スタート] から [プログラム (P)] → [QuickTime] → [QuickTime Player] を選択します。

2. [ファイル (F)] から [新規Playerでムービーを開く…(O)] を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、[開く] をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

Adobe Photoshop Album Mini（Windows®版のみ）

付属のDiMAGEビューアーCD-ROMをWindows®パソコンに入れると、Adobe Photoshop Album Mini をインストールすることができます。[Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動]をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

Adobe Photoshop Album Mini を使うと、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込み、手早く整理し、アルバムを作成したり、簡単な補正を行うことができます。また、インターネットに接続して弊社のオンラインラボサービスを利用することで、画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムに画像を保管することもできます。

弊社のオンラインラボホームページ http://onlinelab.jp/ へアクセスすることで、上記の他にもさまざまなサービスが楽しめます。どうぞご利用ください。
（弊社オンラインラボは、Windows®でもMacintoshでもご利用いただけます。）

PCカメラドライバ

付属のDiMAGEビューアーCD-ROMをWindows®パソコンに入れると、[DiMAGE PC cameraドライバ インストーラの起動] が現れます（上図参照）が、DiMAGE Z2ではこの機能は使用できません。

アクセサリー（別売）

ワイドコンバーターキット ZCW-100

このカメラのズームレンズは広角側は38㎜（35㎜フィルム換算）の画角をカバーしますが、ワイドコンバーターをレンズの前に装着することで28㎜（35㎜フィルム換算）相当の画角までカバーできます。
ワイドコンバーター本体、前キャップ、後キャップ、アダプターリング ZCA-100、ケース の5点セットになっています。

- カメラに取り付けるには、まずアダプターリング ZCA-100 をカメラのレンズ先端部に取り付け、そのアダプターリング先端の取り付けねじにワイドコンバーター本体を取り付けます。詳しくはワイドコンバーター ZCW-100 キットの使用説明書をご覧ください。
- ワイドコンバーターを取り付け、それを使用して撮影するときは、セットアップモードメニューの [🔧**1**] タブで [ワイドコンバーター] を [あり] に設定してください。→ P.154
- ワイドコンバーター装着時は、撮影にいくらか制約があります。詳しくはワイドコンバーターキット ZCW-100の使用説明書をご覧ください。

ACアダプター AC-1L、外部電源パック EBP-100

屋内など、家庭用AC電源が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。
また、AC電源が使えない場所で長時間の撮影を行なう場合は、外部電源パックがご使用になれます。
リチウムイオン電池 NP-100 を2個使用します。

- 接続するときは、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってから、DC電源入力端子にプラグを差し込みます（→P.21）。外すときもカメラの電源を切ってから外してください。

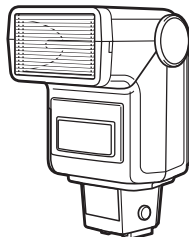
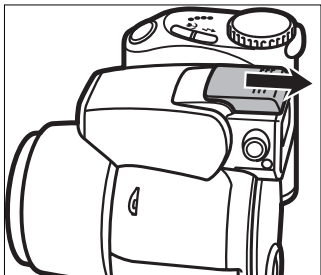
カメラケース CS-DG900

本機専用のカメラケースです。

本革ネックストラップ NS-DG1000

本革製のストラップです。

プログラムフラッシュ 5600HS(D)
プログラムフラッシュ 3600HS(D)
プログラムフラッシュ 2500(D)

内蔵フラッシュだけでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。カメラのオートロックアクセサリーシューに直接取り付けてご使用になれます。

プログラムフラッシュ
2500(D)

別売のフラッシュを使う際には、カメラのアクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

- プログラムフラッシュ5600HS(D)/3600HS(D)を取り付けた場合、フラッシュのオートズーム位置(照射角)はカメラの35㎜フィルム換算値の焦点距離よりもやや広角側に設定されます。フラッシュ背面の24㎜の表示またはランプが点滅したら、ワイドパネルの使用をおすすめします。マニュアルズームの場合は、やや広角側の照射角を設定してください。これらを考慮せずに撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。
- ワイドコンバーターを使用してフラッシュ撮影するときは、これら別売のプログラムフラッシュのご使用をおすすめします。カメラの内蔵フラッシュでは光が大きくさえぎられてしまいます。
- このカメラには、上記3種類以外のフラッシュを取り付けても発光しません。
- このカメラには、オフカメラケーブルなどのオフカメラ用アクセサリーは使用できません。

クローズアップディフューザー CD-1000

内蔵フラッシュで手軽にマクロ撮影をするときに便利です。内蔵フラッシュの前に拡散版を取り付けることにより、フラッシュの光をやわらげ、影を目立たせなくします。

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ページ
カードが入っていません	カードが入っていない	カードを入れてください。カードが入ってないと、撮影や再生はできません。	22
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、カードのライトプロテクトスイッチを上げてください。	22
このカードは使えません	カードをフォーマット(初期化)してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		128
日付/時刻を設定してください	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	左右のキーで[はい]を選び実行ボタンを押して、日付/時刻を再設定してください。	162
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
コマ指定がありません	消去や画像コピー等で「コマを指定」を選択したのに、対象のコマを指定せずに実行しようとした	十字キーでコマを指定してください。	—
ファイルを作成できません	①通し番号が"999"のフォルダにファイル名"PICT9999.jpg"または"PICT9999.mov"ファイルが存在している状態で、撮影した ②通し番号が"999"のフォルダがあるときに、新たにフォルダを作成する操作(フォルダ形式を変える、メール画像を作成する等)をした	必要なデータをパソコンや別のカード等にコピーした後、カードをフォーマットしてください。または、新しいカードと交換してください。	22 128 157 158 170

メッセージ	原因	対策	ページ
プロテクトされています	プロテクト（誤消去防止）をかけた画像を消去しようとしている	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから行なってください。	129
プリンタを確認してください	PictBridgeによる印刷で、用紙切れ等プリンタ側で問題が起こっている	プリンタの問題を解決してください。	204
サイズが大きすぎます	画像コピーで、内蔵メモリの容量以上の画像1枚を指定した	カメラとパソコンをUSBケーブルを使って接続し、パソコン経由でコピーするなどしてください。	136 172
画像が多すぎます　指定し直して下さい	画像コピー・メール画像作成で、内蔵メモリの容量以上の画像を一度に指定した	一度に指定する画像数を減らしてください。	136 147
電池がなくなりました	電池が切れた	新しい電池を入れる、ニッケル水素電池の場合は充電する、ACアダプターを使う、のいずれかを行なってください。	18 21
システムエラー	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ページ
撮影できない	電池が消耗している	電池を交換してください。	18
	カメラをパソコンまたはプリンタに接続している	パソコンやプリンタに接続している間は、撮影できません。	172 190
液晶モニター/ファインダーが真っ暗になる	レンズキャップをしている	レンズキャップを外してください。	17
	ウルトラハイスピード(UHS)連続撮影をした	撮影後、カードへの記録に時間がかかることがあります。記録中はアクセスランプが点灯します。	76
	カメラをテレビに接続している	テレビに接続中は液晶モニターやファインダーの表示は消灯します。	122
	約1分以上何も操作しないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。		20
液晶モニター/ファインダーが白黒になる	カラーモードでモノクロ(BW)を設定した	他のカラーモード(ナチュラルカラー、ビビッド)に変更してください。	101
シャッターが切れない	撮影/再生切り替えレバーが位置になっている	撮影/再生切り替えレバーを または 位置にしてください。	24
	電池容量が少なくなっている((赤色)が表示されている)	(赤色)が表示されたときは、UHS連続撮影、シャッターチャンスUHS連写、動画撮影はできません。	19
液晶モニター/ファインダーの色みが変わる	ホワイトバランスをAUTO以外に設定した(実際の照明とは異なる光源をプリセットで選んだ)	たとえば、晴れた屋外でプリセットの白熱灯に設定するなど、実際の照明とは異なる光源を選ぶと、色みが変わります。	86

症状	原因	対策	ページ
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（→ P.54）を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、または、手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）で撮影してください。	56 93
光学ズームが動かない	ワイドコンバーター［あり］に設定されている	ワイドコンバーターを取り外し、ワイドコンバーター［なし］に設定してください。	154
	動画モードメニューで、光学ズーム［なし］に設定した	光学ズーム［なし］に設定すると、動画撮影中の光学ズーム操作ができません。	109
	スーパーマクロモードになっている	マクロモードボタンを押して、スーパーマクロモードを解除してください。	38 39
000が表示され、シャッターが切れない	カードにデータがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、撮影した画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	81 83 123
シャッター速度と絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲またはシャッター速度や絞り値の範囲を超えている	明る過ぎるときは、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	—
Aモードでシャッター速度が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が白色で表示される範囲で絞り値を設定してください。	62 63
Sモードで絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が白色で表示される範囲でシャッター速度を設定してください。	64 65
Mモードでシャッター速度と絞り値が赤く表示される	設定したシャッター速度と絞り値では画像が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	66 67

症状	原因	対策	ページ
液晶モニターが暗くなる	①フラッシュONで、 ②シーンセレクターのスポーツで、 ③フォーカスモードが［オートフォーカス］で、 シャッターボタンを半押しした、または、 ①フラッシュONで、 ②P, A, S, M各モードで、 ③フォーカスモードが［コンティニュアスAF］で、 シャッターボタンを半押しした	仕様により液晶モニターが暗くなりますが、故障ではありません。そのまま撮影していただいても露出は正しくコントロールされます。フラッシュを押し下げて発光しないようにするか、P, A, S, M各モードの場合はフォーカスモードをワンショットAFまたはMF(マニュアルフォーカス)に切り替えても、この症状は解消されます。	58 91
シャッターボタン半押しでピントが合うが、すぐに少しだけピントがずれる	フォーカスモードが［コンティニュアスAF］で撮影している	そのまま撮影してください。ピントは正しくコントロールされます。 コンティニュアスAF時はシャッターボタンを半押ししている間中ピント合わせが続けられます。	91
再生や設定ができない	カメラがパソコンまたはプリンタに接続されている	パソコンやプリンタに接続されている間は、撮影や再生、カメラの設定はできません。	172 190
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	34 99
画像がブレている	暗いところでフラッシュを使用せずに撮影したため、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるときは三脚などにカメラを固定して撮影してください。フラッシュを使う方法もあります。	—

症状	原因	対策	ページ
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃してください。また、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	218
パソコンが（カメラ内の）カードを認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	185
日時が2004.1.1にリセットされる	カメラの電池が消耗したまま、または、カメラの電池を抜いたまま放置したため、日時の設定が失われた	カメラの電池を新品と交換して、日時を再設定してください。 頻繁にリセットされる場合は、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。	162
カメラが正常に動作しない	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店、または、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。また低温のために性能が低下した電池でも、室温に戻せば性能は回復します。
●いったん容量切れになった電池は必ず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

ニッケル水素電池の取り扱い上のご注意

●ニッケル水素電池の特性上、初めてお使いになるときや長期間放置後にお使いになるときは、最初は十分に充電が行われないことがあります。このような場合でも2～3回充電と使用を繰り返すと、本来の性能を発揮します。
●電池の両電極を乾いた布でよく拭き、汚れを取り除いてからご使用ください。汚れたままだと接触が悪くなり、新品電池でも電池がすぐに使えなくなる場合があります。
●ニッケル水素電池には「メモリー効果」と呼ばれる現象があり、十分に使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電完了後の容量が徐々に少なくなります。電池容量がなくなるまで使い切った後、充電を行なうことをおすすめします。
●電池は、4本を一緒に充電してください。また、このカメラで使用した電池はこのカメラ専用とされることをおすすめします。
●充電時間がかなり短い場合は、充電が不十分なことがあります。再度充電を行なってください。
●充電器に付属の取扱説明書も合わせてよくお読みください。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
●カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

SDメモリーカード、マルチメディアカードについて

● 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去（破壊）については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク、CD-ROM等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電池を抜いたり、ACアダプターを外したとき
4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき

● カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは、フォーマット前に必ずバックアップを取ってください。
● カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
● 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
● 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えたりしないでください。
● 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
● 端子部に手や金属で触れないでください。
● 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

● マルチメディアカード（MMC）は、 SDメモリーカードと比べて一般的に読み書きの速度が遅くなります。したがって、本カメラでマルチメディアカード（MMC）を使用すると、「カメラのアクセスランプが長時間点滅する」「動画の連続記録時間が短い」「動画がスムーズに再生されない」等の現象が起きることがありますが、故障ではありません。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される映像には影響ありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、室温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置したりしないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

● カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
● レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
● シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
● レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

● 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
● 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
● 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
● 保管中も時々電源を入れて、カメラを作動させてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

● 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
● 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

● 本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また、本製品の補修用性能部品は生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
● 本製品の修理に関しては、別紙「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

主な性能

有効画素数	約400万画素
撮像素子	1/2.5型総画素約420万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 50、100、200、400相当
画面アスペクト比	4:3
レンズ構成	7群11枚
焦点距離	6.3～63㎜（35㎜フィルム換算：38～380㎜相当）
開放絞り値	F2.8～F3.7
撮影距離	広角：0.5㍍～∞（レンズ先端から）　0.57㍍～∞（CCD面から） 望遠：2.0㍍～∞（レンズ先端から）　2.07㍍～∞（CCD面から） マクロモード時： 　広角：0.07㍍～1.0㍍（レンズ先端から）　0.14㍍～1.07㍍（CCD面から） 　望遠：1.2㍍～2.5㍍（レンズ先端から）　1.27㍍～2.57㍍（CCD面から） スーパーマクロモード時（焦点距離11.1㎜、35㎜フィルム換算：67.8㎜）： 　3㎝～100㎝（レンズ先端から）　10㎝～107㎝（CCD面から） 最大撮影倍率：0.15（35㎜フィルム換算で0.90倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：39㎜×28㎜
ズーム方式	電動ズーム
フォーカス方式	外光パッシブ方式と映像AF方式を併用のハイブリッドAF
AFエリア	ワイドフォーカスエリア／ローカルフォーカスエリア（フォーカスエリアセレクト機能）切り替え可能
フォーカス制御	ワンショットAF、コンティニュアスAF（動体予測機能あり）　フルタイムAF選択可能 マニュアルフォーカス切り替え可能
フォーカスロック	ワンショットAF時、シャッターボタン半押しで可能
ホワイトバランス	オート、プリセット（昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯、フラッシュ光）、カスタム設定
測光方式	多分割測光（256分割）、中央重点的平均測光、スポット測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用　シャッター速度：P/Aモード時 4～1/1000秒、AUTO/シーンセレクトモード時 2～1/1000秒、S/Mモード時 15～1/1000秒、タイム露光（最長30秒）
AEロック	シャッターボタン半押しでAEロック
露出モード	P、A、S、M
シーンセレクター	フルオート時：ポートレート、スポーツ、風景、夕景 任意設定時：ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景
露出補正	±2Ev（1/3Evステップ）

フラッシュ制御方式	P-TTL調光
フラッシュモード	AUTO/P/シーンセレクトモード時：自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、スローシンクロ A/S/Mモード時：強制発光、赤目軽減強制発光、スローシンクロ
フラッシュ連動距離	広角：約0.23〜6.0メートル、望遠：約1.2〜4.5メートル（CCD面から、撮影感度AUTO時）
充電時間	約5秒
調光補正	±2Ev（1/3Evステップ）
外付けフラッシュ	プログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）、2500（D）使用可
ファインダー形式	電子ビューファインダー
ファインダー視野率	約98%　視度調整可（-3〜+1 m^{-1}）
アイポイント	18.8㎜（保護ガラス面より）
A/D変換bit数	10 bit
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、Motion JPEG（MOV）（音声付き） DCF 2.0準拠　DPOF（Ver.1.1）のプリント機能対応　Exif 2.21
記録フォルダ形式	標準形式、日付形式
Exif Print	対応
PRINT Image Matching II	対応
記録画素数	2272×1704、1600×1200、1280×960、640×480 UHS連続撮影時、シャッターチャンスUHS連続撮影時：1280×960固定
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン
カラーモード	ナチュラルカラー、ビビッドカラー、モノクロ、セピア
シャープネス	3段階調整可能
コントラスト	3段階調整可能
ノイズリダクション機能	あり／なし選択可能
キーカスタマイズ機能	あり
（主な）Exif Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
消去機能	あり（1コマ/全コマ/指定コマ）　クイックビュー（撮影モード）時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ/全コマ/指定コマ）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	あり
液晶モニター	3.8㎝（1.5型）低温ポリシリコンTFTカラー　モニター画素数：約11.3万画素　視野率：約100%　モニター自動感度アップ機能あり　反射防止コーティング

連続撮影	連続撮影：ワンショットAF時 約2.5コマ/秒　コンティニュアスAF時 約1.5コマ/秒 ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影：約10コマ/秒
シャッターチャンス連続撮影	連続撮影時：約2.3コマ/秒　可能コマ数：5コマ ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影時：約10コマ/秒　可能コマ数：12コマ
セルフタイマー	約10秒
連続ブラケット	露出ずらし量：0.3Ev、0.5Ev、1.0Ev　枚数：3枚
動画	ファイル形式：Motion JPEG（MOV）　記録画素数：800×600、640×480、320×240、160×120　フレームレート：30フレーム/秒、15フレーム/秒 録画時間：記録媒体の容量を限度に録画可能　撮影中の光学ズームのあり/なし選択可能　撮影中のAFのあり/なし/マニュアルフォーカス選択可能　音声付き（モノラル） 再生時音量調節可能、早送り巻き戻し可能、動画の一時停止時に画像のコマ送り可能、セレクトショット（静止画書き出し）機能あり、動画編集機能あり、ナイトムービー機能あり（ON/OFF選択可能）
デジタルズーム	1.1倍から4.0倍まで0.1倍刻み
画像コピー	あり
メール画像作成	あり　640×480 または 160×120にリサイズ
操作音	操作音2種類、AF音2種類、シャッター音2種類、音量調節可能
使用電池	単3形アルカリ乾電池 または 単3形ニッケル水素電池　4本 外部電源パック EBP-100使用可
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約300分（付属の単3形アルカリ乾電池使用時）
撮影可能コマ数	約250コマ　CIPA*準拠（付属の単3形アルカリ電池、付属のSDメモリーカード使用） *CIPA：カメラ映像機器工業会
PC用インターフェース	USB（USB 2.0対応機器に接続時、フルスピードモード（12Mbps）でデータ転送可）
PictBridge	対応
AV出力	NTSC/PAL切り替え可能
大きさ	109.5（幅）× 77.5（高さ）× 80.0（奥行き）㎜
質量（重さ）	約305グラム（電池、記録メディア別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

ま

や

ら

わ

数字・アルファベット

コニカミノルタ カメラ株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、以下コニカミノルタカメラ統合ポータルサイトをご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 06-6532-6205
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 06-6532-6252

受付時間 10:00～18:00(日・祝日定休)

0-43325-53313-6

1AG6P1P2026--
9223-2725-61 SY-A402